

令和6年度

(2024年度)

事業報告書

社会福祉法人 北星会

【年度統括】

令和6年度は、3年毎に見直される介護報酬改定（介護保険制度改正）が実施された年度であり、その内容は介護職員の処遇改善が0.98%、その他が0.61%の合計1.59%の報酬引き上げとなりました。

そのような中、北星会各施設・事業所でも、報酬改定により新設された各種加算を可能な限り算定できるよう、対応と整備を行ってきました。特に今年度から新設された生産性向上のための取り組みは、国が示したガイドラインに基づき、業務改善活動の体制構築（委員会やプロジェクトチームの設置）と現場での課題の見える化、また、介護ロボットやICTインフラ等のテクノロジー機器の活用、更には業務内容の明確化と役割分担など、可能な限りの対応をすることで必要な加算算定を行いました。

職場環境改善に係る内容が大きく見直される一方で、現場の介護職員を中心とした人員確保については、ここ数年で最も厳しい状況となり、令和6年度の正規職員の採用者数は新卒採用を含めて5名と少なく、必要な職員の確保について課題を残す結果となりました。現場の介護スタッフについては、特定技能及び技能実習生等の外国人雇用を進めている法人も少なくなく、北星会も早急に検討していかななくてはならないと考えております。

令和6年度の収支につきましては、新型コロナウイルスによる収入減は回復傾向となり、移転後新しくスタートした与謝の園も安定した運営となったことから、法人の介護保険事業収入は前年度対比で105.5%と大きく増加しましたが、人件費については、職員1人当たりの給与額は増加しているにもかかわらず、人件費総額で前年度実績とほぼ同額となっており、ここでも職員不足を裏付ける結果となりました。

いくつかの不安材料を抱える中、将来に向けて安定した経営が継続されるよう、法人として初めての「北星会経営計画」の策定に取り掛かりました。現在における北星会の収支状況並びに財務状況を客観的数値に基づいて評価し、将来の年度収支計画を立てることで、今後の予算編成・財務管理の基礎にしたいと考えています。

令和7年度は、これらの課題を克服し、安定した職員体制のもと、更なる経営基盤の強化と地域福祉の発展に貢献して行きたいと考えております。

【重点目標への取り組み】

令和6年度基本目標、重点項目への取り組みと進捗

基本方針	重点項目	年度目標	進捗
① 誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献します。	ア. 介護ロボットやICT機器活用による施設環境整備	介護ロボットやICT機器導入により利用者の意思を尊重した環境整備をめざします。	なぎさ苑に睡眠状態を把握するベッドセンサーシステム及びICT機器を導入することで、法人全施設の環境整備を完了しました。

		テレビ電話装置等を活用し、他事業所とも連携したモニタリング実施をめざします。	テレビ電話装置等の活用までには至らず、今後の検討課題となりました。
イ. 提供サービスの質の向上		サービス自主点検や利用者アンケートなどを行い、サービス向上に努めます。	各事業所によるアンケート調査（満足度調査）を実施し、サービス向上に結びました。
		eラーニング等利用した研修機会を確保することで、職員の資質向上をはかります。	eラーニングにより、職員毎の研修目標とテーマに応じた研修受講と振り返りに取り組みました。
		法人の情報公表を積極的に行います。	法人広報誌「きらめき」をはじめ、SNS など様々な媒体を通じた情報発信を行いました。
	ウ. 認知症ケアの実践	職員が認知症の方の尊厳や個性を尊重し、正しい知識と倫理観を持ってチームケアを実践します。	施設内外の研修により、正しい知識と技能を用いて正しいケアが実践できるよう、各チームで取り組みました。
エ. 高齢者虐待防止の推進		ストレス対策を含む高齢者虐待防止に向けた取組を実施します。	高齢者虐待防止法を基本とした指針・マニュアルを基に、施設での委員会活動を通じて推進しました。
オ. 医療連携		協力医療機関との連携体制を強化します。	施設単位で結んでいた協力医療機関との契約を法人との一括協定に変更し、更なる連携の強化を行いました。
		入院中に医療機関が作成したリハビリテーション実施計画等の内容を把握し、退院後も継続した支援を行います。	入院中のリハビリなどの計画は、退院後のプランでサービスに生かせるよう支援を行いました。

	カ. 感染症対応力の向上	医療機関との連携の下、施設内での感染者の療養や他の利用者への感染拡大防止につとめます。	感染状況に係る情報の共有を医療機関をはじめ、関係事業所間で迅速に行い、感染拡大防止に努めました。
	キ. 他法人との連携	地域で開催される会議への職員派遣や研修会への職員参加を促します。	地域ケア会議等の参加をはじめ、各種研修会における講師等の派遣を行いました。
		社会福祉協議会とも協議を行いつつ、近隣法人との連携検討をすすめます。	社会福祉法人同士が協働し連携を深めることを目的とした社会福祉法人との連携事業に参加することで、法人間の連携を行いました。
	ク. 地域との連携	これまで進めてきた地域連携の継続と拡大。	地元自治会との協定に基づいた住民参加による避難訓練を実施や近隣の清掃活動等、地域イベントへの積極的な参加を行いました。
		地域の避難施設としての役割を担い、施設のBCP対策にもつなげます。	各施設、福祉避難所としての役割を確認するとともに、BCPに基づいた訓練を実施しました。
		栗田のびのび放課後児童クラブの受託を継続し、働く両親を支えます。	利用希望に応じた柔軟な受け入れを実施することで、安定した事業運営を行いました。
		子ども第三の居場所の受託を検討します。	総合在宅支援天橋園の既存設備を利用し、宮津市の委託事業として、令和7年度秋の開設を目標に準備を行いました。
		オレンジカフェを受託運営し、高齢者の引きこもりを防止するとともに認知症の方やそのご家族の暮らしを支えます。	従来通り、各拠点においてそれぞれに地域での活動ができました。

		配食サービスを受託運営し、高齢単身世帯や老夫婦世帯の暮らしを支えます。	市から委託された配食サービスにより、高齢単身世帯や老夫婦世帯への支援を継続しました。
	ケ. みやづSDGsプラットフォーム事業、与謝野町SDGs基本計画への貢献	法人のSDGsの目標達成を目指すとともに、地域の課題解決に貢献します。	提供サービス、職場環境、雇用、労務等を通じて目標達成に向けて取り組みました。
② 地域の福祉ニーズに目を向け、新たな福祉サービスの創造に努めます。	コ. 共生型サービスの拡大	令和5年度に天橋の郷で開始した共生型サービスを他事業所でも開始できるようつとめます。	天橋の郷での利用を開始し、与謝の園での開設検討を行いました。
	サ. 軽度者を対象としたサービスの提供	居宅介護支援事業所において、市町村から指定を受けて介護予防支援開始をめざします。	市町等との契約に基づき介護予防プランの作成を実施しました。
		フレイル等の予防を意識した事業を実施します。	介護予防・総合在宅支援総合事業でフレイル予防に沿ったプランの検討を行いました。
	シ. 障害者総合支援法による事業の検討	就労継続支援事業の運営について検討を行います。	就労継続支援事業の検討を行いました。具体的な計画は次年度に持ち越しとなりました。
③ 北星会の職員が感謝の念と謙虚な気持ちを持ち、誇りと喜びをもって仕事に取り組むことにより、自己実現を果たせる職場環境をめざします。	ス. 職員全員が基本理念を理解して業務に取り組む	法人理念の理解を深めるため、法人設立記念日（職員総会）を継続して開催します。	例年同様、オンラインで全職員が視聴可能とした職員総会を実施しました。
	セ. 業務改善の推進	介護ロボットやICT機器導入による業務改善をすすめ、職員の業務負担の軽減をすすめます。	なぎさ苑での導入により、法人全施設の環境整備を完了、更なる業務負担の軽減を進めました。
		週休3日制度について検討をおこないます。	十分な職員体制が整わない事もあり、検討することができませんでした。

	ソ. タスクシフティング（業務細分化）促進	業務の分化により、職員の負担軽減と未経験者等の採用促進につなげます。	介護業務を細分化し、介護員とは別に介護補助員の雇用を進めました。
	タ. 人事考課方法の変更	人事考課方法の変更により、客観的な評価の実施と職員のモチベーション向上をめざします。	法人独自の人事考課制度を試験導入し、実用に向けての検討を行いました。
	チ. 天橋の郷の施設大規模改修	天橋の郷の大規模修繕を開始します。	北星会経営計画において、天橋の郷をはじめとする各施設の大規模修繕計画を検討しました。
	ツ. 事業運営継続と雇用の安定	旧与謝の園の解体と新与謝の園での運営安定化。	新与謝の園は安定した運営を行うことができましたが、旧施設の解体は与謝野町と共同実施となったため、次年度に持ち越しとなりました。
		法人本部において法人全事業の実績及び資金収支管理をおこないます。	各施設・事業所の業務実績及び収支実績を法人本部が把握し、月例の施設長会議で報告しました。

法人本部 事業報告

【令和6年度 法人本部事業統括】

令和6年度は、今後の法人運営の効率化と安定化、更に職員のモチベーション向上を目的として、① 経理・財務業務の本部集中化に向けての準備、② 北星会経営計画の策定、③ 法人独自の人事考課制度の試験的導入を重点的に実施しました。

また、社会福祉法人は、地域において公共的な取組を実施する責務があることから、宮津市が推し進める「子ども第三の居場所づくり」事業について、当該事業を受託する方向で、宮津市と協力しながら準備・調整を行いました。

毎年の課題となっている介護人材の確保については、あらゆる媒体を駆使して職員採用につながるよう取組みましたが、ここ数年で最も厳しい状況となりました。

事務効率の向上、経営の安定化、安定した職員雇用と職員育成等、課題は山積していますが、1つ1つの課題に真摯に向き合っていくことで、確実に前に進めるようにしていきたいと考えております。

【重点目標への取り組み】

令和6年度 重点項目への取り組みと進捗

重点項目	取組と進捗
ア. 介護ロボットやICT機器活用による施設環境整備	なぎさ苑に睡眠状態を把握するベッドセンサーシステム及びICT機器を導入することで、法人全施設の環境整備を完了しました。
イ. 提供サービスの質の向上	利用者アンケートによるニーズの把握や、オンライン研修によるスキルアップにより、提供するサービスの質の向上を行いました。
ウ. 認知症ケアの実践	チームケアの推進により、更なる認知症ケアの向上を行いました。
エ. 高齢者虐待防止の推進	高齢者虐待防止法を基本とした指針・マニュアルを基に、施設での委員会活動を通じて推進しました。
オ. 医療連携	施設単位で対応してきた協力医療機関を、法人に一括して協定を結ぶことで、更なる連携の強化を行いました。

カ. 感染症対応力の向上	今までの感染対応を基本に、関係機関との情報共有を強化することで、対応力を向上しました。
キ. 他法人との連携	社会福祉法人同士が協働し連携を深めることを目的とした社会福祉法人との連携事業に参加することで、他法人との連携を強化しました。
ク. 地域との連携	法人所有の資源を広く提供することで、地域との繋がりを強化しました。
ケ. みやづSDGsプラットフォーム事業、与謝野町SDGs基本計画への貢献	提供サービス、職場環境、雇用、労務等を通じて目標達成に向けて取り組みました。
コ. 共生型サービスの拡大	天橋の郷での利用を開始し、与謝の園での開設検討を行いました。
サ. 軽度者を対象としたサービスの提供	介護予防・総合在宅支援総合事業を拡大するとともに、フレイル予防への取り組みを強化しました。
シ. 障害者総合支援法による事業の検討	就労継続支援事業の検討を行いましたが、具体的な計画は次年度に持ち越しとなりました。
ス. 職員全員が基本理念を理解して業務に取り組む	職員総会の開催で法人理念を再確認しました。
セ. 業務改善の推進	睡眠状態を把握するベッドセンサーシステムをなぎさ苑に導入することで、法人全施設での業務改善整備を完了しました。
ソ. タスクシフティング（業務細分化）促進	介護業務を細分化し、介護員とは別に介護補助員の雇用を進めました。
タ. 人事考課方法の変更	法人独自の人事考課制度を試験導入し、実用に向けての検討を行いました。
チ. 天橋の郷の施設大規模改修	北星会経営計画において、天橋の郷をはじめとする各施設の大規模修繕計画を検討しました。
ツ. 事業運営継続と雇用の安定	与謝の園が新施設での運営を開始したことで、今後安定した事業運営が期待できる反面、雇用の安定化には課題を残しました。

○ 総務課

令和6年度は、人事・労務・給与の安定した業務遂行と、前年度に導入した労務管理、勤怠管理のシステムを活用し、手続きの効率化を進めてきました。

労務管理システム（スマート HR）では、システムを活用しての年末調整は2年目になり、職員からの提出もスムーズに行われ、より効率的に進めることができました。

また、職員情報の入力を進め、保有資格情報や給与情報、異動履歴などをシステムより閲覧できるよう設定を行い、更なるシステムの活用を行いました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 労務管理における各種申請を労務管理システム（スマート HR）より電子申請ができるよう設定を追加し、各種申請業務の効率化を行いました。
- ② 勤怠管理システム（クロノス）を活用し、年休・時間外の集計表を行い、各拠点の年休取得推進、時間外勤務の削減等の効果や状況を確認し、情報共有を行いました。
- ③ 税務手続きの効率化を図るため、e-Tax および eL-tax を導入し、源泉所得税及び住民税の納付を開始しました。

2. 広報活動の充実

- ① 広報誌「きらめき」の年2回発刊と、直近の情報をお伝えできるよう、増刊号の発刊を2回行い、地域の方や求職者に法人の取り組みや魅力について広く知ってもらえるように努めました。
- ② 人材の獲得のための広報活動（ホームページ、インスタグラム等の SNS を活用した求人情報発信）を事業課とともに進めました。

3. 規則規程関係の整備

- ① 通勤手当額等、給与規程の一部改定および育児・介護休業法の改正に対応するため、規則の一部改定を行いました。
- ② 各拠点へ変更内容の周知を行い、規則綴りの更新管理を行いました。

4. 効率的な補助金請求や事務管理

生産性向上・人手不足対策事業費補助金等の手続きなど、拠点と協力し進めました。

5. きょうと福祉人材育成認証制度の上位認証法人としての取り組み

上位認証法人としての組織体制維持に努めました。また、きょうと福祉人材育成認証制度が行っている事例紹介冊子に北星会が掲載されました。

○財務課

令和6年度は、経理事務の本部統合に向けて、事務処理の一極化による経営効率化や費用対効果を含めた検討を行い、具体的な業務の集約準備を進めました。

また、毎月の収支・財務状況を拠点毎に把握するとともに、その内容を施設長会議で報告することで、他拠点も含めた情報を法人全体で共有する体制を継続し、経営基盤の強化に努めました。

1. 会計処理業務の見直し等

- ・令和５年度決算の精査及び令和６年度補正予算の試算、並びに令和７年度予算を作成しました。
- ・本部と各拠点が連携した業務集約化に向けて、作成した会計処理方法に係る経理事務マニュアルを実践しました。
- ・経理事務の本部統合として、法人一括による介護報酬請求事務及び法人全事業の資金収支管理の実施に向けて、必要な人員や本部・拠点それぞれの業務分担について協議し準備を行いました。

２．経営分析

- ・法人全体の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の計算と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ・各拠点の収支及び財務状況の把握・分析を行い、施設長会議で報告することで、経営状況の共有に努めました。
- ・法人全体の経営状態について、現状把握及び課題の抽出を行い、中期経営経計画（５か年計画）の策定に向けての資料作成を行いました。

３．情報開示

- ・法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、令和５年度決算の状況を開示しました。
- ・財務諸表等電子開示システムを通じて、令和５年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

○ 事業課

１．北星会における公益的な活動

公益的な取り組みにとして、高齢者だけでなく地域で生活する方の課題解決や交流機会の提供目的で昨年度より「おもちゃ図書館」を行っています。令和６年度延べ１３９組の親子が来園されました。６月には絵本の読み聞かせ、９月に腹話術を開催いたしました。１１月からは、子ども服のリユースも行い、多くの方に喜んでいただいております。

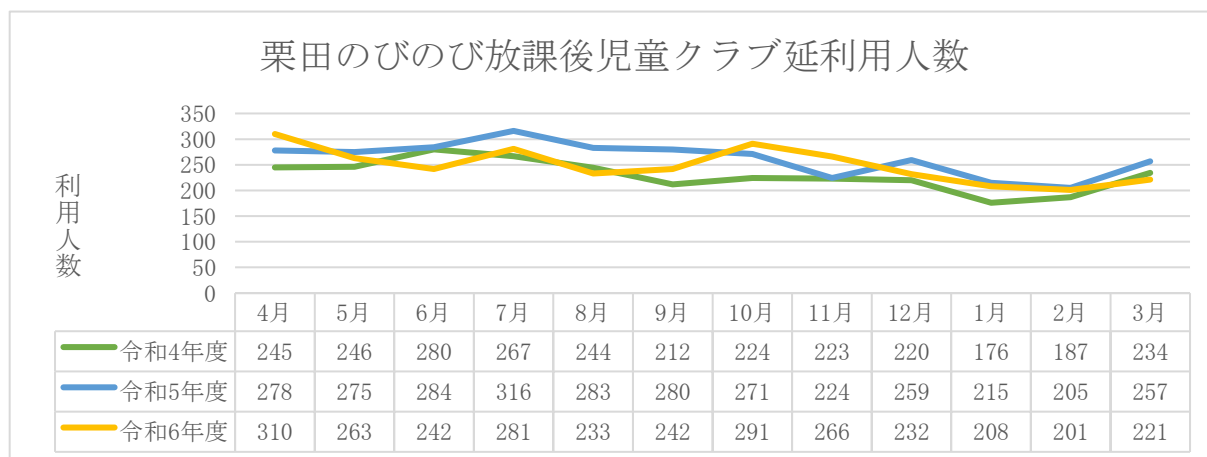
社会福祉協議会、他法人との連携に関しては、令和６年８月より社会福祉法人連携担当者会議に参加し、宮津市内の１０法人と定期的に連携する機会がありました。社会福祉協議会が行うボランティアセンター開設訓練に参加、宮津市社協主催のつながるフェスタに参加し連携を深めました。

２．栗田小学校放課後児童クラブ事業

令和６年度の栗田のびのび放課後児童クラブでは、利用児童数は令和５年度と比べて延べ人数で１５７人減少となりました。令和６年３月３１日の登録者は、１６名となります。天橋の郷通所介護ご利用者との交流会を行い、多世代が交流できる機会をつくりました。

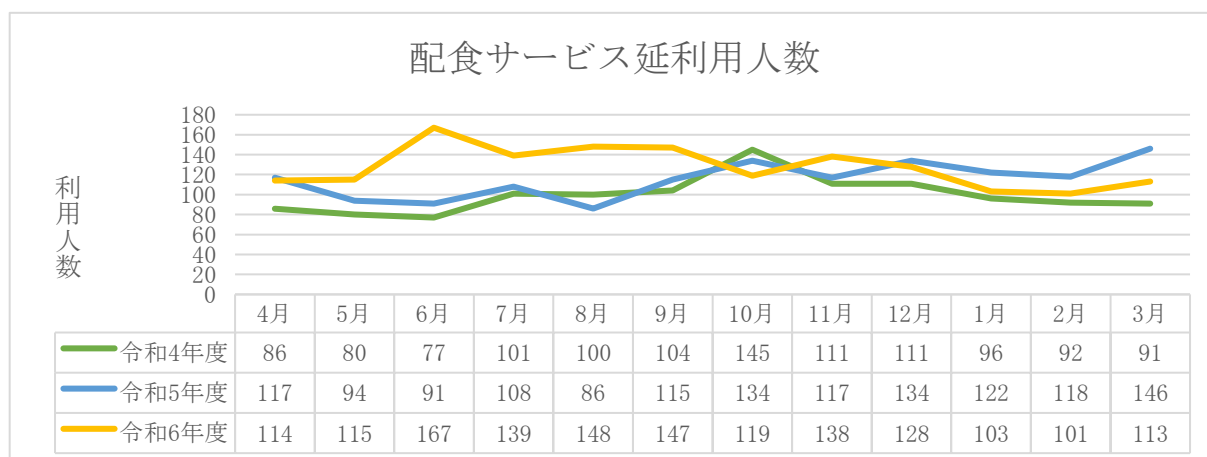
学年内訳

通年 1年生3名 2年生3名 3年生5名 4年生3名 5年生2名



3. 配食サービス事業

令和6年度の宮津市配食サービス事業は、令和5年度と比べて、150食増加しました。令和7年3月31日時点の登録者は、栗田地区12名、由良地区9名の合計21名となります。今後も継続して栗田、由良地区高齢者の食を支えていきます。



4. 北星会法人研修事業

令和6年度法人研修については、新入職員研修、フォローアップ研修を行いました。昨年行った若手職員交流会に引き続き中堅職員交流会の検討もしていましたが、どの拠点も職員の人員不足から難しいと判断しました。管理職員研修についても同様の理由で実施はできておりません。

5. 職員採用活動

令和6年度の北星会職員の採用活動については、法人全体で採用活動に参加する機会を作ることと考えておりましたが、職員の人員不足もあり、就職フェアへの参加協力のみとなりました。

○新卒職員採用実績

職 種	計 画	実 績
介護職	4 名	0 名

相談員	2 名	0 名
リハビリ職員	1 名	0 名
看護師	1 名	0 名
事務員	1 名	1 名
管理栄養士	1 名	0 名

※新卒職員採用に関しては、就職フェアの参加、就職ナビサイトを活用して求人活動を行いました。

○中途職員採用実績

職種	対応人数	見学	採用
介護職 (臨時職員含む)	22 名	11 名	4 名
看護師	9 名	3 名	3 名
調理	9 名	5 名	2 名
リハビリ	3 名	3 名	3 名 (2 名辞退)
管理栄養士	2 名	1 名	1 名
児童クラブ支援員	2 名	1 名	1 名
訪問介護	1 名	1 名	1 名
相談員	2 名	1 名	1 名

※中途職員採用に関しては、就職フェアの参加、ハローワークへの求人活動を行いました。

令和6年度 社会福祉法人北星会

総合在宅支援 天橋園 事業報告書

【年度統括】

令和6年度は、3年毎に見直される介護報酬改定（介護保険制度改正）が実施され、サービス提供内容をはじめ、職員の配置、設備の整備等、国の方針に沿うべく可能な限りの対応を行ってきました。

それまでのコロナ感染予防に対する様々な制限も緩和され、日常がコロナ禍前の状況に戻ることで、天橋園拠点の各サービス実績も徐々に回復傾向となる一方、事業所の職員不足が解消できない状況が続き、かつてない厳しい1年となりました。事業所の介護スタッフの不足に加えて、訪問介護事業所で必要となるサービス提供責任者の減員もあり、需要に応えられるだけの人員体制で臨めなかった事は、今後の大きな課題となりました。

各事業所での取組みは、介護保険制度の改正で必要となった「生産性向上」への取組をグループホームで実施したほか、職員研修については、前年度続きオンデマンド配信の研修システム（eラーニング）を活用し、各人の勤務スタイルに応じた研修を行うことで、それぞれのスキルアップを実施しました。また、認知症カフェの受託や認知症サポーター養成講座の開催等、地域での認知症理解向上の取組にも努めました。

天橋園拠点の収支状況は、訪問介護でのサービス提供責任者が減員となったこともあり、拠点全体の介護保険事業収入は前年度対比で99.1%と減収となる一方、人件費は前年度対比で92.9%となったことから、事業活動収支差額は前年度対比170.8%と大きく増加しましたが、これは厳しい人員不足の状況を表しており、早急な対策が必要であると考えております。

令和7年度は、人員確保等を確実に行之、職員体制を再構築した上で求められる地域ニーズに応えられるよう、職員一丸となって取組みたいと考えております。

【年度目標に対する成果】

中長期目標	今年度目標	成 果
1. 予防サービスを含めた包括的なサービスの提供	① フレイル予防を含めた新たなサービスの提供を提案します。	介護予防・日常生活支援総合事業の拡大と提供するサービスの充実を実施しました。
	② 地域ニーズの把握に努め良質で安全・安心なサービスの提供を実践します。	満足度調査を実施することで、利用者ニーズの把握を行い、利用者本位のサービス提供に努めました。
	③ 職員教育・研修を充実させ、さらなるサービス向上を目指します。	オンデマンド配信の研修システムの活用定着を図ることで、より効果的な職員教育を実施することができました。

2. 相互扶助を進める地域活動への取組	① 認知症ケアに対する理解をより多くの人々に広めます。	認知症オレンジカフェ（宮津市上宮津地区）や認知症サポーターキャラバンメイトでの出張講座（宮津小学校）などを通じて認知症ケアに対する理解を広める活動を行いました。
	② 福祉・介護に関する情報を常に発信します。	天橋園だよりや SNS を活用して様々な事業所情報・介護情報を発信しました。
	③ 地域住民との情報交流の機会を増やしていきます。	お祭りや幼稚園の園児による訪問など、可能な限りの活動を行うことができました。
3. 生産性の向上とスケールメリットを踏まえた事業展開	① 生産性向上委員会を設置し課題抽出・分析のもとサービスの質の確保と職員の負担軽減に努めます。	部署内会議の中で業務効率化に係る課題を抽出し、サービスの質の確保と職員の負担軽減に努めました。
	② ICT 等を更に推し進めることで得られたデータを有効に活用します。	睡眠状態を把握するベッドセンサーシステム及びインカムシステムを用いて、更なるデータ活用に努めました。
	③ 事業所間での他職種協働を組み入れた体制を構築します。	職員不足が続く状況の中、新しい体制の構築には至らず、次年度に持ち越しとなりました。
4. 地域の一部となるような施設づくり	① 事業所が所有する資源の有効活用を推し進めます。	災害時における福祉避難所の指定を受けており、有事における事業所資源の有効活用に対応しています。
	② おもちゃ図書館を通してすべての世代が交流できる場を提供します。	地域ボランティア団体とのバーンアート・腹話術、絵本の朗読など、様々なイベントを通じて交流の場を提供しました。
5. 安定した雇用と働き続けることのできる人材育成	① 新任職員研修・プリセプター制度の定着化に努めます。	新任職員に対する必要な研修は実施しましたが、プリセプター制度の定着化は達成できませんでした。
	② 個別計画に基づいた研修を実施し、職員それぞれのスキルアップに努めます。	各職員が個別の目標を立て、計画に基づいた研修（オンデマンド研修）を受講することで、個々のスキルアップに努めました。

【部門別事業報告】

1. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム天橋の家）

令和6年度は、職員の異動、退職による減員、また体調不良等による事業所スタッフの不足から、拠点内他事業所からの応援や非常勤職員の増員など、常にその対応に追われる業務展開となりました。また例年に比べると事故件数も増え、転倒による骨折での入院3名、看取り介護実施1名があり、それによる空床が目立ちましたが、年間の利用稼働率は98.8%となり、昨年度同様安定した稼働率を維持することができました。

サービスにつきましては、7月より平日の夕食および土日提供分の食事形態を「クックチル（急速冷却し低温で保存した調理食品を、提供時に再加熱する調理システム）」に変更することで、食事の運搬に要する時間の軽減、また調理しながら見守りも出来ることで、ご利用者との関わりの時間を増やすことができました。

面会につきましても、コロナ禍となり居室内での面会は実施していませんでしたが、近隣の感染状況を見ながら居室での面会を再開することで、ご家族からも喜びの声を多く聞く事ができました。

令和6年度の介護保険制度改定で追加された生産性向上の取り組みにつきましては、毎月の部署内会議の中で課題を抽出し、夜間帯の夜勤者の応援体制の強化・事故防止対策の強化を行えるよう、睡眠状態を把握するベッドセンサーシステム及びインカムシステムの導入を行いました。

令和7年度は、引き続き近隣の感染状況を考慮しつつ、ドライブや散歩・買い物など、外出の機会を増やし、コロナ禍以前の生活に近づけられるよう、職員一丸となりより良いサービス提供ができるよう努めてまいります。

①入居利用者の状況

（ア）稼働率（入居定員：18名）

区分 年度	営業日数	延入居者数	空きベッド数	平均入居者数/日	稼働率
5年度	366日	6,510人	78床	17.8人	98.8%
6年度	365日	6,508人	62床	17.8人	98.8%

（イ）入退所状況（3月31日時点）

区分 年度	新規入居者数	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転
5年度	4人	19人	4人	1人	0人	3人
6年度	2人	29人	2人	2人	0人	0人

（ウ）地区別 入居状況（3月31日時点）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
5年度	4人	0人	0人	0人
6年度	2人	0人	0人	0人

(エ) 要介護度別 入居者の状況 (3月31日時点)

(単位:人)

介護度 性別 年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5年度	0	6	0	3	1	6	0	2	0	0	1	17
6年度	0	3	0	5	0	7	1	2	0	0	1	17
平均要介	5年度		2.3		6年度		2.6					

(オ) 要介護度別 (延入居者数の状況)

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
5年度	1,784人	1,168人	2,759人	695人	104人	6,510人
6年度	1,474人	1,468人	2,756人	810人	0人	6,508人

(カ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	1人	3人	4人	1人
内 予防	0人	0人	0人	0人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	初期加算 (30)	医療連携 体制加算Ⅰ (37)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	協力医療機関 連携加算Ⅰ (100)	認知症専門 ケア加算Ⅰ (3)	看取り 介護加算Ⅰ (72)
算定延回数(回)	40	6,508	6,508	213	3,897	15
加算収入額(円)	12,000	2,407,960	1,431,760	213,000	116,910	10,800

加算項目	看取り 介護加算Ⅱ (144)	看取り 介護加算Ⅲ (680)	看取り 介護加算Ⅳ (1,280)	生産性向上推進 体制加算Ⅱ (10)	科学的介護推進 体制加算 (40)	入院時費用 (246)
算定延回数(回)	27	2	1	215	216	24
加算収入額(円)	38,880	13,600	12,800	21,500	86,400	59,040

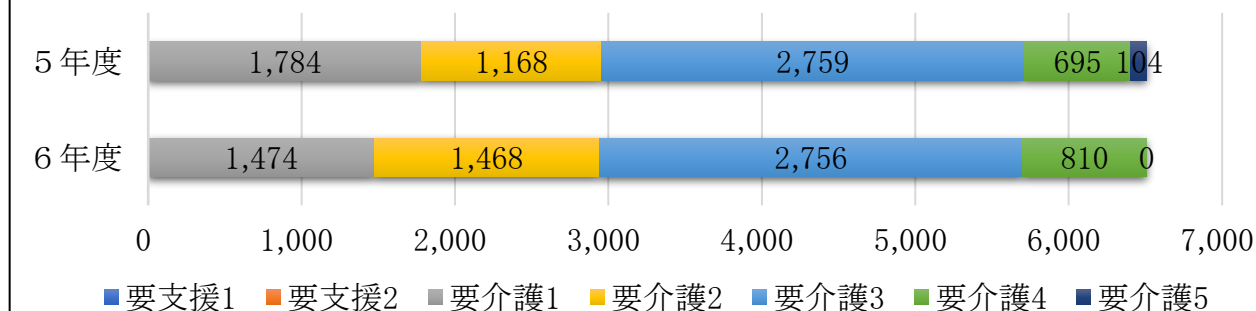
加算項目	処遇改善加算 Ⅰ等	加算収入額合計
算定延回数(回)	216	
加算収入額(円)	10,250,060	14,674,710

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算(Ⅰ～Ⅴ)として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

③その他の収入

項目 年度	家賃	食費 (おやつ代含む)	光熱水費	その他の収入合計
5年度	11,826,000	10,477,880	4,295,280	26,599,160
6年度	11,809,800	10,476,270	4,295,280	26,581,350

グループホーム 介護度別延べ利用状況



2. 通所介護（天橋園通所介護事業所）

令和6年度は、利用率向上を重点に置き、利用者の新規契約に向けての取り組みを行いました。

ご利用者自らしたいことを選べる「えらべるデイ」を中心に、事業所としての取り組みについて、ご利用者をはじめ、プランを作成している居宅介護支援事業所にも伝えるとともに、SNSを活用した事業所情報の更なる発信に努めました。

事業については、新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に引き下げられましたが、引き続き感染予防に努めるとともに、ご利用者・ご家族にもご協力いただいたおかげで、事業所内での流行を防ぐことができました。

職員研修についても、事業所内で実施した入浴介助研修、感染症・リスクマネジメント、高齢者虐待に関する研修、BCP（事業継続計画）研修を計画、自主的に行うことで職員各々の知識向上に努めました。

令和7年度は、引き続き事業所情報の発信に努めるとともに、様々な取り組みによってご利用者に「楽しい」・「また行きたい」と思ってもらえるようなデイサービスを目指し、職員一丸となって頑張っていきたいと思ひます。

① 利用実績

（ア）延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
5年度	25人	271日	4,596人	67.8%	1.86
6年度	25人	257日	4,592人	71.5%	1.81

※令和5年6月1日より土曜日の営業を休止。

（イ）要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未判定	小計
5年度	1,352人	1,747人	461人	348人	144人	0人	4,052人
6年度	1,769人	1,317人	414人	297人	259人	4人	4,060人

（ウ）要介護度別利用者数の状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2	小計
5年度	260人	284人	544人
6年度	206人	326人	532人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	19 人	31 人	24 人	25 人
内 予防	4 人	3 人	4 人	4 人

② 加算算定の状況 (通所介護)

(単位：回)

加算項目 回数 金額	個別機能訓練 加算Ⅰ1 (56)	個別機能訓練 加算Ⅰ2 (76)	入浴介助 加算Ⅰ (40)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	ADL 維持等 加算Ⅰ (30)
算定回数(回)	1,947	2,113	3,910	4,055	554
加算収入額(円)	1,090,320	1,605,880	1,564,000	892,100	166,200

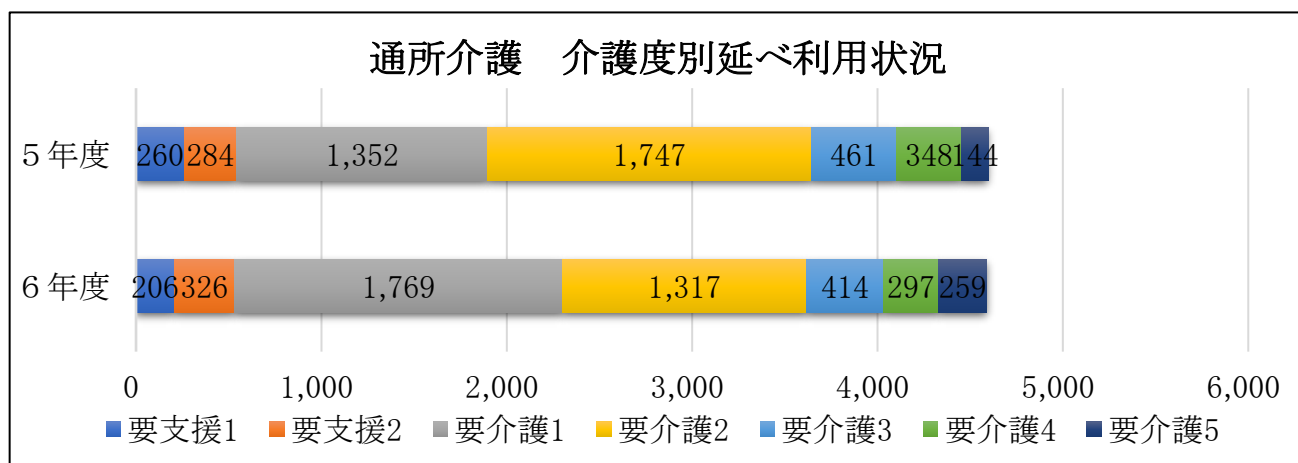
加算項目 回数 金額	科学的介護推進体 制加算(介護) (40)	処遇改善加算 Ⅰ等	加算収入額合計
算定回数(回)	557	557	
加算収入額(円)	222,800	3,318,830	8,860,130

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算(Ⅰ～Ⅴ)として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

※

(予防通所)

加算項目 回数 金額	サービス提供 体制加算Ⅱ1 (88)	サービス提供 体制加算Ⅱ2 (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善加算 Ⅰ等	加算収入額合計
算定回数 (回)	53	60	113	113	
加算収入額(円)	46,640	105,600	45,200	297,670	495,110



3. 認知症対応型通所介護 (ハウゼ天橋通所介護事業所)

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられるように、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対して「買い物支援サービス」や「屋外活動支援サービス」の実施、ま

た利用時間を融通することでそれぞれの家庭の事情に対応した結果、ハウゼ天橋の利用を継続いただきました。

本年度から事業実施地域を宮津市南部地域から宮津市全域に広げ、中・軽度の認知症の方を中心とした事業活動にも取り組みました。

令和6度の利用実績は、前半は新規利用者の契約も少なく実績も伸びませんでした。8月以降、宮津市北部地域からの利用者が少しずつ増え始めたこともあり、徐々に回復していきました。11月には新規利用者が一気に増え目標数値を超える予定でしたが、1・2月はコロナの影響で低迷し、年間の1日平均利用率は10.0人に留まりました。

本年度も引き続き感染症対策に重点を置きつつ、認知症の方が地域で共生できるようご本人・ご家族を支援していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
5年度	12人	257日	2,415人	78.3%	2.57
6年度	12人	256日	2,572人	83.7%	2.64

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	548人	665人	591人	494人	117人	2,415人
6年度	442人	766人	691人	628人	45人	2,572人

(ウ) 介護度別利用者状況（介護予防）

介護度 年度	要支援1	要支援2	合計
5年度	0人	0人	0人
6年度	0人	0人	0人

(エ) 年度別（新規契約者数の状況）

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	18人	10人	10人	13人
内 予防	0人	0人	0人	0人

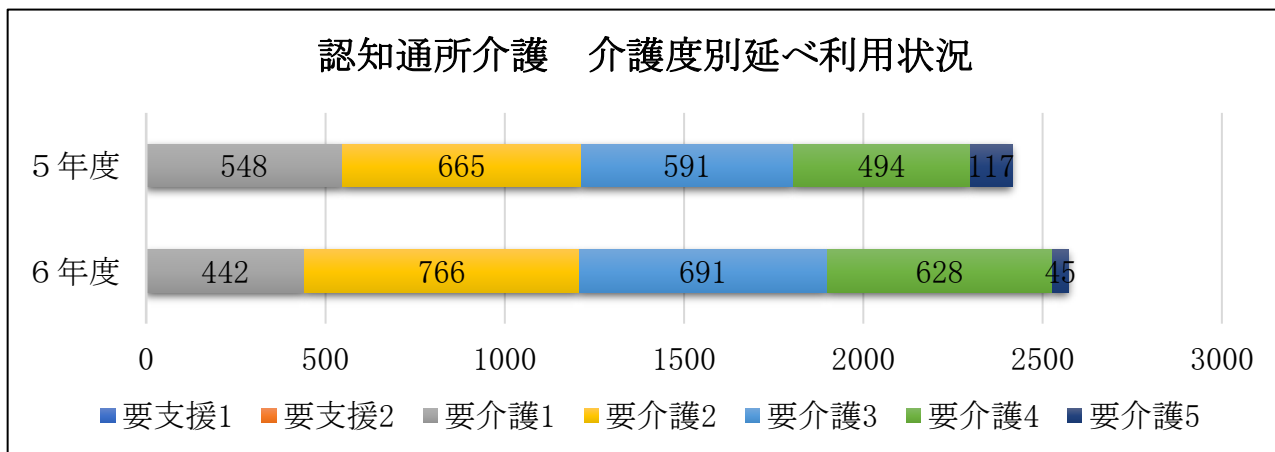
②加算算定件数の状況

（単位：回数）

加算項目 回数 金額	入浴介助 加算Ⅰ (40)	口腔機能向上 加算Ⅱ (160)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	ADL維持等 加算Ⅰ (30)	ADL維持等 加算Ⅱ (60)	科学的介護 推進体制加算 (40)
算定回数(回)	2,344	21	2,593	235	21	256
加算収入額(円)	937,600	33,600	570,460	70,500	12,600	102,400

加算項目 回数 金額	処遇改善加算 I 等	加算収入額合計
算定回数(回)	256	
加算収入額(円)	532,956	2,260,116

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（I～V）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



4. 訪問介護（天橋訪問介護事業所）

令和6年度の実績は、事業所のサービス提供責任者の減員により利用者数は減少、更には要介護度の高い方のご利用が減少したことで身体介護が減少、生活援助が全体の多くを占める結果となったことから、事業所の収入は大きく減少することとなりました。サービス種類ごとの延べ提供時間についてはほとんどのサービスが前年度を下回っている一方、排泄と食事準備を合わせた身体生活が前年度より上回る結果となりました。

サービスに関しては、常勤訪問介護員の減員等もあり提供体制が厳しくなる中、登録型非常勤ヘルパーの派遣により、追加訪問や新規依頼などの様々な要望にも迅速に対応してきました。

月一回の定例会では、eラーニング（オンデマンド配信の研修システム）を活用した研修を実施することで、各々の介護技術のレベルアップにつながり、ヘルパーとして必要なスキルの確認を行いました。また、奇数月の定例会では非常勤ヘルパーが希望する個別研修を実施することで、必要な指導や助言を行い、職員間の連携を図る事ができました。

常勤ヘルパーの不足、登録型非常勤ヘルパーの高齢化など解決すべき課題はありますが、ご利用者のニーズに応えられるよう、それらの課題を再度整理した上で職員全員が一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

①介護度別利用者数の状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者支援	合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
契約人数(人)	5年度	10	21	30	42	20	20	13	0	156
	6年度	8	14	25	28	9	8	7	0	99

介護予防(h)	5年度	1,460 時間 00 分	12%
	6年度	1,273 時間 00 分	14%
身体介護(h)	5年度	3,661 時間 00 分	31%
	6年度	2,788 時間 00 分	31%
生活援助(h)	5年度	5,825 時間 00 分	49%
	6年度	3,819 時間 00 分	42%
身体生活(h)	5年度	996 時間 00 分	8%
	6年度	1,219 時間 00 分	13%
合 計	5年度	11,942 時間 00 分	100%
	6年度	9,099 時間 00 分	100%

② 加算算定の状況（訪問介護）（単位：回）

加算項目 回数 金額	初回加算 (200)	処遇改善加算 I	加算収入額合計
算定回数(回)	43	907	
加算収入額(円)	86,000	6,520,750	6,606,750

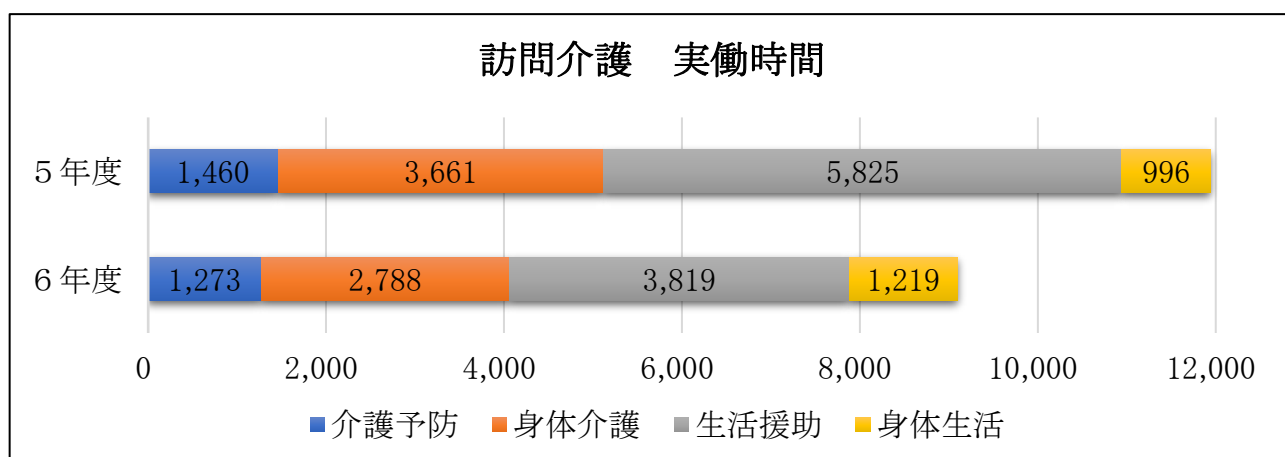
（介護予防）

加算項目 回数 金額	初回加算 (200)	処遇改善加算 I 等	加算収入額合計
算定回数(回)	9	265	
加算収入額(円)	18,000	892,480	910,480

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（I～V）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

③ 年度別（新規契約者数の状況）

	3 度実績	4 度実績	5 度実績	6 年度実績
新規契約	61 人	57 人	35 人	36 人
内 予防	12 人	15 人	12 人	10 人



5. 天橋園居宅介護支援事業所

介護や支援の必要なご利用者やご家族が望まれる生活が継続できるように、主治医をはじめ包括支援センターや病院、施設、在宅サービス事業所など、関係機関と連携を密にしながら支援してきました。

支援において地域や近隣の状況確認を行う中、感染症に関しても情報共有しましたが、罹患や感染拡大により、発症後数日間はサービス利用ができない事業所も多く、変更等の調整を行いながら、ご利用者やご家族、接触のあった他のご利用者の健康状態の聞き取り、観察、更には自分たちの健康管理にも努めました。

事業所間の連携については、令和5年度よりケアプランデータ連携システムの運用が開始、令和6年度後半からは北星会データシステム統合によりご利用者の情報共有が可能となることで、電話による連絡・報告前に利用状況等の確認ができ、迅速な対応・業務の効率化が図れるようになりました。

ケアプラン作成や給付管理の実績は、要介護から要支援認定となったご利用者も引き続き担当し、包括支援センターとの連携により新規利用者も受けてきましたが、身体状態悪化による入院や死亡、施設入所希望等により担当を外れるご利用者があったこと、また退職する職員の関係で新規受け入れを制限した期間もあり、利用実績は流動的になりました。

令和7年度は5名体制となりますが、専門職としての資質向上のため今後もそれぞれの目的や目標を持ち、研修や地域ケア会議、介護支援専門員研究会に参加し、迅速で丁寧な相談を引き続き行います。ご利用者やご家族との信頼関係を築きながら、その人らしい生活ができるように支援する事業所となるよう努力してまいります。

(ア) 内容別相談件数

(単位：件)

年度	内容	介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
5年度	実数	298	25	8	21	352
	延数	22,691	137	24	1,317	24,169
6年度	実数	269	25	8	35	337
	延数	22,254	118	14	1,715	24,101

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
5年度	2,453人	284件
6年度	2,545人	269件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	11人	108人	877人	770人	335人	246人	106人	2,453人
6年度	24人	83人	998人	785人	344人	207人	104人	2,545人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

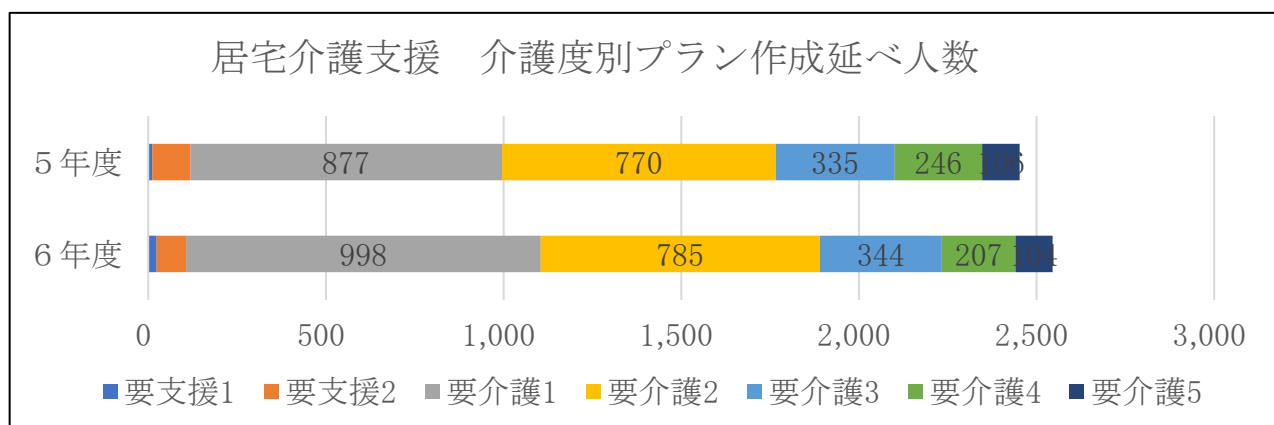
	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	62人	100人	81人	65人

(オ) 加算算定の状況（居宅介護支援）

(単位：回)

回数 金額	加算項目 初回加算 (300)	特定事業所 加算Ⅱ (421)	ターミナルケア マネジメント加算 (400)	入院時 情報連携加算Ⅰ (250)	入院時 情報連携加算Ⅱ (200)
算定回数(回)	73	2,438	10	51	26
加算収入額(円)	219,000	10,263,980	40,000	127,500	52,000

回数 金額	加算項目 退院退所加算 Ⅰ 1 (450)	退院退所加算 Ⅰ 2 (600)	通院時 情報連携加算 (50)	加算収入額合計
算定回数(回)	8	5	13	
加算収入額(円)	36,000	30,000	6,500	10,774,980



6. 事務

各事業所の毎月の収支・財務状況を把握し、的確に統括責任者および管理者に伝えることで、健全な事業所経営が行えるよう努めました。

事業運営については、各事業所との連絡調整を密にすることで情報共有を図るとともに、設備・備品に係る修繕・更新、職場環境の改善等、支障なくサービス提供が行えるよう努めました。

【おむつ等販売】

年度	項目 販売数（パック）
5年度	1,335
6年度	1,278

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月12日	52人	年1回
腰痛健診	9月12日・2月14日	35人・37人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月14日	8人	年1回
ストレスチェック	9月	32人	年1回

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
プライバシー保護（サクラボ）	4名	プライバシー保護の取組みに関する研修
認知症（サクラボ）	6名	認知症及び認知症ケアに関する研修（基礎）
倫理と法令遵守（サクラボ）	2名	倫理及び法令遵守に関する研修
精神ケア（サクラボ）	1名	精神障害に関する研修
感染症・食中毒予防（サクラボ）	3名	感染症・食中毒蔓延予防及び拡大防止に関する研修
精神ケア（サクラボ）	4名	人の心はわからない等
リスクマネジメント（サクラボ）	3名	リスクマネジメントの基本
安全衛生委員会内部研修	16名	「染め出し・ブラッシングの方法・歯間ブラシの使い方」歯科衛生士の講義
感染症委員会内部研修	14名	「適切な感染対策の必要性和その実践方法」サラヤ
不適切ケアについて	21名	不適切ケア寸劇・グループワーク
高齢者虐待防止に関する研修	21名	施設従事者のための高齢者・障害者虐待の予防

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
地域ケア会議	9名	（ひきこもりに対する連携支援・身寄りのない認知症高齢者の支援・マイホームミクス・看取り・介護サービスの支援内容特色について・個別会議の取り組みから見えた地域課題）
キャラバンメイト養成講座	3名	認知症サポーター養成講座運営方法等
宮津市介護支援専門員研究会	16名	市内事業所職員の事例検討及び情報交換
府老協デイ委員会	1名	
安全運転管理者講習会	1名	施設の安全運転管理
自立支援サポート会議	5名	50代高次脳機能障害、70代パーキンソン病患者の自立支援
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	1名	施設従事者のための高齢者・障害者虐待の予防等
難病従事者研修会	5名	神経難病患者の基本理解
介護給付適正化研修	5名	R6介護報酬改定 居宅介護支援を中心に
ケアコネクトベトナム視察研修	2名	現地施設視察、グループワーク
キャリアアップ初任者研修中堅職員研修	1名	中堅職員としての役割とキャリアアップについて
感染症予防対策研修会	1名	感染症予防対策
認知症対応型サービス事業管理者研修	1名	事業の管理者としての認知症高齢者に対する基本的な理解やケアの方法
生産性向上の取組の普及・拡大に向けた介護事業所向けセミナー	1名	介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について等
認知症介護実践者等養成研修リーダー研修	1名	認知症介護実践者研修の理解等
認知症介護実践者研修	1名	認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援

施設経営学セミナー	1 名	支援加算の取り方、稼ぎ方のポイント等
管理者向けメンタルヘルス研修	1 名	メンタルヘルスの現状等
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修	4 名	基本的なケアマネジメント他
ヤングケアラーと生活困窮者	2 名	ヤングケアラーと生活困窮者の対応事例
「適切なケアマネジメント」における、多職種との融合	2 名	・外科医の疑問・時代のとらえ方・適切なケアマネジメントとは・適切ケアと多職種との融合
2024 年度介護報酬改定運営指導対策	1 名	介護保険運営指導のポイント解説
介護 BCP 策定支援セミナー	6 名	作成した BCP を役立つものにするための机上訓練を解説

【地域貢献事業】

事 業 名	参加者数
宮津小学校認知症サポーター養成講座 12 月 18 日	125 名
オレンジカフェ囲炉裏茶や 全 8 回	90 名
はしたて一斉清掃 4 月・12 月	8 名

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
8. 9	京都暁星高等学校	8	福祉即戦力養成研修

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
アメンボ	朗読・紙芝居	12 回	216 名
腹話術	人形遊び手遊び	1 回	45 名

【各種会議・委員会開催状況】

会 議 名	開催回数／年
職員会議	2 回
業務運営会議	12 回
認知症委員会	11 回
虐待及び苦情対策委員会	12 回
安全衛生・感染症委員会	12 回＋ 臨時感染症 9 回
ヘルパー例会	12 回
運営推進会議	6 回
地域貢献 PR 委員会	13 回

令和6年度 社会福祉法人北星会

与謝の園 事業報告書

【年度統括】

与謝の園は、令和6年3月に桑飼小学校跡地に移転して1年が経過しました。令和7年2月17日には、KBS京都の『あったか京都』において施設を紹介いただき、多くの方々に知っていただく機会となりました。

与謝の園では年度当初に全職員が参加する会議において法人の基本理念に加え、安定した経営や利用者満足の上昇などの中長期計画と年度目標を確認しました。

通所介護事業所においてはご利用者からの要望に応え、地域の商店に協力を仰ぎつつ買い物訓練を積極的に取り入れ、利用者に喜んでいただくことができました。訪問介護及び訪問入浴介護ではサービス提供を増やすための準備を進めました。

居宅介護支援事業では近隣事業所の事業休止などがあり、休止される事業所から紹介があったご利用者を積極的に受け入れるよう努めました。

介護、看護等の多職種が常に情報を共有し、業務連携を行うことでサービスの質の向上と感染対策につなげることに努めた結果、入院による退居者はなく、病院等へ搬送しての死亡は2名。施設では18名の入居者を看取らせていただくことができました。施設での看取りは令和5年度よりも1名減となりましたが、特養がユニット型となったこともあり、介護保険収入は569,158千円（前年度比89,229千円増）となりました。

地域に信頼される施設づくりの一環として10月20日に与謝の園祭りを開催。高校生やそのご家族を含め地域の皆さんに施設をご利用いただくことができました。また、地域交流ホールにおいて毎月2回桑飼シルクカフェを開催、年間延べ236名の方にご参加いただき通所介護事業や訪問介護事業利用へとつながっております。

自然災害や感染症等の感染拡大防止では、避難訓練においてカメラやインカム等のICT機器を活用することで災害時の連絡、連携体制を強化。BCP対策では災害バルクを活用した炊き出し訓練や各部署感染対策研修と部署ごとに感染対策の実地訓練を実施いたしました。

旧与謝の園の解体は、年内に完了するよう本部の指示を仰ぎつつ及び与謝野町との協議を継続してまいります。

【年度目標に対する成果】

中長期目標	今年度目標	実績
1. 安定した経営基盤の確立を目指します。	・各種加算の積極的な算定により収入を確保し、稼働率の目標達成に向けた取り組みを強化しご利用者の増加を目指します。 ・共生サービスの導入の可能性を調査し、地域福祉の環境の整備や活性化を図ります。	・事務長、主任を中心に算定できる加算を把握し、算定漏れがないよう努めました。 ・令和6年度算定ができなかった加算については、その要因を明確にし、令和7年度には算定できるよう準備を行いました。 ・全職員に対し、共生型サービスの制度と取り組みを開始するための説明会を行い、令和7年度の事業計画としました。 ・24時間シートも利用し、入居者個々の思いや生活リズムを大切に支援することを心掛けました。

2. ご利用者の安全と安心を守りサービスの質の維持向上に努めご利用者満足度アップに繋がります。	・「入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた暮らし」をご本人の思いや希望に寄り添い実現します。	・インカムを利用して職員連携を強化、また、眠りスキャンやカメラを利用して入居者の個々の生活リズムを検証し、安全、安心に暮らしていただけるよう努めました。 ・食事は管理栄養士だけでなく調理師もミールラウンドを行い入居者個々に合わせた食事提供を心掛けました。
3. 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう支援します。	・介護、看護、専門職等多職種連携してご利用者本人の意思と権利を最大限に尊重し、安らかで、やさしさに包まれながら人生を全うしていただける環境の整備と介護を行います。	・全職員が看取り対応となられた入居者を把握できるよう連絡方法を工夫しました。専門職が中心にご家族との連絡調整を行うとともに、介護、看護、調理を含めた他職種が連携して看取りの環境整備を行いました。 ・毎月部署間連絡会議を開催し、職員間の意思疎通を図れるよう努めました。 ・ご利用者・ご家族との連携では、随時体調の変化を報告。その際意向を確認し希望に添えるよう努力しました。
4. 地域に信頼される施設づくりに努めます。	・入居者、ご利用者、ご家族及び地域の方々との交流を深めるためマルベリーホール（地域交流ホール）の活用を進めます。 ・桑飼シルクカフェをマルベリーホールで実施して、高齢者や地域の方が立ち寄りやすい環境を作ります。カフェの訪問活動を進め利用者の掘り起こしに努めます。	・マルベリーホールもご利用いただき入居者がご家族とゆっくり面会できるよう工夫しました。 ・与謝の園祭りでは、地域の高校生に歌やダンスを披露いただき、そのご家族にも施設を利用していただくことができました。 ・毎月2回、シルクカフェを開催。多くの方に施設を利用いただきました。シルクカフェご利用者から介護保険事業利用へとつなげることができました。 ・地域サロンの開催場所として、マルベリーホールをご利用いただきました。
5. 自然災害や感染症等の感染拡大防止に努めながら必要なサービスを継続する体制づくりに努めます。	・コロナ禍によって中止となった行事、外出、ご家族との面会、ボランティアの受け入れなど、新たな体制で提供します。 ・自然災害及び感染症業務継続計画に基づき研修と訓練を行います。 ・感染症の重症化リスクが高い高齢者等に対して介護保険サービスを安全かつ継続的に提供するため、さらには職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得し着実な感染対策を実践できるよう取り組みます。	・過去の新型コロナクラスター経験を活かし、日常の感染対策に注力するとともに、感染症発症時には早期に対策委員会を開催、情報の共有と対策について全職員に素早く周知するよう努めました。 ・毎日の朝礼時にご利用者や職員の感染状況を報告。情報共有と注意喚起とともに感染者対策の確認を行いました。 ・サービスの質の向上の為、ご利用者及びご家族を対象としたアンケートを実施、結果の報告とサービス改善に努めました。 ・職員が積極的に各種委員主催の施設内研修や施設外研修に参加できるよう努めました。 ・事務長を中心に生産性向上委員会を開催、BCP の策定及び見直しを行いました。 ・年間2回の避難訓練委加え、非常時の炊き出しを主とした BCP 訓練を2回行いました。
6. 職員が生き生きとやりがいを持って働ける職場づくりを目指します。	・ICT. 介護ロボット等の導入により、業務の省力化、介護現場の負担軽減に努め介護イメージの改善や人材確保、定着を進めます。また	・開設当初導入したインカムを利用することで業務効率化が図れたため、より多くの職員が利用できるよう増台しました。 ・転倒事故等が発生時、保存されている画像を確認して事故の発生原因を明確にすることで再発防止に努めました。 ・人事考課制度を利用し、職員個々が自らのキャリア形成について理解することにつながりました。

	導入に伴う職員の理解を深めるための教育の時間、導入による業務再構築の課題に取り組みます。 ・職員の組織力を強化するための情報共有の手順や方法について見直しを行います。情報共有システムの整備をすることにより、業務のレベル向上、ご利用者ご家族からの信頼の向上、職員一人ひとりの安心感の向上につなげ職場全体の組織力向上を目指します。	・毎日朝礼を開催し、行事予定やご利用者、職員の健康状況の確認、その他連絡を行い、情報の共有に努めました。 ・毎月1回、部署間連各会議を開催し、他職種協働のための詳細についてすり合わせを行いました。 ・日々の状況を SNS で報告することで、良い評価を得ることもでき、職員の自信にもつながりました。
7. 旧与謝の園の解体について。	・与謝野町との協議の上、旧与謝の園の解体に着手します。	・本部とともに与謝野町の意向も確認しつつ、令和7年内に建物解体及び土地の活用ができるよう調整を行いました。

【部門別事業報告】

1 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員：75名）

区分 年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
5年度	366日	28,509人	771床	77.9人	97.3%
6年度	365日	27,149人	226床	74.4人	99.2%

※令和6年4月入居者77名（5月13日より入居者75名）

(イ) 入退所状況（3月31日時点）

区分 年度	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
5年度	20人	84人	21人	19人 (12人)	0人	2人	0人
6年度	17人	60人	20人	18人 (11人)	2人	0人	0人

(ウ) 地区別 入居状況（3月31日時点）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
5年度	0人	76人	0人	1人	77人
6年度	0人	73人	0人	1人	74人

(エ) 年齢・性別 入居状況（3月31日時点）

(単位：人)

区分 年齢 性別	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
5年度	0	0	0	1	2	3	3	12	5	40	0	11	10	67	77
6年度	1	0	0	1	3	2	5	14	5	32	0	11	14	60	74

平均年齢	5 年度	男性	88	女性	93	合計	92
	6 年度	男性	85	女性	92	合計	91

(オ) 入居期間別 入居状況 (3 月 31 日時点)

(単位：人)

区分 \ 期間	6 か月未満		6 か月以上 1 年未満		1 年以上 3 年未満		3 年以上 10 年未満		10 年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
5 年度	3	9	0	6	5	27	2	23	0	2	10	67	77
6 年度	4	6	3	3	4	27	1	24	0	2	12	62	74
平均入居期間		5 年度				2 年 7 か月							
		6 年度				3 年 0 か月							

(カ) 入居期間別 延べ入居状況 (特養)

(単位：人)

年度 \ 期間 性別	6 か月未満		6 か月以上 1 年未満		1 年以上 3 年未満		
	男	女	男	女	男	女	
5 年度	3	12	1	9	5	29	
6 年度	5	7	3	3	5	34	
年度 \ 期間 性別	3 年以上 10 年未満		10 年以上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
5 年度	4	30	0	5	13	85	98
6 年度	2	33	0	2	15	79	94

(キ) 介護度別 入居状況 (3 月 31 日時点)

(単位：人)

区分 \ 介護度 性別	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度	0	0	0	0	5	16	4	31	1	20	10	67
6 年度	0	0	0	0	5	16	6	28	3	16	14	60
平均要介護度	5 年度		4.0		6 年度		4.0					

(ク) 介護度別 延入居状況

区分 \ 介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
5 年度	0 人	0 人	7,922 人	12,784 人	7,803 人	28,509 人
6 年度	0 人	0 人	7,271 人	12,270 人	7,391 人	26,932 人

(ケ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	17 人	30 人	20 人	17 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	看護体制加算 Ⅰ (4)	看護体制加算 Ⅱ (8)	夜勤職員配置 加算Ⅱ (18)	ADL 維持等加 算	認知症専門ケ ア加算Ⅰ (3)	サービス提供体 制加算Ⅰ (22)
算定延回数(回)	26,932	26,932	26,932	912	19,918	9,071
加算収入額(円)	1,077,280	2,154,560	4,847,760	38,760	597,540	1,995,620

加算項目	日常生活継続 支援加算 (46)	安全対策体制 加算 (20)	看取り介護加 算Ⅰ (72)	看取り介護加 算Ⅱ (144)	看取り介護加 算Ⅲ (680)	看取り介護加 算Ⅳ (1280)
算定延回数(回)	17,861	16	68	182	22	11
加算収入額(円)	8,216,060	3,200	48,960	262,080	149,600	140,800

加算項目 (単位)	外泊時費用 (246)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ (3)	排泄支援加算 Ⅰ (10)	科学的推進体 制加算Ⅰ (40)
算定延回数(回)	91	26,932	868	44	912	912
加算収入額(円)	223,860	2,962,520	112,840	1,320	91,200	364,800

加算項目 (単位)	初期加算 (30)	療養食加算 (6)	介護職員処遇 改善加算Ⅰ等
算定延回数(回)	429	13,060	
加算収入額(円)	128,700	783,600	36,221,620

加算項目 (単位)	加算収入額合計
算定延回数(回)	
加算収入額(円)	60,771,520

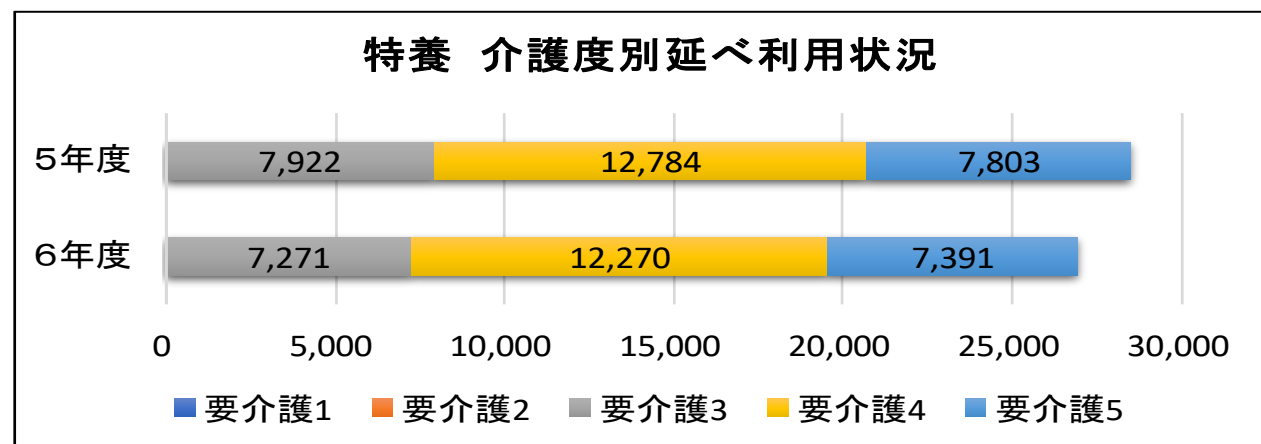
※令和6年7月までサービス提供体制加算Ⅰ算定

※令和6年8月より日常生活継続支援加算の算定

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

③その他の収入

項目 年度	貴重品管理料	その他の収入合計
5年度	224,000	224,000
6年度	108,000	108,000



2 介護部

① 施設移転とともに、ユニット型特養へと移行しました。ハード面もソフト面も新しくな

り、入居者、職員共に大きな環境の変化でした。認知症の方にとっては生活環境が大きく変わることによって混乱など影響が出ることもあるため、ユニット職員やユニット内の入居者を大きく変えないように配置し、移転後も馴染みの関係が継続できるようにしました。移転前から1ユニット15名のユニットケアをどのように運営していくかを職員間で何度も話し合い、合意した内容でこの1年間業務を実践しました。また、ICTの活用では、眠りスキャンやインカム、アラエルといった最新機器を使用し、情報共有・業務負担軽減に向け取り組みました。さらに、介護補助員を各ユニットに配置してタスクシフトを推進、介護員の専門業務の明確化・業務負担軽減にも努めました。

日々の業務を進めていく中で、1ユニット15人のユニットケア、職員配置、夜勤体制の難しさを実感しています。入居者が安心・安全な生活を送っていただけると同時に、職員にとっても働きやすい職場になるよう引き続き検討していきたいと思っています。

- ② ユニットケアを実践していくために、起床時間や排泄、入浴時間などご利用者個々の生活リズムに沿ったケアの提供に努めました。24時間シートを活用して個々のケア計画作成をしていましたが、いまだ十分な活用はできません。今後、限られた職員人数で、入居者の意向や主体性を重視したユニットケアを取り組んでいけるのか実践を通して、ケア内容を深めていきたいと思っています。
- ③ サービスの質の向上の為、各種委員会活動をはじめ、委員会主催の施設内部研修、施設外部研修に参加し、職員のスキルアップを目指しました。また、OJTリーダー研修、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修等にも職員が参加できるよう調整し、それぞれの専門的知識の向上に努めました。また、LIFEへの入力・見直しをはじめ、モニタリング、口腔衛生管理体制の構築にも取り組み、入居者のアセスメント力の向上に努めました。
- ④ 移転後すぐにコロナ、感染性胃腸炎の感染症が同時発生しました。新しく不慣れな環境や物品の整備が不十分な状況もあり、感染収束まで時間がかかってしまったことは反省点です。この経験を踏まえ、感染拡大防止に努めていきたいと思っています。

リスク管理についてもICT機器やヒッププロテクター等を活用し、日々の観察力や記録、ヒヤリはっとの検証をしっかりと行い重大事故防止に努めていきます。ご入居者、ご家族との信頼関係構築と、リスクに対する説明もしっかりと行いたいと思います。今年度から義務化された口腔衛生管理については、事務も含めた多職種が連携し体制づくりに取り組みました。

- ⑤ マルベリーホールを活用し、こども園の園児との交流会や与謝の園祭り、定期的に行うレクリエーションでたくさん入居者の笑顔をみることができ、入居者同士の繋がりも深まったと感じています。

ご家族の面会では制限時間を設けましたが、各ユニット内の居室やマルベリーホールを利用して面会していただくことができ、ご家族とご入居者、職員との繋がりも深めることができたと感じます。

<絹織ユニット>

- ・主任からの連絡事項や、ユニット内での連絡事項をノートや口頭で伝え合う事で正しく確認が取れていたと思います。半面、清潔保持、整理整頓が十分に出来ず感染症を蔓延させてしまう結果となりました。現在は、補助員さんが配置され、業務を担当いただく

ことができ改善され良かったと思います。

- ・入居者の入れ替わりが激しく、慌ただしい1年でした。職員の不足もあり、なかなか落ち着くことのできない入居者にかかりっきりで、そのほかの入居者としてしっかり関わる時間もなかったように思います。また、大柄な男性入居者が多く体力的、精神的にも辛い状況もありました。

<草紅葉ユニット>

- ・限りある業務時間と人員の中で入居者への対応をどのようにしていくのが良いか、ユニットメンバー全員で考え対応できたのは良かったと思います。
- ・業務を体系化し、基本業務についてはどの職員でもこなせるようになったことは良い半面、余裕がなく個別の入居者への対応が十分取れない状況があります。
- ・ユニット内での申し送りが不十分な部分がありました。
- ・レクや楽しいことを増やしていきたい。
- ・スライディングボードやスライディングシートを活用しシーティングやポジショニングなどの褥瘡予防に力を入れていきます。
- ・咀嚼や嚥下が困難な重度の入居者へ安全に食事を召し上がって頂けるよう、ゆとりをもった食事介助を行います。

<夏河ユニット>

- ・ご家族が面会に来られた時に職員から積極的に話しかけ、普段の様子や写真、SNS等で入居者の笑顔を見て頂くことができ、安心に繋がる情報提供が行えました。
- ・積極的にレクリエーションを実施し、入居者の達成感、集中力等、刺激ある生活をする事で会話も増え、笑顔や嬉しそうな表情を沢山見ることができ、ADLの向上につなげることができました。
- ・ユニット職員全員が集まるのが難しいなか、共有したい事柄はノートや掲示板、メモなどを残して情報共有に努め、必要なことは話し合うことにより、職員が共通の認識をもち、同じ方向を向けていたと思います。

<螺鈿ユニット>

- ・見守りシステムを活用し、居室内でのリスク回避に努めました。
複数ある共有スペースでは、見守りが不十分になることもある為、ソファースペースにジョイントマットを活用し安全、安楽にすごしていただけるよう工夫しました。気持ちの落ち着かない入居者には、職員が傾聴し寄り添うことで安心していただけるよう努めました。
- ・自分らしく過ごしていただけるように、入居者の意思を尊重するように心がけました。
新規入居者に関しては、しっかりと聞き取りを行い、24時間シートを作成し、個々に応じた計画を作成し、残存機能を活かせるようなレクリエーションを行うこともできました。
- ・介護者本位にならないように、出来る事は見守り、自立支援に努めました。
- ・情報共有して、統一した対応を心掛けました。
- ・入居者のご家族に向けては、面会時にお話をして情報発信、情報共有に努めましたが、

面会のない入居者の対策として、もっと Instagram など活用できればよかったと感じています。

看取り対応の入居者の面会では、ご家族にもゆっくり過ごしていただけるように配慮しました。

- ・職員誰もが入居者に関する事、業務に関する事など意見を出し合うことができたことでユニットの職員間でコミュニケーションは図れており、業務の協力もできました。ユニット会議等で意見交流でき、スキルアップにも繋がりました。

<黒椿ユニット>

- ・入居者への対応や言葉かけは、入居者に合わせるよう気を付けることができました。
- ・年度前半は業務に追われ、ご入居者に寄り添う時間が少ない日があり、時間の有効活用が今後の課題となりましたが、年度後半には業務の工夫や改善により入居者の時間に合わせてゆっくりとした時間の提供ができました。今後も継続して続けたいと思います。

3 看護部

6年度は、特養部門だけでなく在宅部門（短期入所・通所）のご利用者についても健康的な暮らしを継続していただけるよう医療的支援を行うことを事業計画にあげました。特養医務と通所の看護職員とで情報を共有する機会を週に1～2回設け、スムーズに支援が行えるよう努めました。

5年度末与謝の園の移転がありましたが、入居者は体調不良を起こされることはなく無事に経過しました。

しかし感染症については、15人ユニット・全個室という、今までとは違い感染症対策には良い環境でありながら、新型コロナと感染性胃腸炎を拡大させてしまいました。移転直後で慣れない環境であったことも大きな要因だったと思われます。その感染拡大をきっかけに各自で対応を振り返り、それを皆で共有する機会も設け、今後に活かしました。また、定期的に研修も行い、外部からも講師を招き集合研修も行いました。これからは感染症対策は継続していくものですが、基本である「標準予防策の徹底」に力を入れ、必要以上の活動制限は行わないようにしていきたいと思います。

医療に対するニーズや看取り期の対応については、状態変化の都度、ご家族へ連絡を入れ意向を確認し、可能な限り希望に添えるよう努めました。特に看取りについては、ご家族との対話がさらに必要であると実感しています。

診療所廃止にあたり、様々に準備を重ねてきましたが、実際始動してみると幾つも問題が起りましたが、その都度職員間で検討を行い、対策を講じることができました。

次年度も引き続き、与謝の園に関わる全てのご利用者・ご家族が安心して生活できるよう、看護部としての活動をさらに発展させ、医療の面から支援していきます。

①診療状況

(ア) 与謝の園

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
5年度	実数	100	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,675	0	0	0	0	0	0	0

6 年度	実数	94	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,608	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
5 年度	実数	20	14	3	7	1	17	4	0
	延数	30	44	6	15	1	39	11	0
6 年度	実数	21	14	3	6	0	3	0	2
	延数	40	32	5	18	0	4	0	8

(ウ) 他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
5 年度	実数	10	4	0	0	0	0	1	0
	延数	141	129	0	0	0	0	88	0
6 年度	実数	8	4	0	0	0	0	0	1
	延数	151	76	0	0	0	0	0	9

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
5 年度	80	令和 5 年 10 月 23 日	令和 6 年 2 月 1 日	令和 5 年 6 月 23 日 令和 6 年 1 月 10 日	なし
6 年度	75	令和 6 年 10 月 21 日	令和 7 年 3 月 5 日	令和 6 年 9 月 3 日 令和 7 年 3 月 5 日	R7. 2. 5 R7. 3. 12

4 相談室

令和 6 年 3 月末に移転新築後、4 月は入居者数 77 名あり 5 月 13 日より 75 名となりました。入所稼働率は 99.2%と高く、4 月の入居者調整期間の影響もありますが、積極的な入所調整により、年度目標を上回ることができました。

また、入所待機者の認知症自立度を重点的に把握し、新規入所調整を行った結果、8 月より日常生活継続支援加算を算定し大幅な加算増収となり、高い稼働率ともに安定した施設経営に寄与することが出来ました。

入所待機者については、要介護 3 の方の占める割合が多く、近隣地域の特養入所が進んでいる影響もあり、介護度の高い方ほど待機者数は減少しています。

入居者ご家族に対しては、感染症予防対策を講じたうえで、施設内行事（与謝の園まつりや敬老会、こども園との交流等）への参加や対面面会による来園機会を設け、来園の際に相談員から積極的にご家族と話をする機会を作るようにし、ご家族との信頼関係構築に努めました。その他、与謝の園だよりや SNS を中心に入居者の施設内生活の様子を発信し、ご家族の皆様にはとても好評いただいております。

骨折事故に関しては 6 件発生し（うち 4 件は入院）、昨年度に比べ増加しました。施設の移転新築に伴い新しい生活環境となったことが影響しています。次年度は、事故発生時のアセスメントで「避けられない事故」と「防ぐべき事故」を区別し、少しでも「防ぐべき事故」が減らせるような取り組みを行い、入居者やご家族が安心して利用できる環境づくりに努めます。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
5 年度	84 件	225 件	20 件	2 件	0 件	331 件
6 年度	84 件	190 件	15 件	0 件	0 件	289 件

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
5 年度	11 人	48 人	3 人	6 人	68 人
6 年度	6 人	46 人	2 人	8 人	62 人

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要介護 3	要介護 4	要介護 5	区変中	その他	合 計
5 年度	32 人	23 人	8 人	3 人	2 人	68 人
6 年度	39 人	14 人	9 人	0 人	0 人	62 人

(エ) 退去状況 (特養)

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	看取りによる死亡	医療機関	その他	合 計
5 年度	人数	0 人	12 人	2 人	7 人	21 人
	比率	0%	57.1%	9.5%	33.4%	100%
6 年度	人数	0 人	11 人	2 人	7 人	20 人
	比率	0%	55.0%	10.0%	35.0%	100%

5 給食部門

施設移転後、今までと違う動線、新しい機器を使用した調理に加え、機器の初期不良や設置不良でなかなか落ち着かず日々の業務が安定するまで数か月かかりましたが、定着してからは職員間で意見を出し合い、見直しや改善をすることができるようになりました。

厨房内が非常に多湿な時期があり対応に苦慮しましたが、厨房内や設備の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

移転により入居者の生活が大きく変化しましたが、前年度同様にミールラウンドで得た情報を多職種で共有し、意見を交えながら一人一人の状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供に引き続き力を注ぐことができました。また、「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食など特別食の提供や看取りの方の個別の対応も行うことができました。

BCP研修として「備蓄食提供訓練」を実施し災害時の備蓄食提供にかかわる意識の向上に努めました。また新施設の非常用電源の確認も行いました。

ユニットケアでの食事提供は、夏には桃やスイカ、秋には月見団子作りやおはぎ作りなど、四季を感じられる食材を使用して、生活の中で楽しみの一つになるような食事提供やレクリエーションを実施しました。通所介護事業所と協力し、調理に関するレクリエーションが充実できたことは、大きな収穫となりました。

食材全般の物価高騰や米の高騰で食材料費の増額が余儀なくされましたが、食材のロスを減らす工夫し支出を抑える努力をしました。

新施設や設備を活用し選択食提供や喫茶開催、様々な企画等にも取り組み部署として非

常に充実した一年でした。

①提供実績

(ア) 延食数

(単位：食)

区分 年度	特養	短期入所	通所
5年度	28,420	6,727	6,210
6年度	26,974	10,083	6,610

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μ gRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1300～ 1500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
5年度	1,477	58.1	493	43.5	6.5	754	0.62	1.15	71
6年度	1,479	58.1	483	44.6	6.6	692	0.63	1.32	76

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

(単位：g)

＊味噌は豆類・大豆製品に含みます。

区分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	嗜好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目標	210	40	10	40	8	2	60	60	40	35	200	200	150	60	3	-	-	-
6年度	206.6	36.8	10.8	44.2	7.2	0.7	57.8	62.4	40.9	32.5	205.3	160.1	91.9	75.8	2.8	5.1	53.9	6.6

6 与謝の園短期入所生活介護事業所

建て替え移転時、ベッド増床や度重なる感染症の流行により、十分な稼働率を得ることができかどうかの心配がありました。年度前半には感染症による利用キャンセルなどがあり、結果、年間での稼働率の目標を達成することはできませんでしたが、年度後半の稼働率の回復の程度は、次年度の目標達成への大きな糧となるものと思います。

移転当初は戸惑いも多くありました。少しずつ、事業所としての強みが確立でき、①～⑥の重点目標がしっかりと達成できるようになりました。特に、「④感染症に強い事業所となるようにします」「⑤ユニット型施設であるメリットを生かした、ご利用者の生活支援をおこないます」については、過去の経験を生かしたノウハウや根拠に基づく確かな感染予

防対策をおこなうことで、有症者が出てもそれ以上の感染拡大をさせないようにできたこと、また、個別の状況に合わせたロングショートを受け入れ、ユニットにおける多種多様なレクや活動の実施、地域との積極的な交流、などを行うことができ、大変充実した年度であったと思います。

ご利用者の思いをどうすれば実現できるか。「お風呂はやっぱ夜に入りたいよ」と話されるご利用者に対し、夕食前に入浴できるよう知恵を絞り時間を捻出し、実際にご利用者の希望にそった入浴ができたことは、ユニット職員の思いや努力の結晶であると思います。皆が協働し、それぞれが目標達成に向けて努力を続けたことにより、生き生きと活気あふれるユニットでありました。

新規ご利用者については、前年度を上回る実績となりましたが、当初予想していた要支援1・2のご利用者は伸びず、要介護のご利用者が多くを占めました。また、延べ入所状況に関しては、要介護2・3のご利用者が前年度比で倍となっています。今後、要支援のご利用者の獲得に向けて、課題が残りました。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（令和5年度は定員10名、令和6年度より定員15名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
5年度	362日	2,684人	7.4人	74.1%
6年度	365日	4,363人	12人	80.0%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
5年度	31人
6年度	35人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
5年度	0人	64人	0人	1人
6年度	1人	81人	0人	2人

(エ) 介護度別 入所状況

(単位：人)

介護度 性別 年度	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5年度	0	1	1	2	5	5	3	15	6	15	1	9	4	3	20	50
6年度	1	1	0	2	7	13	7	14	9	20	5	9	4	3	33	62
平均 要介護度	5年度				2.65				要支援1・2含む							
	6年度				2.54				要支援1・2含む							

(オ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	3人	17人	601人	658人	718人	507人	180人	2,684人
6年度	28人	5人	618人	1,216人	1,657人	617人	213人	4,354人

(カ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	30 人	19 人	26 人	35 人
内 予防	2 人	1 人	2 人	3 人

② 加算算定の状況

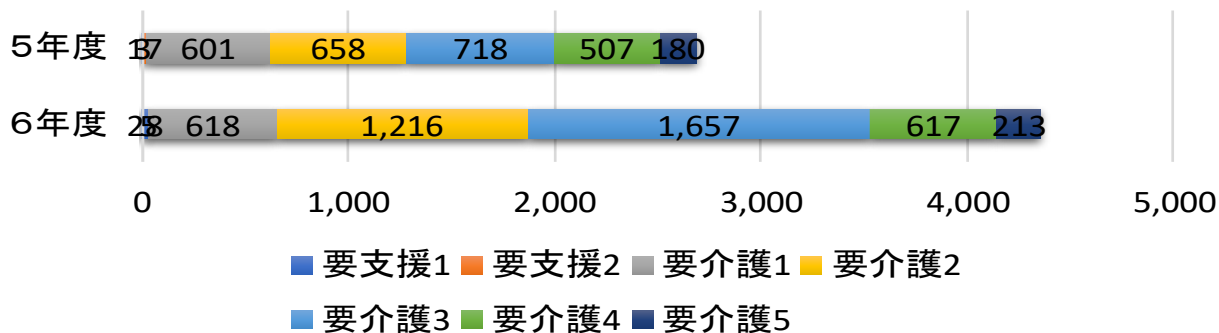
回数 金額	加算項目 サービス提供体制 強化加算 I (22)	夜勤職員配置加 算 II (18)	在宅中重度者受 入加算 4(425)	緊急短期入所 受入加算 (90)	送迎加算 (184)
算定回数(回)	4321	4321	11	102	1232
金 額(円)	950,620	777,780	46,750	91,800	2,266,880
回数 金額	加算項目 処遇改善 加算 I 等	加算収入額 合計			
算定回数(回)	4321				
金 額(円)	5,474,500	9,608,330			

予防短期

回数 金額	加算項目 サービス提供体制 強化加算 I (22)	送迎加算 (184)	処遇改善 加算 I	加算収入額 合計
算定回数(回)	33	4	33	
金 額(円)	7,260	7,360	27,380	42,000

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和 6 年 6 月から処遇改善加算（I～V）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

短期入所 介護度別延べ利用状況



<大江の山ユニット>

・移転後慣れない環境下で感染症が流行しました。2階フロアで完結する為、限られた職員数での勤務変更が続き、現場職員は精神的にも身体的にも疲弊しましたが、ご利用者の安全を取り戻す為、マニュアルに沿って、高い意識で乗り越える事が出来ました。長期と短期の混合フロアでの夜勤（30 名に 1 人）体制、設備（日用品、衛生物品）が整っていなかったハード面等、反省点を次年度に活かし、職員の健康管理、ご利用者の状態観察、早期発見に努め感染予防に繋がります。

・パーソナルメモを作成し、ご利用者個々の状況や人柄に添った対応の統一に努めました。職員間の連携は、連絡帳や日々語らうことで相談、共有できていました。皆で知恵を出し合い、一人ひとりに合わせた支援方法を試行錯誤する事ができました。また、あんしん手

帳や相談員を通して、ご家族との連携に努めました。作成したパーソナルメモの更新が出来ず、うまく業務に取り込めなかったのが反省点です。次年度は活用できるよう工夫していきます。

・ご利用者のできる事、楽しまれる事に着目し、設えに繋がる季節の制作物に取り組んでいただきました。地域の文化祭にも出展し、当日は見学のために外出し、地域の方々との交流にも繋がりました。

また、昔の手作業を思い出していただきながら調理レクを実施することも出来ました。毎日、昼食前には健康体操、嚥下体操が定着し、ADLの現状維持にも繋がっています。お仲間同士一緒に取り組む中で自然と笑顔や会話が増え、生き生き過ごされる姿がみられました。明るいハードに加え、「人」という活気もユニット全体の居心地の良い雰囲気につながっていると感じています。会話のきっかけとなる緑や花もご利用者とともに育てることが出来ました。引き続きご利用者ファーストだけど、スタッフも楽しみながら支援できる日常を積み重ねて、選んでいただける事業所を目指します。

7 与謝の園通所介護事業所

令和6年度は、与謝の園移転後定員を30名に増員した初めての年度であり、多くの業務改善と、介護保険内で可能な余暇の提供方法など、今まで以上にご利用者の自立支援・能力の維持向上を考え取り組むことができました。

各居宅介護支援事業所等との連携のもと、若年性認知症の方を含む新規ご利用者を48名受け入れました。新しい設備でのサービス提供も、ご利用人数が増えても対応可能な入浴や食事の提供方法など試行錯誤しながら1年をかけて検討を行い、稼働率を80%近くまで上げることができました。

ご利用者からの要望などを取り入れ、パンや大判焼きなどの移動販売や外出レクでは、三段池動物園などへお弁当を持参しての遠足なども取り組むことができました。与謝の園の取り組みとしての、行事食はもちろん、給食部門と協力して昭和喫茶の開催やてんぷらの日・おでんの日など、食でも楽しんでいただくことができました。

①利用実績

(ア) 述べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
5年度	24人	308日	6,210人	84.0%	2.1
6年度	30人	310日	6,682人	71.8%	1.76

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	1,554人	1,963人	1,052人	334人	150人	5,053人
6年度	1,782人	1,349人	1,430人	419人	151人	5,131人

(ウ) 介護度別利用状況 (介護予防)

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	事業対象者	合 計
5 年度	101 人	911 人	145 人	1,157 人
6 年度	252 人	1,211 人	102 人	1,565 人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	22 人	27 人	29 人	50 人
内 予防	2 人	7 人	9 人	19 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	若認知症加算 (60)	入浴介助 加算 I (40)	ADL 維持等加 算 II (60)	科学的介護推 進体制加算 (介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 I (22)
算定回数 (階)	109	4,810	743	743	248	5,131
加算収入額(円)	65,400	1,924,000	445,800	297,200	-116,560	1,128,820

加算項目 回数 金額	処遇改善加算 I (介護) 等
算定回数(回)	743
加算収入額(円)	4,008,920

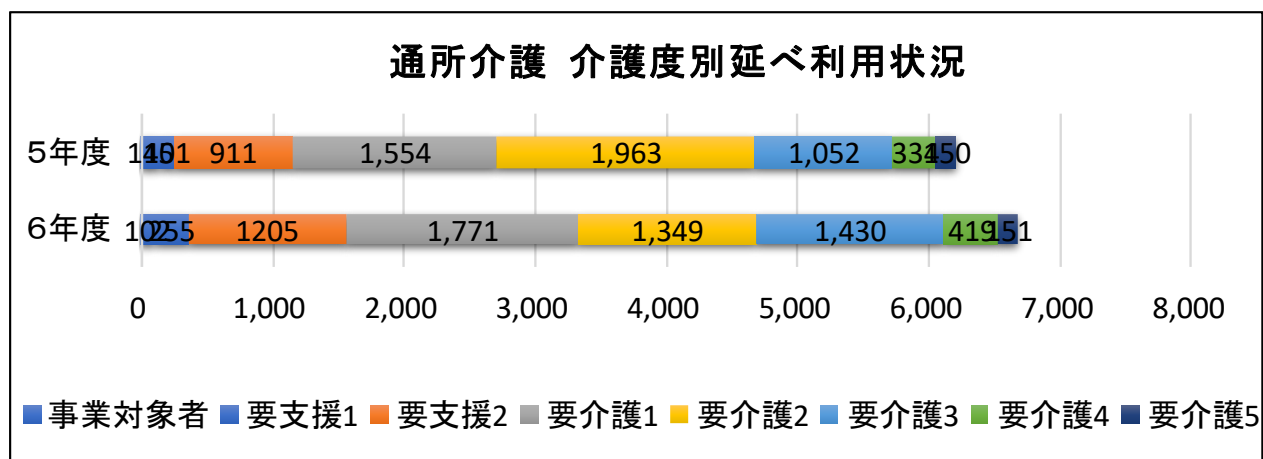
通所介護 合計加算収入額	7,753,580 円
--------------	-------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	サービス提供 体制加算 I 1 (88)	サービス提供 体制加算 I 2 (176)	処遇改善加算 I 等	科学的介護推 進体制加算 (40)
算定回数(回)	97	173	270	270
加算収入額(円)	85,360	304,480	757,780	108,000

予防通所介護 合計加算収入額	1,255,620 円
----------------	-------------

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和 6 年 6 月から処遇改善加算 (I～V) として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



8 与謝の園訪問介護事業所

住み慣れた地域や家庭で『その人らしい生活』が継続できるよう、ご利用者の残存能力を引き出し、生活に活かせるよう見守りや声かけを心掛け、自立支援に向けた訪問介護サービスの提供に努めました。

6年度は、職員の増員があり新規の受け入れや、すでに契約しているご利用者の増回希望等のニーズにも柔軟に対応したことで実働時間数を昨年度より増やすことができました。

また利用回数の多いご利用者が入院(レスパイト入院含む)や施設入所などとなった際にも、居宅支援事業所と連携を図ることで、訪問件数を安定させることにつながりました。

次年度も引き続き自立支援を念頭に、一日でも長く、住み慣れた自宅で安心して生活が続けられるよう支援していきます。

①介護度別利用状況及び実働時間数

《与謝の園訪問介護》

	年度	介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数 (人)	5 年度	3	9	9	18	9	7	6		61
	6 年度	6	5	19	14	11	11	6		72
介護予防 (h)	5 年度	679 時間 15 分								20%
	6 年度	715 時間								19%
身体介護 (h)	5 年度	1,677 時間 05 分								50%
	6 年度	1,767 時間 35 分								46%
生活援助 (h)	5 年度	822 時間 30 分								25%
	6 年度	974 時間 25 分								25%
身体生活 (h)	5 年度	153 時間 40 分								5%
	6 年度	372 時間 20 分								10%
合 計	5 年度	3,332 時間 30 分								100%
	6 年度	3,829 時間 20 分								100%

③ 加算算定の状況（訪問介護）

（ア）要介護

（単位：回）

加算項目 回数 金額	初回加算（介護） 200	処遇改善加算Ⅰ （介護）等	緊急時加算 （介護） （100）
算定回数（回）	30	4,055	9
加算収入額（円）	60,000	3,006,660	9,000

訪問介護 合計加算収入額	3,075,660 円
--------------	-------------

（イ）介護予防

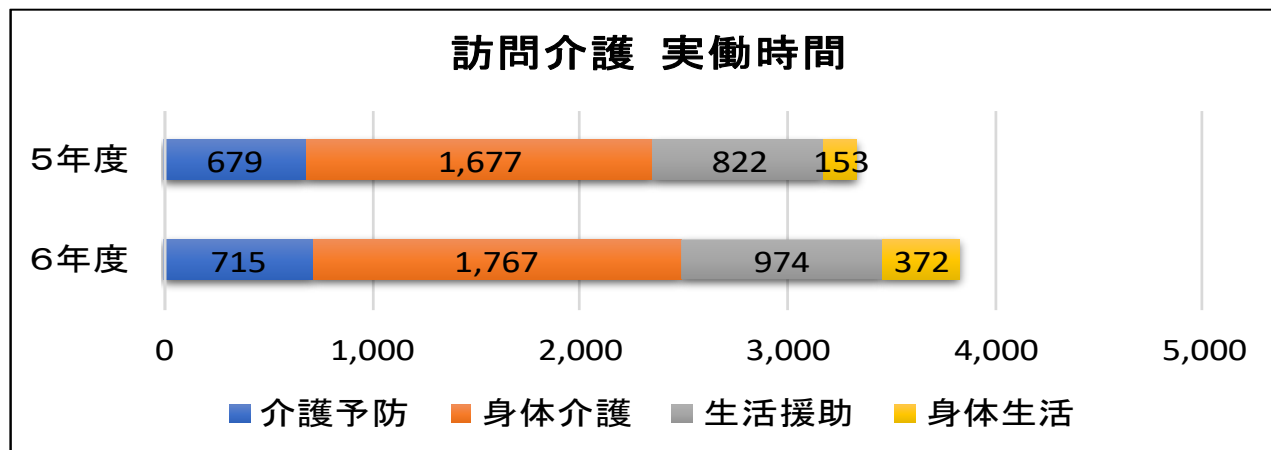
加算項目 回数 金額	初回加算 （予防） （200）	処遇改善加算 Ⅰ等
算定回数（回）	7	747
加算収入額（円）	14,000	472,670

介護予防 合計加算収入額	486,670 円
--------------	-----------

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。

④年度別（新規契約者数の状況）

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	22人	20人	18人	27人
内 予防	0人	3人	2人	6人



9 与謝の園訪問入浴

令和6年度は、契約者数も6件増加、延べ利用数も243件となり増収増益となりました。利用数が最も多かった1月は利用延べ数が28件となり、1日の利用状況を考慮し2月から水曜日も稼働し、営業日を増やすこととしました。その結果、新規依頼が受けやすくなり2月は新規利用を3件受けることができました。契約・面接を行った日にそのままサービスをできたケースも1件ありました。

年間を通し契約・面接を行っていますが、利用前に身体状況が急変され利用につながら

なかったケースも3件ありました。

ご利用者に、よりよい訪問入浴の提供を行うために以下の取り組みを行いました。

- ・ご利用者やご家族の思いに寄り添い、希望に添った入浴サービスを心掛ける。
- ・医療的処置（在宅酸素・胃瘻・尿バルーン・IVH・褥瘡処置など）を有するご利用者や癌末期などのターミナル期のご利用者も積極的に受け入れ、自宅で安心して入浴できることを実感していただく。
- ・感染症対策として、使い捨てエプロン・ロング手袋を使用し、ご利用者に触れる備品や器具等はサービスの提供毎に洗浄・消毒を実施した。
- ・毎月研修会を開催し、サービスの質の向上に努めた。
- ・入浴車のメンテナンス・稼働毎の点検や管理を実施。
- ・各事業所との連携を密に情報交換を行い、訪問入浴の希望やその日の体調に応じて、迅速かつ柔軟な訪問入浴サービスを提供した。
- ・入浴用手すりボードや浴槽内滑り止めマットを使用するなど、ご利用者個々の残存機能を活かした入浴方法を検討した。

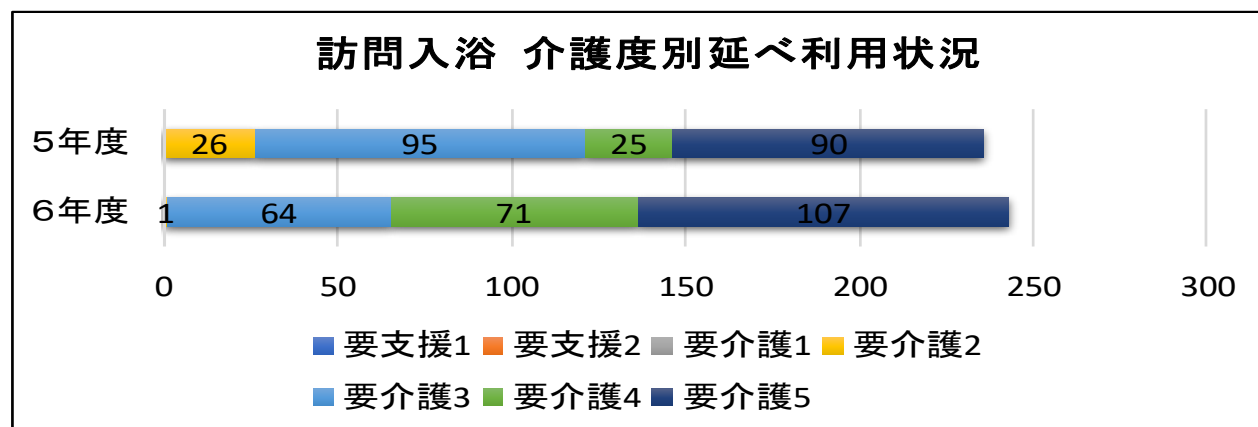
①利用状況

区分 年度	契約者数	営業日数	延利用数	平均稼働率	平均介護度
5年度	12人	102日	236人	2.3	3.8
6年度	18人	109日	243人	2.2	4.1

		介護予防サービス		介護サービス					合 計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
介護度別 利用者数	5年度	0	0	0	1	3	4	4	12
	6年度	0	0	0	1	6	6	5	18
介護度別延 べ利用者数	5年度	0	0	0	26	95	25	90	236
	6年度	0	0	0	1	64	71	107	243

② 年度別 （新規契約者数の状況）

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	10人	16人	7人	13人
内 障害	0人	0人	0人	0人



10 与謝の園居宅介護支援事業所

今年度も、ご利用者の心身の状況や生活状況を勘案し、ご利用者、ご家族の意向を尊重した上で、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、居宅サービス計画書の作成や相談支援を行ないました。

地域包括支援センターや医療関係者、サービス事業所などと連携し、入退院や入退所時の連携を密に行うとともに、在宅におけるターミナル支援を行い、来年度は医療介護連携加算の算定が行える体制を整えるに至りました。

与謝野町内居宅介護支援事業所の閉鎖等による引継ぎ、また担当地域を宮津市須津地域まで拡大し、下半期には給付管理件数上昇となりましたが、月当たり 123～142 件、年間を通しての平均は 131 件となり目標件数(137 件)には到達しませんでした。次年度も積極的な新規利用者の獲得を行い、目標件数(140 件)を維持できるよう努めます。

6 年度はBCP対応に向けて積極的に研修に参加して、研修で得た知識を生かした机上訓練を実施し、緊急時対応に向けて相談を行いました。また、地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修へも積極的に参加を行い、自己啓発や知識の習得に取り組みました。特定事業所加算算定事業所として、介護支援専門員実務研修実習生を受入れ、人材育成への協力を行なう体制を整え、令和 6 年度は実習生 1 名の受け入対応を行いました。

シルクカフェでは、地域の皆様と交流し楽しい催し物を開催することができました。次年度も引き続き、地域の高齢者やその介護者が安心して生活できるよう、迅速で丁寧な支援を行っていきたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

年度 \ 内容		介護保険その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
5 年度	実数	178 件	1 件	2 件	22 件	203 件
	延数	12,336 件	15 件	3 件	22 件	12,376 件
6 年度	実数	223 件	3 件	2 件	4 件	232 件
	延数	13,507 件	32 件	8 件	20 件	13,567 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
5 年度	1,552 人	178 件
6 年度	1,640 人	196 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
5 年度	18 人	48 人	490 人	507 人	289 人	100 人	100 人	1,552 人
6 年度	16 人	55 人	631 人	425 人	336 人	93 人	99 人	1,655 人

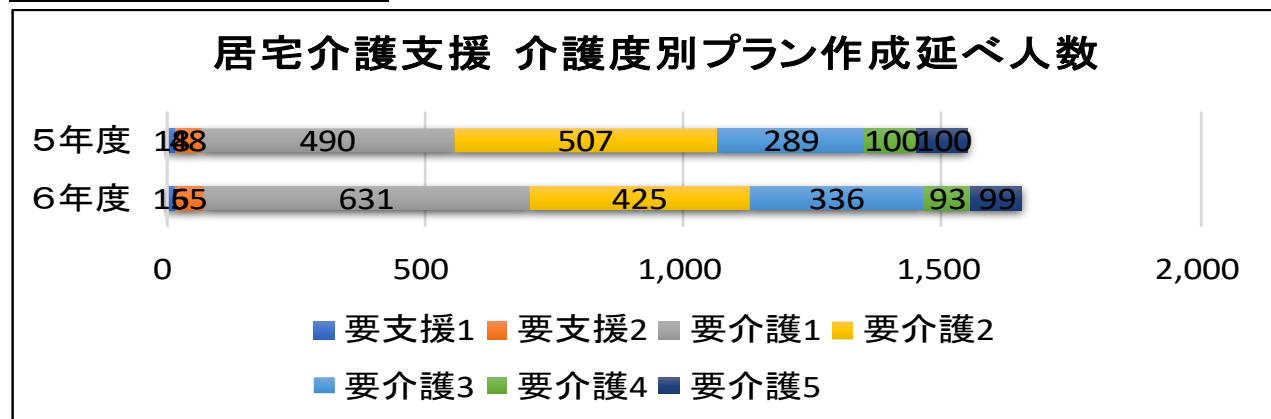
(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	61 人	65 人	49 人	63 人

(オ) 加算算定の状況 (居宅介護支援)

(単位：回)

加算項目 回数 金額	特定事業所加算Ⅱ
算定回数(回)	1,570
加算収入額(円)	66,097,000



1 1 事務

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月	92 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 2 日、2 月 10 日	83 人 65 人	年 2 回
深夜業務従事者健診	2 月 10 日	35 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月	73 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	研修内容
身体拘束ゼロ委員会	身体拘束ゼロにむけて／書面
身体拘束ゼロ ・高齢者虐待防止委員会	虐待防止基礎研修／動画
感染症対策委員会	食中毒予防について／動画
感染症対策委員会 新型コロナ実地研修 (BCP 研修)	感染症対策／集合
安全衛生委員会主催	災害避難訓練前研修 (BCP 災害含む)
安全衛生委員会主催	職員腰痛予防
リスクマネジメント委員会	事故発生又は再発防止に関する研修
リスクマネジメント委員会	令和 6 年度の事故の振り返り
認知症ケア委員会	認知症の理解／書面
身体拘束ゼロ委員会	不適切ケア／書面
研修委員会	プライバシー保護／書面
褥瘡対策委員会	シーティング・ポジショニングの基本を理解する

研修委員会	口腔衛生 口腔スクリーニングについて/動画
訪問入浴介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	接遇マナー、リスクマネジメント、看取り連携について、感染症について、認知症について等（新型コロナウイルス感染のため書面研修含）
訪問介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	接遇マナー、虐待、認知症、食中毒、感染症について等（新型コロナウイルス感染のため書面研修含）

② 施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
老人福祉施設看護職介護職等研修	1	拘縮の基礎から予防対策について
キャリアアップ研修（中堅職員）	2	
キャリアアップ研修（初任者）	1	
令和 6 年度介護サービス情報講評対応研修	6	
OJT リーダー養成研修	2	
認知症介護実践者リーダー研修	1	ハートピア京都
機能訓練指導員等研修会	1	食事のポイント
ユニットリーダー研修 実地研修	1	グレイスヴィルまいづる
認知症実務者研修	2	綾部モノづくり交流館
看護職・介護職リハビリテーション研修会	1	摂食嚥下 トランスファー 環境調整 ポジショニング
福祉リーダーの極意を学ぶ	1	Zoom
キャラバン・メイト養成研修	2	与謝野町元気館
甲種防火管理者新規講習	1	知遊館
難病従事者研修会	1	アグリセンター大宮
与謝野町在宅医療・介護連携事業セミナー	5	知遊館あじさいホール
生産性向上セミナー	3	Zoom
カスタマーハラスメント研修	3	Zoom
栄養者等ネットワーク推進研修会	1	Zoom
施設長向け介護施設における看取りケア研修	1	Zoom
医療と介護の連携推進研修会	1	丹後保健所主催
施設看取り介護導入研修	1	Zoom
施設看取り介護専門研修	2	Zoom
介護支援専門員実務経験者更新研修	1	Zoom
福祉即戦力人材養成科フォローアップ研修	2	丹後勤労者福祉会館
京都府サービス管理責任者等基礎研修	1	京都市勧業館みやこめっせ
若年性認知症支援研修会	1	アグリセンター大宮
府老協デイサービス職員研修会	2	城陽市立東部デイサービスセンター
相談支援従事者初任者研修	1	Zoom

認知症予防学習会	7	元気館
安全運転管理者講習会	1	丹後文化会館

【地域貢献事業】

事業名	参加者数
橋立中学校認知症サポーター養成講座 10月25日	68
山田小学校認知症サポーター養成講座 12月13日	13
桑飼シルクカフェ 22回開催	236

【実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
8	舞鶴YMCA国際福祉専門学校	8月20日～9月19日	1
9	立命館大学社会福祉士課程	9月17日～9月20日	2
3	与謝の海支援学校	職場実習 3月3日～3月7日	1
3	介護支援専門員実務研修実習生	令和7年4月4日9日19日 (感染症対策により4月へ変更)	1

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
かるかも会	補修（衣服の繕い）	2回/年	7
オカリナ	オカリナ演奏	1回/年	5
はしだて清掃			4

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数/年
職員会議	2回/年
主任会議	12回/年
リスクマネジメント委員会	12回/年
看取りケア委員会	3回/年
生産性向員会	3回/年
研修委員会	3回/年
サービス自己評価委員会	6回/年
感染症対策員会（BCP 感染含む）	5回/年
身体拘束ゼロ委員会	4回/年
褥瘡対策委員会	4回/年
医療的ケア委員会	4回/年
認知症ケア委員会	4回/年
部署間連絡会議	5回/年
入所検討会議	12回/年
安全衛生委員会（BCP 災害含む）	12回/年

新型コロナ対策会議	26 回/年
PR 委員会	11 回/年

令和6年度 社会福祉法人北星会

天橋の郷 事業報告書

【 総括 】

令和6年度においても、法人理念及び施設理念を基に、天橋の郷に働く職員一人ひとりが「至誠通天」の心構えを持ったうえで、職員同士が連携し、充実したサービス提供ができるよう、業務に取り組みました。

地域ナンバーワンの介護サービスの提供に向け、多職種が連携し業務に取り組んだほか、認知症をはじめとする様々な研修を受講し、職員の資質向上を図りました。

特に、特養・ショートステイにおいてセンサーベッドやインカム等 ICT 機器を活用し、職員の業務負担軽減を行うとともに、全事業所において5S活動による業務改善と職場環境改善を積極的に進め、生産性向上に取り組みました。認知症対応においては、チームケアの手法を取り入れ、介護に従事する職員が個々のご利用者の情報共有と統一的な対応を行うことにより、ご利用者のBPSDの出現予防と出現時の適切な対応に努めました。

ショートステイとデイサービスにおいては、終末期にあるご利用者について在宅主治医や関係機関と連携してレスパイトケアを受け入れたほか、緊急時や医療的ケアが必要な方についても積極的に対応しました。

老朽化が課題となっている建物と設備については、特殊浴槽と全居室の電気給水機の更新を行いました。今後、必要な箇所及び設備について、計画的に改修及び更新を進めてまいります。

地域の介護需要が漸減する状況において、地域との信頼関係を構築することは施設運営を継続する上で非常に重要であるとの認識の下、本年も地域活動への参加や、栗田・由良2地域でのオレンジカフェの実施、災害発生時の避難訓練など、地域と顔の見える関係づくりに努めました。

経営面では、報酬改定の初年度であり、平均 1.59%の増額改定がなされる中、新たに創設された加算を積極的に取得し、収入の確保に努めましたが、天橋の郷拠点においては在宅サービスの稼働率低迷の影響で事業活動収入が前年度より 216 万円の減額となる一方、光熱水費の増額や前述した設備更新費用により、経常増減差額が 430 万円の赤字となるなど厳しい決算となりました。開設当時の借入金返済が令和 7 年度で終了しますが、引き続き経費節減に努め、経営の改善を図ってまいります。

【目標に対する取組成果】

長期目標	今年度目標	取 組 状 況
1 安心安全な施設づくり	1 安心安全な施設づくり	①設備については、特殊浴槽の入れ替え及び各居室の給湯設備の更新を行った。建物等の現況調査には着手できなかったが、更新が必要な設備のリストアップに着手した。 ②京都府の原子力総合防災訓練に併せ、令和5年度に整備した放射線防御設備の稼働訓練と、地元の住民の避難受入訓練を行った。自然災害における避難訓練は台風接近により訓練を中止した。 ③職員全体会において自然災害及び新型コロナウイルス感染症業務継続計画の説明及び研修を行った。 ④ご利用者及び職員に新型コロナウイルス感染症の罹患が発生した

		が、適切な対応によりクラスターになることなく終息させることができた。
2 地域が必要とするサービスの提供	2 地域ナンバーワンの質の高いケアの提供	①特養ご利用者の入院原因の多くを占める尿路感染症、誤嚥性肺炎、骨折を予防するため、多職種で取り組んだが、他の疾患による入院が頻発し、入院日数は前年度より約 100 日増加し、216 日となった。このことが、稼働率を下げる要因となった、口腔ケアについては、訪問歯科医の指示を受けた歯科衛生士による指導を受け、ご利用者の口腔内の適切な状態を維持することができた。 ②短期入所とデイサービスにおいて主治医や関係機関と連携し、終末期にあるご利用者のレスパイトケアに積極的に取り組むとともに、医療的ケアが必要な方についても積極的に利用を受け入れた。 ③ノーリフティングケア推進チームを中心に、スライディングボードやリフトを使用したノーリフティングケアを進めてきたが、誤ったケアによりご利用者や介護員がケガをする事故が合わせて 2 件発生した。 ④認知症介護に関する研修の積極的な受講に併せ、チームケアに取り組むことで、ご利用者の BPSD の出現予防と、出現時の適切な対応を行うことができた。 ⑤短期入所において、障害のある方等への共生型サービスを提供し、2 名の利用があった。うち 1 名は定期的な利用を継続されている。 ⑥ご利用者ファーストの考えの下、職員の接遇向上に積極的に取り組んだ。各事業所において様々な行事を企画・実践し、ご利用者の QOL の向上を図ることができた。
3 安定的な経営	3 働きやすい魅力ある職場づくり	①特養、ショートステイにおいて介護に従事する職員にインカムを貸与し、業務の効率化を図った。併せて生産性向上委員会を設置し、国のガイドラインに沿った取組を行うことで生産性向上加算Ⅰを取得した。 ②生産性向上や 5 S 活動など就業環境と業務の改善に取り組んだが、職員の休業等により特養を中心に時間外勤務が増加し、合計で前年度より約 550 時間増となった。同様の理由により年休取得についても、平均 11.4 日にとどまった。 ③職員には半年ごとに拠点目標を踏まえた個々の目標を設定させ、半年に 1 度の人事考課において、目標に対する取り組み状況等を把握し、評価に繋げた。 ④特養においては余暇活動プロジェクトチームを中心に、他の事業所においても各担当が季節に応じた行事やレクリエーションを積極的に行うとともに、SNS 等で情報発信を行い、利用者 と職員確保に繋げた。
	4 地域とともにある拠点づくり	①持ち帰り弁当及び土日の配食弁当事業に引き続き取り組んだ。 ②令和 4 年度に地元獅子・矢原自治会と締結した災害時一時避難所の協定に基づき、9 月に避難訓練を予定していたが、台風接近のため中止した。地域と顔の見える関係の構築に向け、地域の一斉清掃活動に参加したほか、地域の祭礼の訪問を受けた。 ③様々な感染症への対策を行いながら、栗田地区に加え、由良地区においても年間を通じてオレンジカフェを開催した。 ④地域の幼稚園、小・中・高校と交流を行った。栗田小学校では、認知症サポーター養成講座を実施するとともに、栗田のびのび放課後児童クラブとデイサービスご利用者との交流を積極的に行った。又、栗田中学校生徒の社会体験活動を受入れたほか、義務教育教員免許取得のための介護体験について、地元出身の 3 名の大学生の受入を行った。 ⑤宮津市の在宅医療・介護連携の取組の中で作成された短編映画に出演し、認知症の啓発活動に協力した。 ⑥京都府警の交通事故防止活動に協賛し、ご利用者とひまわりの絆プロジェクトに参加した。

【 部門別事業報告 】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員： 70 名）

区分 年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
5 年度	366 日	25,424 人	196 床	69.5 人	99.2%
6 年度	365 日	25,239 人	311 床	69.1 人	98.8%

(イ) 入退所状況（3月31日時点）

区分 年度	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
5 年度	20 人	80 人	20 人	20 人 (17 人)	0 人	0 人	0 人
6 年度	23 人	79 人	23 人	19 人 (16 人)	3 人	1 人	0 人

(ウ) 地区別 入居状況

区分 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
5 年度	69 人	1 人	0 人	0 人
6 年度	67 人	3 人	0 人	0 人

(エ) 年齢・性別 入居状況

(単位：人)

区分 年齢 性別	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100 以上		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度	0	0	0	0	0	4	2	21	5	33	0	5	7	63
6 年度	0	0	0	0	1	3	3	20	5	35	0	3	9	61
平均年齢	5 年度		男性		90.4 歳		女性		90.1 歳		合計		90.2 歳	
	6 年度		男性		87.8 歳		女性		90.5 歳		合計		90 歳	

(オ) 入居期間別 入居状況

(単位：人)

区分 期間	6 か月 未 満		6 か月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
5 年度	0	6	3	10	3	28	1	17	0	2	7	63	70
6 年度	3	10	3	5	2	20	1	24	0	2	9	61	70
平均入居期間	5 年度				2 年 10 か月								
	6 年度				3 年 0 か月								

(カ) 入居期間別 延入居状況（特養）

年度 期間 性別	6 か月未満		6 か月以上 1 年未満		1 年以上 3 年未満		合 計
	男	女	男	女	男	女	
5 年度	0 人	8 人	3 人	12 人	5 人	31 人	
6 年度	3 人	14 人	4 人	6 人	2 人	27 人	
年度 期間 性別	3 年以上 10 年未満		10 年以上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
5 年度	1 人	25 人	0 人	5 人	9 人	81 人	90 人
6 年度	1 人	34 人	0 人	2 人	10 人	83 人	93 人

(キ) 介護度別 入居状況

(単位：人)

介護度 性別 区分	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度	0	0	0	0	2	14	4	29	1	20	7	63
6 年度	0	0	0	0	4	9	5	34	0	18	9	61
平均要介護度	5 年度		4.1		6 年度		4.1					

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
5 年度	102 人	0 人	6,070 人	12,207 人	7,045 人	25,424 人
6 年度	0 人	0 人	5,518 人	12,655 人	7,066 人	25,239 人

(ケ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	26 人	21 人	19 人	23 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	個別機能訓練 加算 I (12)	個別機能訓練 加算 II (20)	看護体制 加算 I (4)	夜勤職員配置 加算 II (18)	ADL 維持等加 算 II (60)	認知症専門 ケ ア 加 算 I (3)
算定延回数(回)	25,239	856	25,239	25,239	785	4,987
加算収入額(円)	3,028,680	171,200	1,009,560	4,543,020	235,500	149,610

加算項目 (単位)	認知症チーム ケア推進加算 I (120)	日常生活継続 支 援 加 算 (46)	生産性向上 推進体制加算 I (100)	生産性向上推進 体 制 加 算 II (10)	安全対策体制 加算 (20)	看取り介護 加算 I (72)
算定延回数(回)	548	25,239	501	214	23	75
加算収入額(円)	657,600	11,609,940	501,000	21,400	4,600	54,000

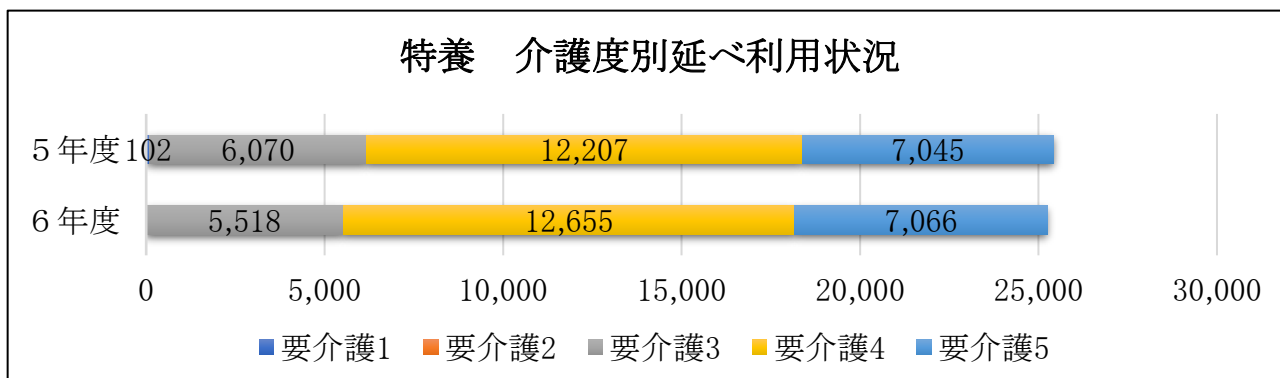
加算項目 (単位)	看取り介護 加算 II (144)	看取り介護加 算 III (680)	看取り介護加 算 IV (1280)	外泊時費用 (246)	経口維持 加算 I (400)	経口維持 加算 II (100)
算定延回数(回)	234	30	16	91	402	372
加算収入額(円)	336,960	204,000	204,800	223,860	1,608,000	372,000

加算項目 (単位)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	褥瘡マネジメ ント 加 算 II (13)	褥瘡マネジメ ント 加 算 I (3)	排泄支援加算 I (10)	科学的推進体 制 加 算 II (50)	初 期 加 算 (30)
算定延回数(回)	25,239	762	24	768	856	690
加算収入額(円)	2,776,290	99,060	720	76,800	428,000	207,000

加算項目 (単位)	介護職員処遇改 善加算 I 等	合 計
算定延回数(回)		
加算収入額(円)	34,843,620	63,367,220

③その他の収入

項目 年度	貴重品管理料	居住費調整額	湯灌料	合 計
6 年度	279,000 円	213,026 円	285,000 円	777,026 円



2. 介護部門

① 今年度も新型コロナウイルス感染症が3つのユニットで発生し、感染対応が必要な状況ありましたが、職員一人ひとりが感染予防対策について知識と技術をもって対応し、早期に終息させることができました。今後も感染症予防委員会や施設内研修で習得した手順を守り、感染予防に努めていきます。また、災害時の避難訓練の実施や青空食堂において災害時用の鍋や釜を使用した行事食を提供し、日頃から有事に備えました。

② 接遇強化として、しっかり挨拶をする・視線を合わせる・優しい表情で接するなどに取り組みました。認知症の周辺症状が強く出る入居者への対応についても不安が和らぐように傍に寄り添い傾聴することを重点的に行いました。

各ユニットや余暇活動プロジェクトチームによる行事を積極的行いました。特に物づくり・運動・調理等で入居者が残存能力を発揮され、継続することで機能維持や意欲増進に繋がっていることが実感できた取り組みとなりました。

③ 栗田幼稚園との交流や栗田駅カフェに出かけ地域の方と接することで、入居前も入居後も地域の住民であることを意識していただける取り組みとなりました。引き続き継続していきます。

④ 職員全体の余暇活動に対する意欲が増し、令和5年度の行事企画書の提出件数が67件であったところ令和6年度は106件と大きく増加しました。個々の職員の得意分野を発揮した企画もあり入居者には喜んでいただける企画ばかりとなりました。

ノーリフティングケアの徹底を図る中で、2件の内出血事故を起こしてしまいました。何れも後ろから抱える介助を行ったことによるもので、ノーリフティングケアを行っていなかったことによる事故でした。新年度には、再度、全介護員がノーリフティングケア研修を受講し、事故の無い安心安全なケアが提供できる施設となるように努めていきます。

・茜ユニット：①重度の入居者が多いユニットであるため、細かい変化をすぐに察知するための観察力は職員一人ひとりついてきましたが、急変時の対応力につ

いてはまだ足りない部分も多いため、今後は更に多職種と連携し対応力を身につけていきます。

- ②月 1 回の行事が実施できない月もありましたが、誕生日会・夏祭り・カルタ取り大会・魚釣りゲームなど重度の状態にあっても楽しんでいただける行事を工夫して実施し、楽しんでいただくことができました。
- ③丁寧な口腔ケアに努めてきたため、歯科衛生士の口腔ケア指導時に口腔内の衛生状態は良いと評価していただきました。引き続きこまめな口腔ケアに努めます。
- ④多職種との連携もスムーズに行え、ユニット間の情報共有もはっきりできケアの統一に繋げることができました。

- ・和ユニット：①入居者の声に耳を傾け否定的な声掛けは行わず、認知症からくる不安を取り除けるように対応することで、徐々に帰宅願望や職員に対する不信感が消え、穏やかな雰囲気ユニットとなりました。
- ②入居者の着たい服・食べたい物・したい事といった選択の場面での自己決定を促しその方らしく生活できるよう支援することで入居者の意欲が増し活気あるユニットとなりました。今後も入居者の思いを尊重したケアを行っていきます。
- ③ADLの維持・改善に向け、ラジオ体操やパタカラ体操、また、歌を歌ったりゲームで競い合うなど楽しみながら生活リハビリが行えました。
- ④職員一人ひとりが入居者の対応について、真摯に考え意見交換をすることで統一したケアが行えましたが、接遇強化に取り組む一方不適切ケアについて自覚がない職員への指導が思うように進みませんでした。次年度で引き続き不適切ケアの根絶に努めていきます。

- ・梓ユニット：①認知症の方の夜間不眠時の対応が難しく、どのような対応が入居者にとって適切なのかを多職種も含め職員全体で話し合いを重ね、入居者・職員がお互いに負担がなく入居者の意志を尊重したケアに努めました。
- ②毎月 2 回の行事企画の実施はできませんでしたが、入居者の誕生日には食べたいものや好物を聞き、行事食を実施したほか、お誕生日ケーキでのお祝いができました。和ユニットとの合同行事では焼きそば、お好み焼き、おはぎ作り、体操などの行事を実施して楽しんでいただけました。
- ③入居者一人ひとりの状態に合わせ、車椅子の自操・廊下の散歩・洗濯物たたみ等継続できる内容を実施し、機能維持、改善ができるよう年間を通して取り組みました。
- ④入居者に不安を与えないようにユニット間で情報共有し、ユニット会議においても状態変化のある方の検討を行ない、不安なく業務にあたれるようにケアの統一に努めました。

- ・翠ユニット：①服薬事故が 2 件発生しました。飲みこぼし事故と前日の貼付薬の剥がし忘れ事故でした。改めて服薬時の一つひとつの手順を確実に行う事を徹底しその後は事故が防止できています。
- ②毎月の行事食では、これまで食べられたことのないと思われる外国の料

理にもチャレンジし、喜んでいただくことができました。

- ③入居者の残存能力の維持向上のため過介護にならないように配慮していましたが、職員の都合で介助をしてしまう事がありました。今後は過介護とならないように入居者のペースに合わせた介助を徹底します。
- ④入居者の状態変化時には迅速に職員間や多職種と対応を協議し、ラインやノートで情報共有することで、不安なく入居者対応に結び付けることができました。

- ・泉ユニット：①服薬管理マニュアルが徹底できておらず、こだわりの強い入居者の服薬を入居者任せにしたことで飲みこぼし事故が発生しました。その後は入居者に丁寧に説明し納得いただきマニュアルどおりに職員が介入し服薬を行うことで事故が防止できています。
- ②2ユニット合同での音楽祭等の行事や誕生日企画等、毎月楽しんでいただけた行事ができました。
- ③毎日の個別機能訓練の実施に加え、日課として編物や歌唱等趣味嗜好を取り入れた取り組みを行うことで機能維持・向上が図られました。
- ④業務内容の検討や見直しを常に意識をして行ったことで、入居者の行動把握が容易になり訴え等についてももしっかりコミュニケーションを取る時間が確保でき、落ち着いた生活をしていただけるようになりました。

- ・紅ユニット：①水分摂取量の強化に取り組んでいましたが、その日の体調や気分で目標値を達成できない方もありました。特に体調不良のため水分強化が難しかった2名の方の尿路感染を予防することができませんでした。
- ②毎月の行事企画はお誕生日会・2ユニット合同での音楽会・体操など入居者の皆さんに喜んでいただきました。
- ③毎日の機能訓練は実施できましたが、週一回のリハビリ体操について上半期は実施できましたが、新型コロナの感染に伴い感染予防対策を行ったため下半期はできないことがありました。
- ④施設内研修に参加し個々にスキルアップを図ることができました。職員間での引き継ぎや情報共有はLINEやノートを活用することで円滑に業務を進めることができました。

- ・暁ユニット：①服薬忘れの事故が1件ありました。投薬後、服薬ケース内に薬が残っていないか確認を徹底するとともに、服薬管理マニュアルに沿った手順を確実に行っていきます。

水分強化については、お茶が苦手な方にポカリゼリーを提供し、夜間帯に水分補給を行うなど工夫しながら水分強化に取り組み、尿路感染症の予防や排便の促しに努めました。

- ②季節ごとの行事や入居者の好みの行事食企画は定期的に行うことができました。また、入居者と庭で育てた野菜を調理し提供したり、季節の花をホールに飾るなど楽しんでいただきました。
- ③日々の口腔ケアで口腔状態を確認し、痛みや異常がみられた場合はその都度看護師や言語聴覚士に報告し、早期に受診に繋げることができました。引き続き、専門職と連携し口腔ケアを積極的に行っていきます。
- ④認知症ケア委員会や施設内研修等で認知症による周辺症状（BPSD）につ

いて知識を深め、対応について職員間で協議し、入居者が安心して生活できる環境を整えてきましたが、不安の払拭はまだできていません。

引き続き職員一人ひとりがスキルアップし、様々な周辺症状に対応できるように取り組んでいきます。

3. 看護部門

- ① 入居者と利用者の日々の状態把握に努め、必要に応じ嘱託医やかかりつけ医・訪問看護などの外部関係者に報告・相談し連携を図ることで、受診の対応や内服治療など本人または家族様が望まれる対応を行うことができました。長期においては入院に至るケースは減少しましたが、痙攣、転倒などによる緊急の受診の際は多職種との連携を取りながらスムーズに対応できました。
- ② 看取り導入時や看取り期の過ごし方、認知症の方の対応方法についても多職種が日常業務の中で一緒に対応を検討し、情報を共有することで、その人らしい生活が送られ、入居者が安心して最期を迎えられるように個々に沿ったケアを行うことができました。引き続き、今後も多職種との情報の共有、連携を行っていきます。
- ③ 感染症の発生はありましたが、早めの対応で大きな拡大にならずに終息させることができました。看取り期も合わさって残念ながら亡くなった方もおりましたが、それ以外は著しい低下も少なく、普段の生活に戻ることができました。職員にとっても再度、意識づけや再確認する場にもなり、研修や訓練などを今後も引き続き行っていきます。
- ④ 医務内での情報共有や業務への問題点などについて検討するため、定期的に医務会議を行っています。参加できなかった職員への伝達できていないことがあったため、再度ノートや LINE を活用するなど検討をしながら共有していきます。研修に関してはパートの方も含め、研修記録を観覧するなどし、共有できました。新たな職員も含め、皆が業務を遂行できるようにしていきます。

①診療状況（天橋の郷） 単位：件

（ア）天橋の郷

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
5年度	実数	90	0	0	22	0	10	0	0
	延数	878	0	0	146	0	99	0	0
6年度	実数	93	3	0	20	0	11	0	0
	延数	805	17	0	71	0	105	0	0

（イ）他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
5年度	実数	13	14	2	0	0	0	1	3
	実数	13	14	2	0	0	0	1	3
6年度	実数	5	16	4	1	0	0	1	0
	延数	7	45	13	1	0	0	5	0

(ウ) 他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
5 年度	実数	7	2	0	0	1	0	0	0
	延数	9	2	0	0	1	0	0	0
6 年度	実数	10	3	1	0	0	0	0	0
	延数	10	3	1	0	0	0	0	0

②健康診断等の実施状況

	対象人数	胸部集団検診
5 年度	69 人	令和 5 年 10 月 24 日
6 年度	68 人	令和 6 年 10 月 21 日

4. 支援室

- ① 多職種と連携し、安心して安全な暮らしが送られるよう、見守り機器を活用し支援しました。骨折事故は前年度と同じ 8 件発生しました。誤嚥性肺炎や尿路感染での入院は減少しましたが、他の病気での入院が多数あり空所ができたため、稼働率 98.9%と目標の稼働率 (99.2%) には届きませんでした。一方で入院者については、医療機関と連携し、状態把握にも努め、なるべく早く施設に復帰できるように連携を図りました。
- ② 今年度から新設された加算 (生産性向上推進体制加算Ⅰ、認知症チームケア推進加算Ⅱ) について多職種と連携を図り、迅速に算定することができました。
- ③ 入所者やご家族のニーズを把握し、ご希望に沿えるようにコミュニケーションを図ることでニーズをプランに反映することができました。
- ④ 地元の学校の生徒の来所など、感染状況を把握しながら、交流を深めることができました。また 7 月には新型コロナ感染拡大後、初めての外部からのボランティアを受け入れ、施設全体でのコンサートを実施することができました。
- ⑤ 施設生活の楽しみについては介護現場が中心に実施し、補助的な立場で支援する形をとりました。行事をサポートすることで、入居者様の生活に楽しみを提供し、コミュニケーションを図ることができました。
- ⑥ 居宅支援事業所や老健と連絡を密にとることで、空床が出た時の次の入居者を迅速に選定することができました。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
5 年度	73 件	0 件	20 件	0 件	0 件	93 件
6 年度	78 件	0 件	23 件	1 件	0 件	102 件

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
5 年度	43 人	27 人	3 人	4 人	77 人
6 年度	27 人	42 人	5 人	5 人	79 人

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
5 年度	1 人	0 人	4 人	34 人	23 人	15 人	77 人
6 年度	1 人	0 人	4 人	44 人	17 人	13 人	79 人

(エ) 退去状況 (特養)

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	医療機関 (入院)	看取りによる死亡	その他	合 計
5 年度	人数	0 件	0 件	17 件	3 件	20 件
	比率	0%	0%	85%	15%	100%
6 年度	人数	0 件	4 件	16 件	3 件	23 件
	比率	0%	17%	70%	13%	100%

5. 給食部門

- ① 令和 6 年度も、地産地消を推進しながら地元の新鮮な食材を使用したメニューにより、ご利用者に季節を感じていただける楽しくておいしい料理を提供することを調理室スタッフ全員で取り組みました。又、部署ごとの季節の行事食やおやつなどを工夫しながら実施しました。長期のご利用者のお誕生日には、ご本人の楽しみとなる料理を提供し、喜んでいただきました
- ② ご利用者の栄養状態、嚥下状態、アレルギー、嗜好等を把握し、個々のご利用者に合わせた食事を提供することで健康状態が維持できるように栄養管理を行いました。
- ③ 前年度に比べ提供数も増加し、好評を頂いている天橋の郷デイサービスとはまなす苑の平日持ち帰り弁当の提供や配食サービスは、お弁当を丁寧に作り安否確認を兼ねてお届けすることができました。
- ④ 青空食堂にて災害時用ガスコンロと炊飯器を利用し、5月にえんどうご飯と豚汁を、11月に牛丼を提供しました。
- ⑤ 人材育成面では、個々の職員に合わせた指導を実施し、効果的な指導体制がとれるよう努力しました。令和 7 年度も新任職員受け入れがありますので継続していきます。
- ⑥ 環境面では、労災事故もありましたが、設備の美化に努めると同時に古くなっている厨房機器の入れ替えも実施しました。次年度以降も作業効率向上の為に計画的な入替を検討していきたいと考えます。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所
5 年度	25,342 食	6,338 食	11,877 食
6 年度	25,104 食	6,063 食	10,913 食

(イ) 栄養基準 (1 日あたり)

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基 準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100

5 年度	1,439	57	467	40	4.9	433	0.7	0.8	71
6 年度	1,431	57	468	39	4.9	432	0.7	0.8	69

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	嗜好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目標	180	40	10	10	3	1	50	70	50	20	250	160	80	50	5	5-	40	5-
6 年度	166	35.6	7.3	35.9	2.3	1.2	39.8	70.7	53.1	12.1	278	151.9	80.1	49.3	2.4	13	33.2	0.6

6. 天橋の郷短期入所生活介護事業所

- ①ご家族、ご利用者とのコミュニケーションを重視し、ご利用者ファーストの観点から、ご利用者中心の相談援助を行いました。ケアマネとも常に連絡をとりながら関係性を構築し、緊急受入も積極的に行いました。しかしながら、こうした対応にもかかわらず、稼働率は目標値を大きく下回る結果となりました。稼働率が向上できなかった要因として、新規ご利用者数は過去数年で最高の62名となったもののデイサービスなどの在宅サービスや老健や特養などの入所施設の充実によりご利用者の入れ替わりが早くなっている現状が考えられます。今後はこうした状況にあっても稼働率を維持・向上できるように継続した利用に繋がる取り組みを現場と協力し合いながら行い、魅力のあるショートステイを構築していきます。
- ②終末期のレスパイトケアでは、最大2泊3日という取り決めの中で受け入れていましたが、ご家庭の状況や主治医・訪看などのバックアップ体制のもと、臨機応変に対応することで、在宅での看取りを支えることができました。また、経管栄養や在宅酸素など医療的ケアが必要なご利用者もお断りすることなく、積極的に受け入れました。
- ③9月からは共生型サービスのご利用者を受け入れることもできました。今年度は2名のみのご利用となりましたが、定期的に利用される方もあります。高齢者介護との違いもあり、夜間の対応などの課題もありますが、Eラーニングなどの研修で知識・技術を習得し、障害者ケアのスキルアップを図っていきます。
- ④認知症ケアでは、認知症状における周辺症状の強いご利用者と家事などを一緒に行い、丁寧に関わりを持つことで、ご利用者の不安が払拭され、自信を取り戻し安心して過ごされる時間が増えました。今後も引き続き職員一人ひとりがご利用者の得意分野を見つけ出し、残存能力を引き出すイネーブラーとなるよう取り組んでいきます。
- ⑤今年度は、スタンダードプリコーションの徹底と、感染症マニュアルに沿った感染症予防に努めることによって、施設での感染症の発症を防ぐことができました。

・介護部 昂、虹ユニット

- ①職員一人ひとりが意識して服薬マニュアルを徹底しましたが、服薬事故が1件発生しました。言語聴覚士の指導の下、フレックスボードやリフトを活用したノーリフティングケアを実施することで、ご利用者に合った安全な介助方法を行い、職員の負担軽減にも繋がりました。
- ②ご利用者の希望や季節ごとの行事に加え、月1回の行事食などを実施し、ご利用者に喜んでいただくことができました。行事だけではなく日常のレクリエーションにも力を入れて取り組みました。次年度もご利用者の希望に沿った行事やレクリエーションの提供に努めます。
- ③新規のご利用者や入所ごとに状態変化のあるご利用者に対してショートステイ全体で情報を共有し、その都度、他部署と連携を図るなど個別ケアを実践することができました。
- ④認知症ケアに対して職員個々のスキルに差があるため、個々のご利用者に合った適切な対応ができていない現状があります。職員のスキルアップを行い、ご利用者の状況に応じた対応ができる職員の育成を次年度の課題とします。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：20名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
5年度	366日	6,384人	17.4人	87.2%
6年度	365日	6,102人	16.7人	83.6%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
5年度	46人
6年度	62人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	福知山市
5年度	129人	2人	1人
6年度	142人	4人	2人

(エ) 介護度別 入所状況

介護度 性別 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
5 年度	12	12	9	23	5	24	9	20	5	9	41	89	
6 年度	13	16	17	24	7	22	10	20	7	6	54	88	
平均要介護度	5 年度				2.88				6 年度				2.8

(オ) 介護度別 入所状況（予防）

年度 \ 要支援度 性別	要支援1		要支援2		合 計	
	男	女	男	女	男	女

5 年度	0	0	1	1	1	1
6 年度	0	1	1	2	1	3

(カ) 介護度別 入所状況（共生型）

年度 \ 性別	性別		合 計	
	男	女	男	女
5 年度	0	0	0	0
6 年度	1	1	1	1

(キ) 介護度別 延入所状況

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	共生型
5 年度	0 人	23 人	1,337 人	1,370 人	1,283 人	1,435 人	936 人	0 人
6 年度	3 人	50 人	1,101 人	1,666 人	1,254 人	1,340 人	667 人	21 人

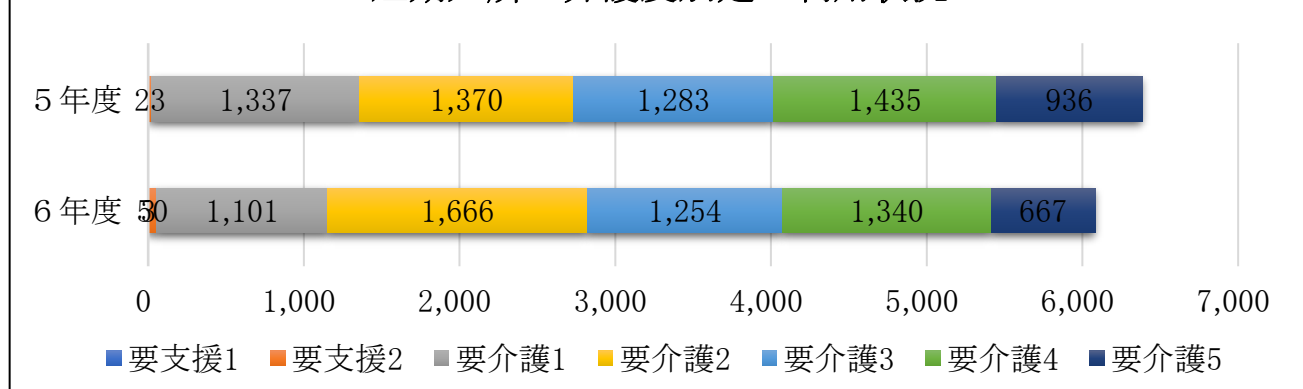
(ク) 年度別 （新規契約者数の状況）

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	47 人	43 人	47 人	62 人
内 予防	1 人	3 人	2 人	6 人
内 障害			0 人	2 人

②加算算定の状況

年度 \ 加算項目 金額	機能訓練体制 加算 (12)	サービス提供制強 化加算 II (18)	サービス提供体 制強化加算 I (22)	夜勤職員配置 加算 II (18)	在宅中重度者受 入加算 4 (425)	送迎加算 (184)
算定回数(回)	6,081	0	6,081	6,028	5	2,139
金 額(円)	729,720	0	1,337,820	1,085,040	21,250	3,935,760
回数 \ 加算項目 金額	緊急短期入所 受入加算 (90)	処遇改善 加算 I 等	地域外送迎	長期利用者 提供減算	生産性向上推 進体制加算 I (100)	生産性向上 推進体制加 算 II (10)
算定回数(回)	22		145	0	199	436
金 額(円)	19,800	7,959,320	72,500	0	436,000	19,900
回数 \ 加算項目 金額	栄養士配置 加 算 I (22)	食事提供体制加 算 (48)	共生型送迎加 算 (186)	福祉専門職員 配置等 加算 (15)	加算収入額 合計	
算定回数(回)	19	19	8	21	15,648,440	
金 額(円)	4,180	9,120	14,880	3,150	14,880	

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 天橋の郷通所介護事業所

ご利用者ができる限り在宅で生活できるよう自立支援と機能維持に重点を置いたケアを行いました。ケアマネージャーなど関係機関と連携してご利用者の住環境や身体機能を踏まえた介護方法や福祉用具の提案などを行い、在宅生活の充実やご家族の介護負担軽減が図られるよう努めました。

新規利用者の獲得や増回希望者の受け入れなど柔軟な対応を行いましたが、体調変化に伴う入院や他施設入所が相次ぎ、6月をピークに稼働率の減少が年度末まで続き、目標を大きく下回る結果となりました。稼働率低迷の要因をしっかりと分析し、対応策を講じると共に柔軟な受け入れ体制を維持することで次年度の稼働率改善を図ります。

- ① 京都式選べるデイサービスに継続して取り組み、毎日 3～5 グループの活動の場を提供しました。7月と2月にご利用者にアンケートを実施してニーズを把握し、そのニーズに沿った活動内容を提供することで一層満足していただけたと感じております。行事企画でもアンケートの結果を踏まえたものを毎月2回以上実施しました。行事がご利用者の楽しみとなることで増回や継続利用へと繋がっています。
- ② 認知症周辺症状などの気になる様子を全職員で共有し、最適な対応を職員全員で協議してその対応に当たりました。当初落ち着かれなかったご利用者も穏やかに過ごされるようになり、その方だけでなく他のご利用者にも居心地のよい空間を提供することができました。
- ③ 毎日のミーティングや毎月のデイ会議で職員の気付きを共有する時間を持ち、職員全員で様々な課題について話し合いました。これにより、適切な対応へと繋がり、チーム力向上だけでなく職員個々のスキルアップが図られました。
- ④ 年休の取得しやすい体制により、法人平均の11.1日を超える15.2日の年休を取得しました。その反面、時間外勤務時間数が多かったのを改めて業務改善などを行い、時間外勤務を減らせるよう努めます。
- ⑤ 感染症対応では、標準予防策の徹底を行い感染症予防に努めました。ご利用者の新型コロナ感染症などの罹患が何度かありましたが、感染拡大することなく影響を最小限に留めることができました。
- ⑥ 栗田地区文化祭への出展や栗田のびのび放課後児童クラブとの交流会など、新たな取り組みを始めました。文化祭への出展はご利用者の制作活動の意欲向上に繋がり、地域の子どもたちとの交流会はご利用者の大きな喜びになりました。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
5年度	35人	256日	7,482人	83.5%	1.6
6年度	35人	258日	7,360人	81.5%	1.5

※令和5年度は台風により営業を1日休止

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計

5年度	2,446人	2,256人	517人	403人	176人	5,798人
6年度	2,784人	2,079人	510人	405人	138人	5,916人

(ウ) 介護度別利用状況 (介護予防)

介護度 年度	要支援1	要支援2	合 計
5年度	554人	1,130人	1,684人
6年度	470人	974人	1,444人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	41人	40人	44人	35人
内 予防	11人	9人	10人	8人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	個別機能訓練加算Ⅰ (56)	個別機能訓練加算Ⅱ (76)	個別機能訓練加算Ⅲ (20)	認知症加算 (60)	入浴介助加算Ⅰ (40)	口腔機能向上加算Ⅱ (介護) (160)
算定回数(回)	563	3,878	820	1,064	5,204	1,249
加算収入額(円)	315,280	2,947,280	164,000	638,400	2,081,600	1,998,400

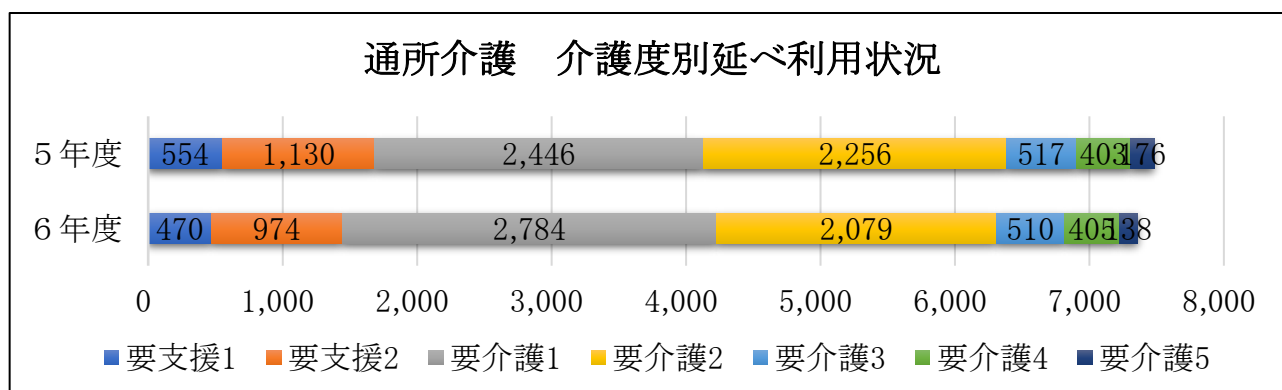
加算項目 回数 金額	ADL維持等加算Ⅰ (30)	ADL維持等加算Ⅱ (60)	科学的介護推進体制加算 (介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供体制加算Ⅱ (18)	処遇改善加算Ⅰ (介護) 等
算定回数(回)	833	77	910	222	5,916	910
加算収入額(円)	249,900	46,200	364,000	-104,340	1,064,880	4,885,020

通所介護 合計加算収入額	14,650,620円
--------------	-------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	サービス提供体制加算ⅡⅠ (72)	サービス提供体制加算ⅡⅡ (144)	口腔機能向上加算Ⅱ (160)	科学的介護推進体制加算 (40)	処遇改善加算Ⅰ等
算定回数(回)	121	128	157	249	249
加算収入額(円)	87,120	184,320	251,200	99,600	659,830

予防通所介護 合計加算収入額	1,282,070円
----------------	------------



8. R e - s t y l e 通所介護事業所

令和6年度は、要支援者数が横ばいである一方、要介護者数が大幅に増加し、総利用者数も増加しました。その結果、一年を通して安定した稼働率を維持することができました。無理のない運動や個々の状態に応じた柔軟な支援が、要介護者のニーズにマッチし利用促進に繋がったと考えています。今後、要介護者の増加に伴い、認知症対応や介護技術の向上がさらに重要となるため、職員全体で学びを深めながら丁寧な支援を心がけてまいります。

①機能訓練等サービスの充実

身体機能や認知機能の維持・向上を目的に、多様な活動プログラムをバランスよく実施することができました。マシンによるパワーリハビリテーションやストレッチ、全身体操、道具を使ったエクササイズで生活動作と上下肢の筋力トレーニングメニューを提供しました。提供にあたっては、ご利用者の体調や介護度に応じて運動の強さを調整し、ゲームや外出レクも取り入れて楽しみながら取り組めるよう配慮しました。また、体力測定と運動処方アプリを使用し、評価やA I 歩行分析を行うことでご利用者のモチベーションアップに繋げることができました。一方で通所計画書の作成はスムーズに進まず、体力測定記録の反映が難しい状況が続いています。次年度は計画的に作成し、定期的に評価と見直しを行っていきます。

②人材育成・職員の資質の向上

毎日の振り返りミーティングを通じて、認知症対応や声掛けの工夫・介助方法の見直し等、適切な対応や支援内容を確認し合い、気づきや改善点を次の支援に活かす事ができました。リハビリ特化型ならではのプログラム内容に関する知識の共有や困難を感じた点を職員同士で話し合い、チームとして安定したサービス提供に繋げることができました。また、プライバシー保護や尊厳のある関りについて継続的に周知啓発しました。研修参加については、施設内研修を中心に意欲的に参加しました。今後もE-ラーニングの活用など研修の機会を確保していきます。

③地域貢献

地域ケア会議へ積極的に参加し、ご利用者の支援方針や在宅生活の維持に向け、ケアマネージャーや医療・福祉関係者との意見交換を通じて多職種連携による、より効果的な支援体制の構築に努めました。また定期的に開催される天橋立一斉清掃に参加し法人の職員として地域貢献することができました。オレンジカフェの参加は職員体制的に難しい時が多く、あまり参加することができませんでした。

④リスクマネジメント

こまめな換気やご利用者の検温、体調観察を徹底し、それらを速やかに情報共有することで感染症対策に取り組みました。サービス提供中の事故防止については、ヒヤリハット事例をもとに安全対策を強化することで、事故の発生・防止に努めました。ご利用者及び職員の安全確保を目的に、地震を想定した避難訓練を実施し、訓練では迅速かつ安全な避難誘導や、緊急連絡体制の確認を行いました。今後は実動訓練だけでなく図上訓練も活用し、災害時における安全確保の体制を多面的に確認していきます。

⑤職場環境

職員の意見やフィードバックを積極的に取り入れ、業務改善やサービス向上に反映させることができました。また、オープンなコミュニケーションを推進し、職員が自由に意見を発信できる風通しの良い職場環境づくりにも成果をあげることができました。職員が計画的に休暇を取得できる環境を整え、年次有給休暇の取得を積極的に促す事でリフレッシュの機会確保につながりました。SNSを活用した魅力発信を目標に掲げましたが、十分に発信することができませんでした。来年度は体制を整え、積極的に発信できるよう改善していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
5年度	AM・PM 15/15	256 日	4,694 人	61.1%	0.81
6年度	AM・PM 15/15	258 日	5,235 人	67.6%	0.84

※令和5年度は台風により営業を1日休止

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
5年度	973 人	497 人	104 人	52 人	0 人	1,626 人
6年度	1,342 人	556 人	184 人	96 人	0 人	2,178 人

(ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

介護度 年度	事業対象者	要支援1	要支援2	合 計
5年度	128 人	2,178 人	762 人	3,068 人
6年度	164 人	2,162 人	731 人	3,057 人

(エ) 年度別（新規契約者数の状況）

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	20 人	28 人	12 人	32 人
内 予防	16 人	22 人	7 人	20 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	個別機能 訓練加算Ⅰ (56)	ADL維持等 加算Ⅰ (30)	ADL維持等 加算Ⅱ (60)	科学的介護 推進体制加算 (40)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	処遇改善 加算Ⅰ等
回数(回)	1,996	357	102	459	2,187	102,139
加算収入額(円)	1,117,760	10,710	6,120	183,600	481,140	1,067,020

加算項目 回数 金額	送迎減算 (-47)
回数(回)	10
加算収入額(円)	-4,700

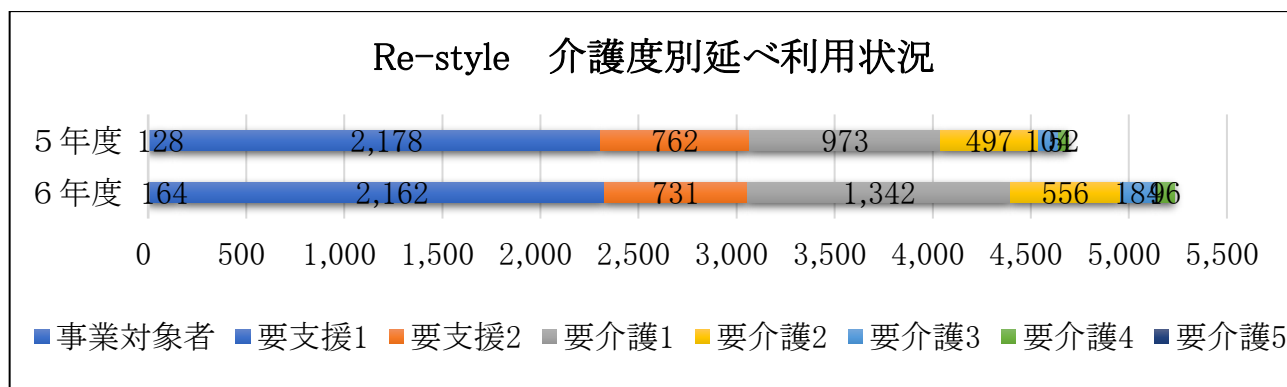
通所介護合計加算収入額	2,861,650 円
-------------	-------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	科学的介護 推進体制加算 (40)	サービス提供 体制加算Ⅰ (88)	サービス提供 体制加算Ⅱ (176)	処遇改善 加算Ⅰ等	送迎減算 (-47)
回数(回)	802	614	188	163,875	48
加算収入額(円)	320,800	540,320	330,880	1,707,530	-22,560

※今年度より運動器機能向上加算なし

予防通所合計加算収入額	2,876,970 円
-------------	-------------



9. はまなす苑通所介護事業所

ご利用者に満足していただける施設づくりに職員一同一丸となり取り組みました。その結果、ご利用者からありがたい言葉をいただけるなど満足度も高かったように思います。しかしながら、稼働率では目標はおろか昨年度より下回る結果となりました。新規契約者は目標を達成することができましたが、それ以上にショートステイや介護老人保健施設、特別養護老人ホームへの入所者が多くみられました。また要支援者や事業対象者の新規利用者が少なかったため、今年度はそれらをより多く獲得できるよう幅広い活動を展開し目標達成に向けて努めます。

① グループ活動の充実

レクリエーションでは認知症の方や個々の身体状況に配慮しながら全員で楽しめるものを提供しました。昨年度より徐々に健康運動を中心としたメニューを取り入れ、無理なく行いました。来年度もより充実した取り組みを継続しながら屋外活動も積極的に行い要支援者や事業対象者の方にも魅力を感じていただける取り組みを行っていきます。

② 四季の行事

イベントでは設えなど雰囲気づくりにこだわりご利用者に大変喜んでいただきました。外食や外出企画ではアンケートの実施やご利用者とのコミュニケーションの中で行き先を決め、皆さんの希望を叶えることができました。

③ 地域貢献活動

野菜が思うように育たず寄付やマルシェの開催回数が例年より減ってしまいました。そのような中でも地域の方から声をかけていただき由良文化祭、安寿亭主催の秋の感謝祭にも出店させていただきました。

今年度は念願の「はまフェス」を開催することができました。地域の方々にステージイベントや出店をお世話になり、たくさんの方に足を運んでいただき大盛況でした。来

年度も継続し地域の方といっしょに作り上げるイベントを開催していきます。

④ 感染予防対策

日頃からご利用者をしっかり観察することで変化に気づき早期に対応できたケースもありました。職員間で気づきや情報を共有することで大きな事故もなく無事過ごせることができました。新型コロナの感染者は何人かありましたが、感染が拡大することなく影響を最小限に抑えることができました。

⑤ 人材育成・職場環境

職場でのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりと話をする機会を設けるなど気持ちよく働ける環境づくりに努めました。年次休暇についても積極的に取得できるよう促しリフレッシュすることで日々のモチベーションに繋げることができました。しかし、時間外勤務時間を多く出してしまいました。働き方を改善し、時間外勤務時間を減らしていきます。また、研修などにあまり参加できていなかったもので、積極的に参加し一人ひとりがスキルアップし、よりよい施設づくりを目指します。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
5年度	20人	256日	3,650人	71.3%	2.1
6年度	20人	258日	3,581人	69.4%	2.2

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	819人	1,029人	695人	394人	174人	3,111人
6年度	503人	1,512人	618人	407人	146人	3,186人

(ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

介護度 年度	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
5年度	0人	39人	500人	539人
6年度	0人	35人	360人	395人

(エ) 年度別（新規契約者数の状況）

	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度実績
新規契約	9人	11人	9人	22人
内 予防	3人	3人	3人	4人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

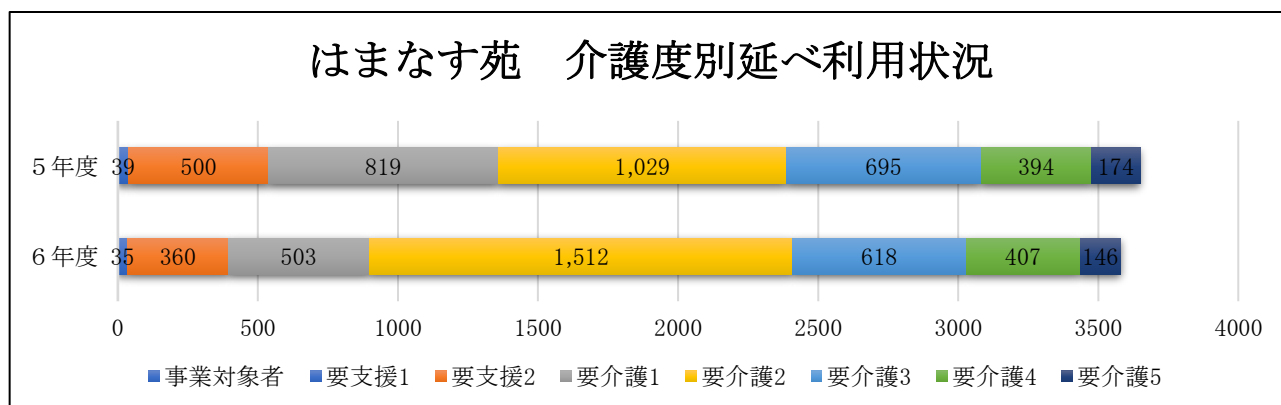
加算項目 回数 金額	入浴介助 加算Ⅰ (40)	認知症加算 (60)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	口腔機能 向上加算Ⅰ (150)	科学的介護 推進体制加算 (40)
回数(回)	3,072	698	102	3,186	500	346
金額(円)	1,228,800	418,800	-47,940	700,920	750,000	138,400

加算項目 回数 金額	中重度者 ケア体制加算 (45)	処遇改善 加算Ⅰ等 (59/1000)	ADL 維持等 加算Ⅰ (30)	合計
回数(回)	3,182		57	
金額(円)	1,431,900	2,785,360	17,100	7,423,340

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	送迎減算 (-47)	口腔機能 向上加算Ⅰ (150)	サービス提供 体制加算Ⅰ1 (88)	サービス提供 体制加算Ⅰ2 (176)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善 加算Ⅰ等 (59/1000)
回数(回)	3	4	10	52	62	
金額(円)	-1,410	6,000	8,800	91,520	24,800	194,940

加算項目 回数 金額	合計
回数(回)	
金額(円)	324,650



10. 事務部門

令和5年度に設置した放射線防護設備の稼働訓練に併せ、京都府原子力総合防災訓練において矢原・獅子地区より8名の参加をいただき避難訓練を実施しました。

開所から20年目となり、建物・設備の老朽化が進む中、特殊浴槽と全居室の電気温水器90台を更新しました。今後改修及び更新計画を策定し、計画的に更新を進めていきます。

令和5年度より継続してCTY計画に取り組み、物価高騰が続く中、費用の低減に努めました。

利用者負担請求について、これまで事業所ごとに行っていたものを天橋の郷拠点に一本化し、手数料等の費用を抑える事ができました。

質の高い介護サービスを目指し、e-ラーニングも活用しながら認知症ケア等施設内外での研修を積極的に受講するとともに、研修成果を施設内研修等で職員全体に共有しました。

【配食サービス実績】

年度 \ 項目	介護配食	持ち帰り弁当
5 年度	1,382 食	2,855 食
6 年度	1,532 食	3,019 食

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数
5 年度	853 パック
6 年度	721 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 11 日	108 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 11 日	94 人	半年に 1 回
	2 月 12 日	85 人	
深夜業務従事者健診	2 月 12 日	36 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月 11 日	91 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

①内部研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
職員総会・親睦会総会	53 人	BCP 計画、原子力災害計画について
感染症予防委員会施設内研修①	47 人	食中毒予防と手洗い研修
排泄ケア・褥瘡予防委員会	30 人	ネピアによるオムツのあて方講座
リスク委員会施設内研修①	45 人	高齢者虐待・服薬事故について
感染症予防委員会施設内研修②	34 人	コロナ感染症報告とガウンテクニック
リスク委員会施設内研修②	42 人	高齢者虐待・服薬事故について(応用編)
口腔ケア研修	33 人	
認知症ケア委員会研修	26 人	認知症についてと事例検討とグループワーク
安全衛生委員会研修	22 人	健康講話(産業医)、腰痛予防体操(外部講師 PT)
生産性向上委員会研修	23 人	生産性向上について
実践報告会	46 人	

②外部研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
キャリアアップ研修(中堅職員)	1 人	(Zoom) 中堅職員としての役割
スーパーバイザー養成研修(初級)	1 人	人材育成(新任職員への具体的指導方法)
(府老協) 新任職員研修会	1 人	福祉の本質(心のあり方)
(府老協) 新任職員向け虐待防止・権利擁護研修	1 人	(Zoom) 虐待の現状・制度、通報等の対応と事例検討
キャリアアップ研修(初任者)	1 人	福祉サービスの理念・倫理の基礎を学ぶ
宮津市地域ケア会議①	5 人	生活支援体制整備事業について
チームリーダー研修	1 人	リーダーシップを発揮し指導するための手法を習得
キャリアアップ研修(管理者)	1 人	福祉サービスの理念・倫理の徹底と浸透のための手法を習得
喀痰吸引等京都府指導者養成研修修了	1 人	(Zoom) 介護職員等喀痰吸引等実地研修おける現

者「指導看護師フォローアップ研修」		状を共有することで、今後の指導へつなげる
京都府介護支援専門員 実務研修	1 人	(Zoom) 介護支援専門員実務研修
京都府認知症介護実践者研修	2 人	認知症介護実践者研修(講義・課題・自施設実習)
働き続けたいと思える職場のつくり方 セミナー	1 人	介護現場における離と人間関係について改善する 方法
特定給食施設従事者等講習会	1 人	(Zoom) 衛生管理について知識・技術について
宮津市女性活躍応援塾	1 人	私らしく、いきいきハタラク、生きる、MIYAZU を
京都府看護協会「こうすれば防げる排 泄トラブル」	1 人	(Zoom) 皮膚・排泄に係る最新ケアの現状
企業内人権啓発推進員研修会、京都府 企業内人権問題啓発セミナー及び学卒 求人説明会	1 人	企業内人権啓発推進員研修会・京都府企業内人権 問題啓発セミナー
宮津市地域ケア会議②	4 人	身寄りのない認知症高齢者への支援について
チームリーダー研修振り返り研修	1 人	リーダーシップを発揮し指導するための手法を習 得
京都府認知症介護実践リーダー研修	2 人	認知症介護実践リーダー研修(講義・課題・自施設 実習)
認知症チームケア推進研修	8 人	(オンデマンド形式) 認知症チームケア推進加算 取得へ向けて介護実践リーダー研修を修了した者
若年性認知症支援研修会	1 人	若年性認知症の専門家より適切な支援のポイント を学ぶ
京都府機能訓練指導員等研修会	1 人	(Zoom) 食事のポイントと姿勢から考えるかわり
福祉専門職 記録の書き方研修	1 人	事実と判断を区別した書き方・使い方
安全運転管理者等講習	1 人	(オンライン) 安全運転管理者等講習
福祉リーダーの極意を学ぶ	1 人	(Zoom) 信頼される福祉リーダーへの極意
管理者向け虐待防止・権利擁護研修	1 人	(Zoom) 管理者向け
ハラスメント防止研修	1 人	ハラスメントの基本的な知識の習得と部下への指導方法 の習得
虐待防止研修	1 人	虐待防止(不適切なケア)の事例検討
ゲートキーパー研修	6 人	悩みを抱える人を適切に支援するための知識や役 割の習得(メンタルヘルスの向上)
「ムリ・ムダ・ムラ」をなくす業務改 善の第一歩	1 人	業務改善を実現し、効率化を進めて生産性向上を 高める
宮津市地域ケア会議③	2 人	看取り事例検討
丹後保健所管内栄養士研究会	1 人	(Zoom) タンパク質摂取の重要性について
生産性向上推進セミナー	1 人	生産性向上への取り組み
認知症ケアのためのパーソンセンタ ードケア研修	1 人	(Zoom) パーソンセンタードケアに基づいた認知 症の方への接し方や実践
カスタマーハラスメント研修	2 人	(Zoom) カスタマーハラスメントの定義及び対応
コーチング・マネジメント研修	1 人	コーチングの基礎を知りマネジメント力の向上
宮津市女性活躍応援塾最終発表	1 人	
難病従事者研修会	2 人	難病患者の在宅療養の把握と在宅支援への取組
宮津市地域ケア会議④	5 人	介護サービスの支援内容、特色について
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク 研修会	2 人	施設従事者のための高齢者・障害者虐待の予防
京都府老人福祉施設等職員研修(認知 症の周辺症状を学ぶ)	1 人	認知症の周辺状況を考え、支援の更なる質の向上 を図る
生産性向上セミナー・グループワーク	1 人	生産性向上の取り組みを継続的に取り組むため
施設で取り組むクレーム対応力向上研 修	1 人	(Zoom) クレーム対応体制の構築と組織としての 対応
在宅サービス関係者と北部医療センタ ー職員との連携会議	1 人	(Zoom) 医療・介護等の在宅療養支援体制整備へ の連携推進を目的
精神保健技術研修会	1 人	精神障害のある方を在宅で支援するための工夫や 関わり方について、知識及び技術の習得

施設看取り介護導入研修	2人	施設で看取り介護を推進することができる職員の育成
宮津市地域ケア会議⑤	3人	宮津市の地域ケア個別会議の取り組み
介護事業者のための業務継続計画（BCP）策定後の研修及び訓練に関するセミナー	1人	（オンデマンド形式）業務継続計画策定後の研修、訓練及び見直し
医療と介護の連携推進研修会	3人	大規模災害時における医療と介護の連携について
社会福祉法人役員・施設長等運営管理職員研修（SNSを活用したブランディング）	2人	（Zoom）求職者に対して福祉の魅力を伝え採用力強化
施設看取り専門研修	1人	（Zoom）看取りケアをより深め、様々な看取りに対応できる職員を育成
福祉人全力応援隊（頑張った君へ、感謝とエールの花束を）	2人	（Zoom）新人職員の現在の想いや、次年度以降に対する想いを確認
京都府北部在宅リハビリテーション研修会（障害福祉の現場におけるリハビリテーションの視点）	2人	（Zoom）障害福祉分野の自立支援へ向けた関わりについて
フォローアップ研修会	1人	介護職員基礎研修課、福祉即戦力人材養成科 訓練修了生に対するフォローアップ研修
研修会「障害者・高齢者虐待防止に向けて施設・事業所に求められる体制整備と身体拘束・行動制限の廃止を考える」	4人	障害者・高齢者虐待防止に向けて施設・事業所に求められる体制整備と身体拘束・行動制限の廃止を考える

【地域貢献事業】

月	事業名	参加者数
4～12月・2月3月	オレンジカフェ推進事業（いちごカフェ、ゆら・リングカフェ）	244人
6月4日	獅子地区一斉清掃	7人
9月1日	宮津市風水害防災訓練（台風の為、中止）	0人
11月14日	災害時の炊き出し訓練（青空食堂に脇の浜ご夫妻参加）	2名
12月1日	原子力総合防災訓練	7人
12月18日	栗田幼稚園園児 クリスマスプレゼント交換	11人

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受け入れ人数
9月	京都府看護協会	訪問看護師養成講習	1人
10月	京都教育大学	介護等体験	1人
10月	佛教大学	介護等体験	1人
11月	京都教育大学	介護等体験	1人

【ボランティア活動状況】

7月9日 音楽サークル ONCE NORE による七夕コンサート

【各種会議・委員会開催状況】

会 議 名	開催回数／年
業務運営会議	1 2回
入所判定会議	1 3回
安全衛生委員会	1 2回
感染症予防対策委員会	4回
認知症ケア委員会	5回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4回
事故虐待防止・身体拘束廃止委員会	1 2回
看取り委員会	4回
サークル活動運営委員会	1 2回
施設マニュアル委員会	2回
地域貢献PR委員会	1 2回
生産性向上委員会	4回

リハ・ヴィラなぎさ苑 事業報告書

【年度統括】

令和6年度において、当施設では感染予防対策を重要課題と位置づけ、ご利用者の安全確保に向けた取組を継続してまいりました。特に入所部門においては、令和5年度には、入所時に一定期間個室をご利用いただく対応を実施した結果、感染リスクの低減という面では成果があったものの、施設全体の稼働率に影響が及ぶという課題が明らかになりました。これを受け、本年度は運用方法を見直し、ご利用者の安心を損なうことなく、かつ施設運営の効率性を維持する対策を講じた結果、入所率の向上に成功しました。

また、在宅部門においては、感染症の影響により一部のご利用者がサービスを中止されるケースも発生しましたが、関係各機関との緊密な連携と情報共有の徹底により、通所リハビリの利用率は安定的に維持され、さらに居宅介護支援においては前年を上回る担当者数を達成するなど、柔軟かつ迅速な対応が評価されました。一方、訪問リハビリでは、職員の退職や産休などによる人員減少の影響が利用率の低下として現れました。令和7年度に向けて職員配置の安定化と利用者数の回復を図ります。

令和6年度は、看護職員、理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、介護補助職員など、多岐にわたる専門分野の職員を計8名新たに採用し、ご利用者へのサービス充実を進めるとともに現場対応の迅速化を実現しました。しかしながら、同時に職員の退職があり、特に介護職員の確保については今後の重要な課題として認識しています。これを踏まえ、令和7年度には職員の定着率向上を図るための研修体制の強化や、多職種間の連携促進を通じて、質の高いサービス提供に向けた人材育成と確保を一層推進してまいります。

施設設備面では老朽化に伴い、ボイラーやキュービクル、業務用乾燥機、業務用食器洗浄機等の計画的な交換を実施しました。また、眠りスキャンやインカムの導入、Wi-Fi環境の整備を行い、安全性と業務効率の向上を実現しました。さらに、施設開設25周年を迎える令和7年度に向け、ご利用者にとってより快適で安心できる環境の提供を目指し、設備更新計画を積極的に推進しています。これにより、今後も地域の皆様が安心してご利用いただけるサービス環境の確保と、当施設の品質向上に努めていきます。

このように、令和6年度の実績と課題を踏まえ、今後も感染予防対策の最適化、在宅サービスおよびリハビリテーションの利用促進、さらには職員体制の安定化と設備の更新に取り組むことで、地域社会の皆様に信頼される安全・高品質なサービスを提供してまいります。

【年度目標に対する成果】

重点項目	年度目標	実績
安定した経営	令和6年度介護報酬改定への迅速な対応を行い、在宅復帰超強化型を基本として各専門職の知識、技術、研修に基づく各加算を取得していきます。	介護報酬改定に対応するため、施設内で研修会を開催しました。これにより、職員が改定内容を十分に理解し、適切かつ迅速な対応が実現されました。
	居宅介護支援事業所や医療機関等と連携し安定したご利用者の確保に努めます。	関係機関との緊密な連携を通じ、安定的なご利用者の確保に成功しました。

	全職員がコスト意識を持ち主体的に運営に参画し、業務効率化を図っていきます。	職員間でコスト意識が浸透した結果、主体的な取り組みが促進され、業務効率化とご利用者の安定確保に寄与しました。
	法人本部と連携を図り、業務の集約化と効率化を目指します。	令和7年度の事務統合に向け、法人本部とさらなる連携強化を進め、業務効率の向上に取り組みました。
	消費電力の節約と二酸化炭素排出量の削減に努めます。	各職員への節電促進、ボイラー運転時間の見直し、そして開設時から使用していた24年前のボイラーを新型に交換することで、削減効果を実現しました。
安心・安全な介護サービスの提供	在宅復帰施設を基本とし在宅生活を維持して行くための支援を行なっていきます。	在宅復帰を目指すケアの実施および在宅担当ケアマネジャーとの連携強化、さらに退所前カンファレンスの実施により、スムーズな在宅復帰が実現しました。
	多職種間の連携を図り、情報ネットワークの活用と情報共有に努めます。	電子ケアシステムや共有フォルダ、Google フォームを活用し、多職種間で円滑な情報共有を実現しました。この取り組みにより、効率的な連携体制を構築しました。
	介護ロボットやICT機器導入によりご利用者の意思を尊重した環境整備を目指します。	実際にICT機器を導入することで、ご利用者の快適性と自主性が向上し、より良い支援体制が確立されました。
	科学的介護情報システム（LIFE）を活用して質の高い支援に繋がります。	LIFE システムを用いた分析結果をもとに、個々のニーズに合わせた支援計画を策定し、質の高いケアの提供を実現しました。
	自然災害や感染症発生時には業務継続計画（BCP）を基に対応していきます。	BCP の訓練と施設内研修の実施により、緊急時の対応能力と業務継続体制が大幅に強化されました。
	認知症の方の尊厳や個性を尊重し、チームケアを実践します。	認知症ケア委員会の開催および施設内研修により、施設全体での認知症理解が深まり、尊厳を重視した対応がさらに強化されました。
	個々の状態に対応した安心、安全な食事の提供を行なっていきます。	当施設および天橋園群に、ご利用者の状態に応じた栄養バランスの取れたメニューを職員間で情報共有しながら、継続して食事提供を行いました。
	各種マニュアルの整備、見直しを随時、実施していきます。	担当者を指定してマニュアルの整備および見直しを実施しました。今後も運用の向上に向けた取り組みを継続します。
	施設備品を管理し計画的に修理、更新を行なっていきます。	業者との連携を強化し、計画的な備品修理と更新を進めることで、施設運営の効率および備品の長期活用が可能となりました。
人材育成と確保	施設内研修（OJT）、施設外研修（Off-JT）、研究会等への参加を支援し職員の専門性向上を目指します。	研修への積極的な参加を通じ、個々のスキルアップとサービス向上が実現しました。
	e ラーニングを活用した研修機会を確保し、サービス向上に努めます。	施設内研修の企画および実施により、e ラーニングを活用した研修体制が確立され、職員の知識・技能が向上しました。
	新規採用、入職時には新任職員研修、他部署研修を実施し他部署を理解すると共にスムーズな連携を目指します。	各部署の特性理解を深める研修を実施することで、職員間の連携体制が円滑に整えられました。
	介護ロボットやICT機器導入により業務改善を継続的にを行い、職員の業務負担の軽減と働きやすい環境を目指します。	眠りスキャンやインカムの導入により、職員間の連携強化と業務負担軽減が実現し、快適な職場環境が整備されました。
	人事考課システムの変更により、客観的な評価の実施と職員のモチベーション向上を目指します。	評価の見える化が実現し、客観性の高い評価基準のもと、職員のモチベーション向上に繋がりました。
	福祉即戦力介護研修生の実習受入、学生の実習や体験学習の受入を行い、人材確保へ繋がります。	京都府立看護学校、龍谷大学短期大学部、YMCA 国際専門学校、福知山淑徳高等学校などからの受入れにより、各分野での人材育成基盤が強化されました。
	法人本部と協力したリクルート活動を実施し人材獲得に努めます。	各専門職による丁寧な施設説明が応募者への理解を深め、採用に繋がりました。

	ホームページ、SNS 等を活用した情報発信を行い人材確保に努めます。	毎月のお便りの発行により、施設魅力を発信し、人材確保への基盤を整えました。
地域貢献と連携	認知症カフェ、サポーター養成講座、健康講座などを実施・継続し、職員の専門知識を地域住民に提供します。	毎月開催の「須津なぎさカフェ（認知症カフェ）」や、6 月の吉津小学校児童対象の認知症サポーター養成講座の実施、さらに施設紹介を通じ、地域との連携が強化されました。
	地域住民が行うサロン活動の送迎等を始め、地域住民との繋がりを大切にします。	「せせらぎの会（ふれあいサロン）」開催日に公用車を利用した送迎支援により、地域住民との交流が深まりました。
	地域のニーズを把握し、行政や各関係機関と連携を図り対応していきます。	須津なぎさカフェやせせらぎの会での交流を通じ、地域のニーズを把握し、行政等との連携に反映させました。
	地域サロン、勉強会、行政が行う研修会等へ職員を講師として派遣していきます。	地域で実施されるサロン、研修会などに職員を派遣し、専門職の知識を提供することで、地域住民との交流および健康促進に大きく貢献しました。

【部門別事業報告】

1. 介護老人保健施設

① 長期等利用者の状況

（ア）療養介護状況

区分 年度	入所稼働率 (短期入所含)	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護 4・5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
5 年度	91.8%	61.2%	14.8%	25.0%	39.7%	59.2%
6 年度	92.5%	52.0%	17.0%	27.0%	58.0%	66.3%

（イ）退所者状況(延人数)

区分 年度	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合計
5 年度	75 人	9 人	45 人	1 人	10 人	9 人	7 人	156 人
6 年度	78 人	11 人	48 人	1 人	30 人	8 人	11 人	187 人

（ウ）地区別 入所者数(延人数)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	京丹後市	合計
5 年度	86 人	83 人	11 人	11 人	191 人
6 年度	95 人	82 人	10 人	11 人	198 人

（エ）年齢・性別 入所者数(延人数)

区分 年齢 性別	65 未満		65～69		70～79		80～89		90～99		100 以上		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度	0	0	3	1	6	12	21	53	23	58	2	12	55	136
6 年度	0	2	1	2	9	14	15	58	21	67	2	7	48	150
平均年齢	5 年度		男性		86.5 歳		女性		89.3 歳		合計		88.4 歳	
	6 年度		男性		90.4 歳		女性		90.1 歳		合計		90.2 歳	

（オ）介護度別 入所者数・平均介護度(延人数)

(単位：人)

区分	介護度 性別	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度		5	9	10	41	20	44	29	12	14	7	78	113
6 年度		2	12	11	44	19	41	14	41	2	12	48	150
平均要介護度		5 年度		3.0		6 年度		3.0					

(カ) 介護度別 延入居状況

区分	介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
5 年度		3,851 人	10,782 人	9,668 人	4,994 人	3,160 人	32,455 人
6 年度		3,351 人	12,071 人	8,510 人	6,745 人	2,020 人	32,697 人

(キ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	100 人	101 人	84 人	94 人

② 加算算定の状況

加算項目 (単位)	在宅復帰療養 加算Ⅱ(51)	夜勤職員配置 加算(24)	口腔衛生管 理Ⅱ(110)	認知症専門ケ ア加算Ⅰ(3)	生産性向上推 進体制加算 (10)	認知症短期集 中リハ加算 (120)
年度						
算定延回数(回)	32,697	32,697	1,187	21,660	1,231	724
加算収入額(円)	16,675,470	7,847,280	1,305,700	649,800	123,100	868,800

加算項目 (単位)	短期集中個別 リハ(258)	認知症短期集 中リハ加算 (240)	認知症ケア加 算(76)	安全対策体制 加算(20)	療養食加算(6)	経口維持Ⅰ (400)
年度						
算定延回数(回)	4,738	2,257	16,592	174	32,258	161
加算収入額(円)	12,224,040	5,416,800	12,609,920	34,800	1,935,480	644,000

加算項目 (単位)	経口維持Ⅱ (100)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	排せつ支援Ⅰ (10)	排せつ支援Ⅱ (15)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ(3)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)
年度						
算定延回数(回)	161	19,178	667	564	554	677
加算収入額(円)	161,000	2,109,580	66,700	84,600	16,620	88,010

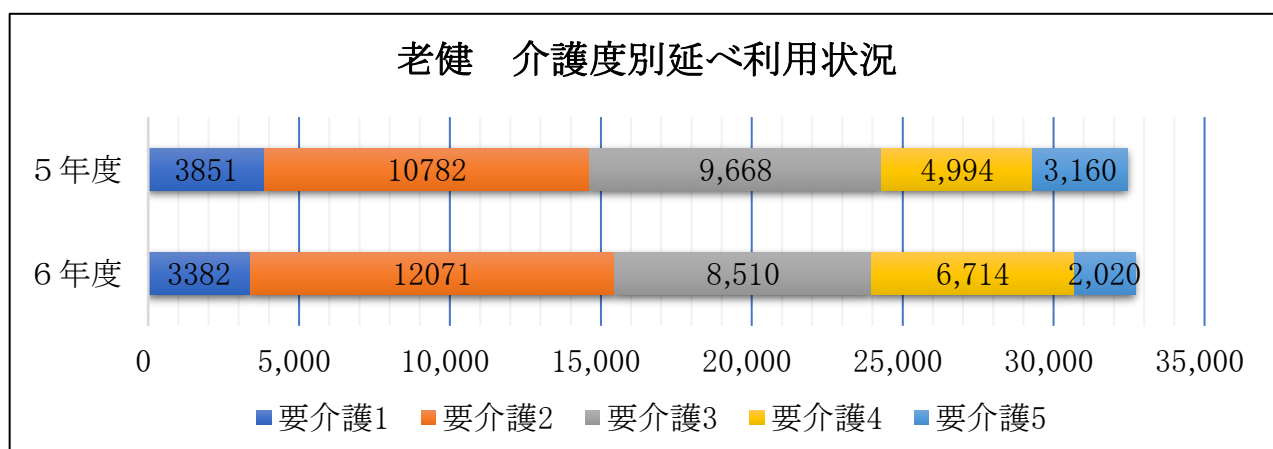
加算項目 (単位)	科学的介護推 進体制加算Ⅰ (60)	科学的介護推 進体制加算Ⅰ (40)	リハビリマネ ジメント計画 (53)	リハビリマネ ジメント計画 (33)	初期加算Ⅱ (30)	入所前後訪問 指導加算ⅠⅠ (450)
年度						
算定延回数(回)	704	527	711	516	3,981	94
加算収入額(円)	422,400	210,800	376,830	170,280	1,194,300	423,000

加算項目 (単位)	入退所前連携 加算Ⅰ(600)	退所時情報提 供Ⅰ(500)	退所時情報提 供Ⅱ(250)	外泊時費用 (362)	ターミナル 11(72)	ターミナル 21(160)
年度						
算定延回数(回)	81	82	23	2	15	64
加算収入額(円)	486,000	410,000	57,500	7,240	10,800	102,400

加算項目 (単位) 年度	ターミナル 31(910)	ターミナル 41(1,900)	所定疾患Ⅱ (480)	介護サービス 体制加算Ⅱ (18)
算定延回数(回)	14	7	365	32,697
加算収入額(円)	127,400	133,000	1,752,000	5,885,460

加算項目 (単位) 年度	介護職員処遇 改善加算Ⅰ等	加算収入額合計
算定延回数(回)		103,879,810
加算収入額(円)	29,248,700	

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



2. 介護部門

（一般療養棟）

前年度に引き続き、感染対策に細心の注意を払いながら、ご利用者の満足度向上を目指し、アクティビティの充実や住環境の整備、リスク管理に努めました。

ユニット単位での活動としては、ユニット会議を開催し、意見交換や集約を行なった上でフロア全体へ発信しました。これにより、担当ユニットごとにご利用者お一人おひとりに合わせたケアをフロア全体で協力して提供できました。

アクティビティでは、ユニット単位での実施からフロア全体での実施を行い、担当スタッフが工夫を凝らし、計画立案から実践を担いました。さらに各ユニットが創意工夫し、掲示物を活用してご利用者の目を楽しませる取り組みも行いました。

面会に関しては、その都度対応方法が異なることにより戸惑いもあり、施設全体での情報共有が不足していたと感じました。この点は来年度へ向けた反省となりました。

人材を育てる計画においては、フロア全体で「接遇」を大きな目標に掲げ、職員一人ひとりが自己と向き合う一年となりました。しかし、年度末にはご利用者およびそのご家族からの接遇に関する苦情が寄せられたことを受け、この取り組みが職員のスキルアップに繋がっていたのか再考が求められ、来年度以降の目標として引き続き取り組む必要があります。

人材確保については、介護補助職員の採用はあったものの、介護職員（正規職員）の採用

がなく、退職や産休などにより人員は前年度より厳しい状況となっています。早急な人材確保を希望します。

地域貢献については、現場から認知症ケア委員を派遣し、認知症カフェのメンバーとして活動する予定でしたが、人員不足により実現できない事もあり、地域貢献の面で十分な結果を残せませんでした。

感染症については「感染しない、持ち込まない」を念頭に業務を行なうことが基本ですが、職員の感染が相次ぎ、フロア内でも新型コロナウイルス感染が拡大したため、サービス提供を縮小せざるを得ない期間がありました。その間の入所受入れも中断し、施設経営やご利用者の生活の質に影響を及ぼしました。この状況を重く受け止め、個人の感染対策への責任を再徹底する必要性を感じています。また、感染症発生時や欠員発生時に焦らず行動できるよう、平時からの準備や指示系統の「見える化」を進める必要があります、これも来年度への課題です。

(認知症専門棟)

令和 6 年度は昨年度同様、施設全体で感染対策を重視し、感染拡大防止に努めました。しかし、ご利用者の感染や職員、同居家族の感染が多発し、特に令和 7 年 3 月にはご利用者 27 名・職員 6 名の感染が確認され、27 日間の感染対応を行うこととなり、多大なご迷惑をおかけしました。今後は、職員個々が感染対策・体調管理を徹底し、「持ち込まない」「拡げない」を基本に安心・安全な生活の場を提供し、ご利用者に一貫したケアを届けるよう努めてまいります。

人材育成に関しては、職員減少に伴い個々が抱える課題の早期解決に至らない状況が続きました。今後はコミュニケーションを深め、課題の早期発見と解決に向けて主任やユニットリーダーが情報を共有し、働きやすく風通しの良い職場環境の整備を目指します。

認知症専門棟としては、職員の認知症への理解と知識の向上、そして接遇の質の向上を引き続き目指します。また、職員がより良いサービスを提供できる体制を構築するため、課題となる言動や改善が必要な点についても、冷静かつ建設的に話し合える環境づくりを進めてまいります。

看取りケアでは、ご利用者との関わりを通じて想いをくみ取り、看護・介護・多職種間で連携し、安心して最期を迎えられる環境を提供できたと考えています。一方で、前年度の課題であったご家族との時間を作ることにについては、感染対応の状況下で十分に実現できなかった点が課題として残りました。来年度は感染対応中でも、介護職としてご家族に何が提供できるかを検討し、具体的な取り組みを進めてまいります。

3. 看護部門

令和 6 年度は、高まる看護ニーズに対応するため、副主任ポストを新設し、限られた看護リソースを効率的に活用できる体制でスタートしました。10 月には新スタッフを迎え、看護職員は総勢 16 名体制となりました。職員教育の一環として、動画教材を活用した基礎技術研修を開催したほか、実践能力向上を目的とした外部研修会に 12 名が受講しました。受講者が得た学びを職員間で共有する場として「看護部伝達講習会」を企画しました。また、京都府看護協会主催の研修会や介護職員初任者研修会、地域住民向けのカフェへの講師派遣など、社会活動にも積極的に取り組みました。

ICT面では、電子カルテのオーダー管理機能を導入し、業務の効率化、医療事故防止、入所者情報の共有化を進めました。さらに、グループウェア導入を機に看護ポータルサイトを整備し、スケジュール管理やマニュアルの電子化に着手しました。

感染対策委員会では、施設内感染サーベイランスや流行曲線、マッピングなどの情報をグループウェア上に構築し、運用を開始しました。これにより、感染予防と対応に活用しています。また、多職種によるラウンドを実施し、現場の問題改善や設備面の整備にも取り組みました。

皮膚排せつケア委員会では、LIFE へのデータ提出を継続し、ケアの質向上に努めました。令和 6 年度の施設内褥瘡発生件数は 19 件と若干増加しましたが、褥瘡リスクアセスメントを基に体圧分散マットレスの供給率を設定し、エアマットレスの整備を行いました。

看取り委員会では、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の一環として、インフォームド・コンセントにおける意思決定支援を強化し、新たに病状説明書を導入しました。これにより、ご利用者ご家族への丁寧な情報共有に努めました。また、リビング・ウィルの取り組みとして、事前意思表明書を整備し、ご希望のあったご利用者の文章作成に結びました。

4. 支援相談室

令和 6 年の介護報酬改定により、老健の在宅復帰および在宅療養支援の推進が見直されました。その中で、平成 30 年 6 月より開始された「超強化型加算」は、令和 6 年度も継続算定が可能となりました。相談室では、改定内容を深く理解し、「在宅復帰率」「回転率」「入退所前後訪問数」に加えて「入所稼働率」を細かく把握し、毎月の業務運営会議で各部署主任との積極的な情報共有を行いました。

令和 6 年度には、感染予防対策として行っていた入所時の個室利用での様子観察期間を緩和し、スムーズな入所を実現しました。この取り組みにより稼働率の向上につながりました。一方で、在宅復帰率は前年度と比較して低下しました。これは、入院による退所者の増加によるものであり、特に医療機関からのご利用者が再入院するケースが多かったことが主な要因です。この課題に対応するため、多職種同行による入所前面接を実施し、より的確な情報収集を行い入所につなげる取り組みを強化しました。

また、ご利用者やご家族との対面面会を徐々に再開し、直接お会いいただく機会を設けました。この対応により、ご利用者の日頃の様子を職員が直接伝えることができ、信頼関係の構築につながっています。

ご利用者の生活に彩りを添えるため、相談室主催で月 1 回の「きんとくカフェ」を開催し、淹れたてのコーヒーを楽しんでいただきました。

また、社会福祉学科の学生の実習受入、地域貢献活動として、「須津なぎさカフェ」や「認知症サポーター養成講座」（吉津小学校 3 年生対象）を開催しました。さらに、「ふれあいサロン」への参加者送迎を継続し、地域の方々との交流を深めました。その結果、「須津なぎさカフェ」への参加者も増え、地域活動の広がりを感じることができました。

令和 7 年度も在宅復帰支援と地域貢献に努め、ご利用者に寄り添った支援を継続してまいります。今後も、より良いサービスを提供できるよう取り組んでまいります。

【在宅復帰・在宅療養支援等指標】

	令和 6 年度目標	獲得点数	令和 6 年度実績
1. 在宅復帰率	毎月 50%超	20 点	平均 52%
2. ベッド回転率	毎月 10%以上	20 点	平均 17%
3. 入所前後訪問指導	毎月 35%以上	10 点	平均 58%
4. 退所前後訪問指導	毎月 35%以上	10 点	平均 66%
5. 居宅サービス実施数	3 サービス継続	5 点	3 サービス
(通所リハビリ・訪問リハビリ・短期入所)			
6. リハ専門職の配置人数	5 名以上	5 点	6 人
(PT・OT・ST いずれも配置)			
7. 支援相談員の配置人数	4 人以上	5 点	4 人
(社会福祉士の配置あり)			
8. 重度者割合 (要介護 4+5)	----	0 点	27%
9. 喀痰吸引の実施割合	----	0 点	0%
10. 経管栄養の実施割合	----	0 点	0%
指標点数/合計	75 点以上	75 点	75 点
入所稼働	95%以上		92.5%

【算定要件】(基本型以上を算定するための要件)

- ・退所時指導等 (a. 退所時指導の実施、b. 退所後の状況確認<1 ヶ月以内>)
- ・リハビリテーションマネジメント (リハビリ計画策定と評価の実施)
- ・地域貢献活動：加算型以上は必須
- ・充実したリハビリ (少なくとも週 3 回程度のリハビリ実施)：在宅強化型以上は必須

5. 機能訓練室(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

前年度に引き続き、超強化型維持を目的として、ご利用者全員に週 3 回以上の個別リハビリ介入を実施しました。短期集中リハビリテーション加算については、感染対策のため中止となった期間が複数ありましたが、前年度より実施数が増加しています。

認知症短期集中リハビリテーション加算については、前年度は施設長の交代により 7 月まで算定ができない状況があり減少していましたが、今年度は 4 月から算定が可能となり、安定して実施することができています。

経口維持加算に関しては、4 月から言語聴覚士の正職員を 1 名増員し、2 階および 3 階に専属で配置しました。これにより、ご利用者の状態把握や職員間の連携がより円滑に行える体制を整えました。また、前年度と比較して「ねもとリハビリテーション」への派遣や外部講師など、外部からの依頼も増加しています。

入退職については前年度と比較して安定した状況となりましたが、慢性的な人員不足の状況下でも、ご利用者の満足度の低下を防ぐため、多職種連携を図りながらリハビリを提供していきます。さらに、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれが専門性を最大限発揮できる職場環境の構築を目指します。今後も、ご利用者の在宅復帰を支援するための取り組みを継続していきます。

6. 給食部門

令和6年度は退職者があり、その後の人材確保が困難な状況となりました。そのような中でも、感染症対応時には職員一同が協力体制を構築し、現場に寄り添いながら、可能な限りの支援を提供しました。現場では柔軟な対応を重ね、ご利用者の安心と快適な暮らしを支える努力を続けました。

自然災害を想定した非常食提供訓練では、アルファ米やレトルト食品を活用し、災害時の食事への不安を軽減することができました。これにより、職員やご利用者の安心感が高まりました。また、与謝の園から譲り受けたブラストチラーを有効活用し、効率的な食材冷却体制を構築しました。この取り組みにより、衛生面に配慮しつつ、安全かつ迅速な食事提供が可能となりました。

さらに、この設備の導入は食事の品質向上に寄与するだけでなく、職員の業務負担軽減にもつながり、現場の効率を向上させました。これらの取り組みによって、職員間の連携が強化され、チームの結束力が高まりました。その結果、質の高いサービスをより効率的に提供できる体制が整い、多くのご利用者に安心と満足を届けることが可能となりました。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	長期入所	短期入所	デイケア	天橋園通所	ハウゼ天橋	GH 天橋の家
5 年度	32,454	2,539	5,594	4,581	2,416	11,145
6 年度	32,694	2,630	5,639	4,590	2,567	4,870

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミン (μg RE)	ビタミンB (mg)	ビタミンB (mg)	ビタミン (mg)	食物繊維 (g)	食塩相 当量 (g)
基 準	1,480	60	600	39	7.5	460	0.8	1.0	90	15	7.5
5 年度	1,482	60.7	521	41.2	6.5	591	0.7	0.94	87	11.4	7.3
6 年度	1,484	60.2	516	41.5	6.4	553	0.69	0.92	84	11.8	7.4

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	穀類	いも及びでん粉類	砂糖及び甘味料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	し好飲料類	調味料及び香味料	調理加工品類
目 標	210	60	10	40	8	3	50	60	40	35	200	200	150	60	3	-	-	-
6 年度	205	51.9	15.3	15.3	29.9	2.1	43.7	59.5	50.3	26.9	201.2	170.1	127.8	59.1	1.1	9.6	55.7	18.2

7. 医務室(診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師)

医師の適切な管理のもと、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となり、医薬品や検査キット、医療機器などの備品整備を通じて、診察室および薬局の運営体制の向上に努めました。

また、入所時のリスク説明書、病状報告書、看取り同意書（人生最終段階における医療・介護に関する同意書）を用意・活用することで、ご家族への説明と同意（インフォームド・コンセント）を実施しました。さらに、ご利用者ファイルの先頭にこれらの書類を添付し、急変時や看取りケアにおいて迅速かつ確実な対応を図りました。

新型コロナウイルスへの対応として、発熱などの症状を認めた方に抗原検査や PCR 検査を実施し、感染防止策を徹底しました。また、インフルエンザ感染対策として、ご利用者へのワクチン接種を実施し、職員には無償で接種の機会を提供しました。さらに、職員の家族がインフルエンザに罹患した場合には、潜伏期間中の職務を控える措置を講じるなど、感染拡大防止のための体制強化に取り組みました。

歯科衛生士が入所者の口腔内衛生を丁寧にチェックし、その結果に基づき口腔衛生管理加算を取得しました。さらに対象を通所利用者にも拡大し、加算を獲得しました。介護および看護職員への定期的な指導を実施し、チーム全体で口腔衛生の向上に取り組む体制を強化しました。

8. 短期入所療養介護事業所

短期入所サービスにおいては、長期入所をご利用いただいた方が在宅復帰後も引き続き当施設の短期入所サービスを利用されるケースが増加しています。この動向を受け、在宅復帰後の生活を支えるための継続的な支援体制を一層強化しました。

さらに、短期入所サービスを利用することで、在宅介護者の負担軽減やご利用者への継続的なリハビリ支援が可能となり、地域のニーズに応じたサービス展開を実現しました。これらの取り組みにより、新規ご利用者の増加に繋がり、施設の利用率向上と地域への貢献をさらに深める成果を達成しました。

①利用者の状況

(ア) 新規契約者(延人数)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	44 人	20 人	7 人	22 人
内 予防	0 人	0 人	0 人	0 人

(イ) 地区別 入所状況(延人数)

年度 \ 介護度	宮津市	与謝野町	伊根町	京丹後市
5 年度	24 人	13 人	0 人	0 人
6 年度	18 人	17 人	0 人	2 人

(ウ) 介護度別 入所者数・平均介護度(延人数)

(単位：人)

区分 \ 介護度 性別	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5 年度	8	7	11	9	4	25	25	36	33	15	81	92
6 年度	2	3	7	24	8	7	9	31	15	17	41	82
平均要介護度	5 年度		3.6		6 年度		3.4					

(エ) 介護度別 延入所状況

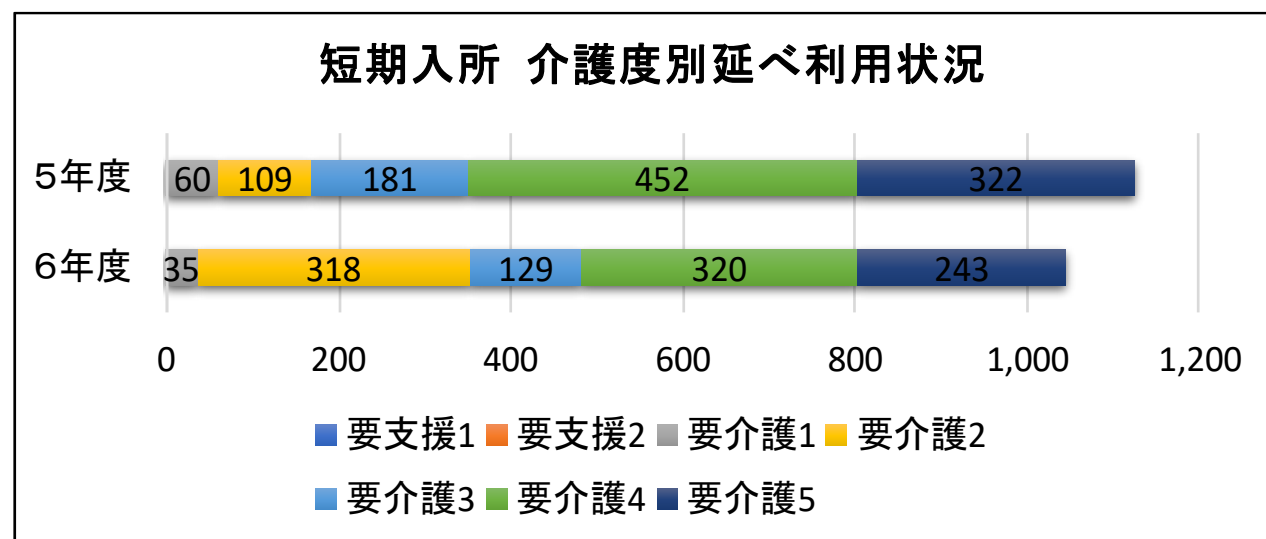
介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
5 年度	0 人	0 人	60 人	109 人	181 人	452 人	322 人	1,124 人
6 年度	0 人	0 人	35 人	317 人	130 人	320 人	243 人	1,045 人

②加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	送迎加算 (184)	個別リハビリ (240)	夜勤職員配置 (24)	認知症専門ケ ア加算 I (3)	生産性向上推 進体制加算 I (10)	認知症ケア加 算 (76)
算定延回数(回)	242	403	1,045	473	122	408
加算収入額(円)	445,280	967,200	250,800	14,190	12,200	310,080

加算項目 (単位) 年度	療養食加算 (8)	重度療養管理 加算 I (120)	介護サービス体 制加算 II (18)	在宅復帰療養 加算 II (51)	介護職員処遇改 善加算 I 等	加算収入額合 計
算定延回数(回)	1,244	70	1,045	1,045		3,910,140
加算収入額(円)	99,520	84,000	188,100	532,950	1,005,820	

※介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和 6 年 6 月から処遇改善加算（Ⅰ～Ⅴ）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



9. 通所リハビリテーション

令和 6 年度も、感染症予防対策を全職員で徹底し、ご利用者へ注意喚起を行うことで蔓延予防に努めました。利用中に感染者が発生した場合には速やかに主治医やご家族へ連絡し、帰宅対応を実施することで集団感染を防ぎつつ、サービスの提供を継続しました。また、大雪や台風などの気象状況が悪化した際や警報発令時には時短営業など状況に合わせた対応を行い、ご利用者の生活を支える対応を行いました。

通所リハビリとして、退院後のリハビリ継続が必要な方を優先的に受け入れるため、退院前カンファレンスにリハビリ職員が参加し、退院時共同指導加算を取得しました。これ

により、ご利用者やご家族が安心して在宅生活を継続できる体制を整備しました。

また、リハビリ職員、看護職員、歯科衛生士など専門職を配置し、多職種による関わりを通じてご利用者の満足度が向上しました。これにより増回希望が増え、安定した稼働率につながりました。

さらに、カラオケ機器の導入により、ご利用者の余暇活動を充実させるとともに、職員の負担軽減にも寄与しました。

①利用実績

(ア) 平均利用者数・利用率(要支援含む)

年度 \ 区分	利用定員/日	営業日数	延利用者数	平均利用者数/日	利用率
5 年度	27 人	257 日	5,698 人	22.2 人	82.11%
6 年度	27 人	258 日	5,744 人	22.3 人	82.45%

(イ) 介護度別利用状況・平均要介護度(介護給付事業)

年度 \ 介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均要介護度
5 年度	1,491 人	1,357 人	1,397 人	337 人	354 人	4,936 人	2.33
6 年度	1,561 人	1,683 人	1,300 人	405 人	256 人	5,205 人	2.25

(ウ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	30 人	31 人	30 人	25 人
内 予防	2 人	2 人	4 人	1 人

②加算算定の状況

加算項目 年度 (単位)	入浴介助加算 I (40)	入浴介助加算 II (60)	口腔機能向 上加算 II (160)	リハマネ提供 加算 1(12)	リハマネ提供 加算 2(16)	リハマネ提供 加算 3(20)
算定延回数(回)	4,485	348	1,605	6	89	2
加算収入額(円)	1,794,000	208,800	2,568,000	720	14,240	400

加算項目 年度 (単位)	リハマネ提供加 算 4(24)	リハマネ提供 加算 5(28)	認知症短期集 中リハ(240)	科学的介護推 進体制加算 (40)	退所時共同指 導加算(600)	介護サービス 体制加算 I (22)
算定延回数(回)	5,110	1	363	911	5	5,209
加算収入額(円)	1,226,400	280	871,200	364,400	30,000	1,145,980

加算項目 年度 (単位)	介護職員等処遇 改善加算 I 等	加算収入額合計
算定延回数(回)		12,775,600
加算収入額(円)	4,551,180	

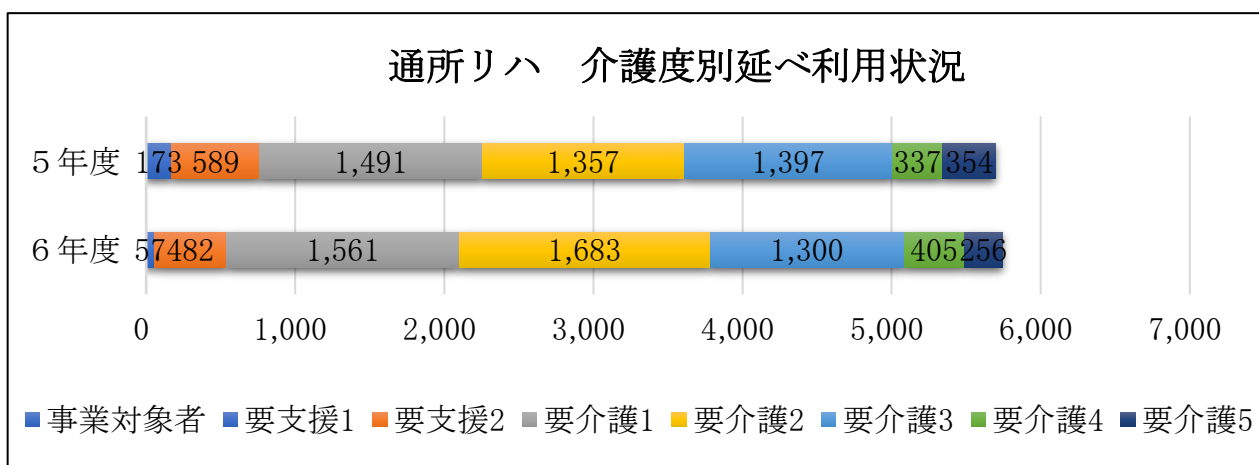
(エ) 介護度別利用状況(介護予防事業)

年度 \ 介護度	要支援 1	要支援 2	介護予防計
5 年度	173 人	589 人	762 人
6 年度	57 人	482 人	539 人

加算項目 (単位) 年度	運動機能向上 (225)	複数サービス I 2 (480)	体制加算 I 1 (88)	体制加算 I 2 (176)	一体的サービ ス 提 供 加 算 (480)	リハ科学的介 護推進体制加 算 (40)
算定延回数(回)	2	13	14	91	91	106
加算収入額(円)	4, 500	62, 400	12, 320	160, 160	436, 800	42, 400

加算項目 (単位) 年度	介護職員処遇 改善加算 I 等	加算収入額合計
算定延回数(回)		1, 117, 350
加算収入額(円)	398, 770	

※ 介護職員等処遇改善に関する各種加算は、それまでの処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算が統合され、令和6年6月から処遇改善加算（I～V）として統一されたため、全ての加算の合計額を計上しています。



10. 訪問リハビリテーション

令和6年度は、入所兼務により理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の4名体制（常勤換算 1.7 名）で運営しています。入退職によるセラピストの人員減少や感染予防対策の影響で、全体の枠数および実施総数は減少傾向にあります。

昨年度までは計画書未実施減算を算定していましたが、今年6月以降は算定しないよう取り組んでおります。また、今年度は言語聴覚士が必要な新規ご利用者を増やすため、積極的に宣伝・営業を行いました。その結果、言語聴覚士の訪問枠や依頼が増加し、宮津市地域包括からアドバイザーとしての依頼も受けています。

今後も感染症対策に十分配慮しながら、ご利用者のニーズに応じた専門性の高いリハビリテーションを提供できるよう努めてまいります。

（ア）介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
5 年度	188 人	359 人	468 人	1, 214 人	922 人	617 人	591 人	4, 359 人
6 年度	272 人	64 人	473 人	884 人	971 人	543 人	572 人	3, 779 人

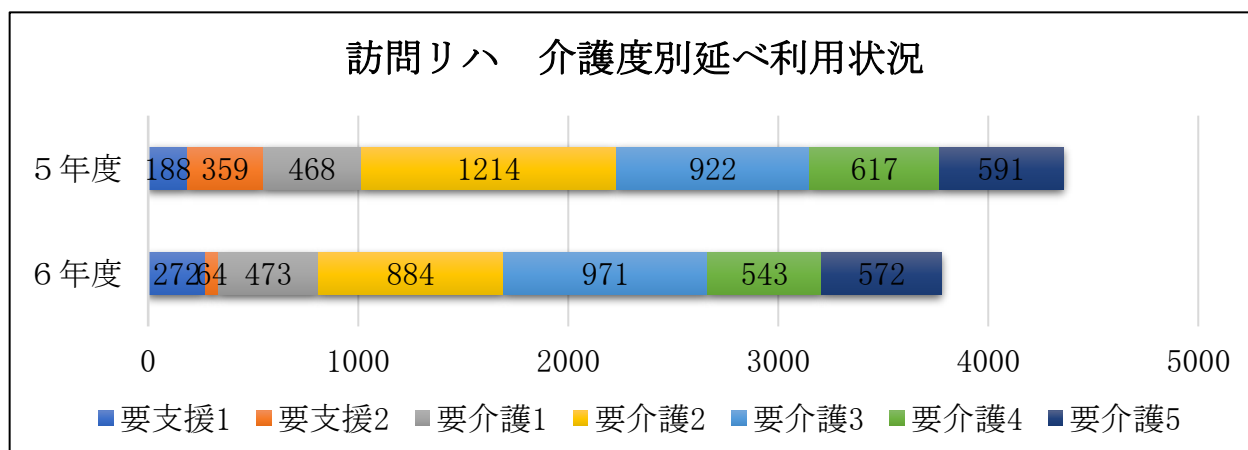
(イ) 年度別 (新規契約者数の状況)

	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	16 人	12 人	7 人	9 人
内 予防	2 人	2 人	1 人	2 人

①利用実績・加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	訪問リハビリ (308)	短期集中リハ 加算 (200)	サービス提供 体制加算 I (6)	リハ移行支援 加算 (17)	退所時共同指 導加算 (600)	加算収入額合計
算定延回数(回)	3,443	24	3,174	1,145	2	11,049,530
加算収入額(円)	10,604,440	48,000	190,440	194,650	12,000	

加算項目 (単位) 年度	予防訪問リハ ビリ (298)	予防サービス 提供体制加算 I (6)	加算収入額合計
算定延回数(回)	336	336	1,021,440
加算収入額(円)	1,001,280	20,160	



1 1. 居宅介護支援事業所

令和 6 年度は 6 人体制を維持し、宮津市（栗田地区から大島地区まで）や与謝野町岩滝地区を中心に新規利用者の積極的な受け入れを行い、件数の維持に努めました。ご利用者の心身や生活状況を考慮し、ご利用者やご家族の意向を尊重しながら、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、ご利用者の立場に立った居宅サービス計画書を作成し支援を行いました。

医療連携では、安心ネットを活用し、主治医や関係機関との密接な連携を図りながら支援を進めました。また、退院・退所前カンファレンスが徐々に開催されるようになり、病院や施設からの情報を共有することで、適切な介護サービスの提供を実現しました。

困難事例が増加する中、事業所内で事例報告を行い、担当者が一人に対応するのではなく、地域包括支援センターとの連携・協働による対応に努めました。様々な事情を抱えるご利用者に対して適切な支援が行えるよう、介護支援専門員研究会や地域ケア会議への積極的な参加を通じて他職種との交流を深めました。また、法人内で定例会議や事例検討会を開催し、ケアマネジャーとしての資質向上に取り組みました。

ターミナルケアマネジメント加算では要件が見直され、15 件が必要となりましたが、今年度は 8 件にとどまり目標を達成できませんでした。退院・退所加算についても算定要件

を満たす機会が増えず、医療介護連携加算を算定することができませんでした。今後も特定事業所加算Ⅱの算定に加え、医療介護連携加算再開に向けた取り組みを継続します。

業務効率化とコスト削減を目指し、ケアプランデータ連携システムやチャットワークの活用を進めてまいります。

①利用実績

(ア) 相談件数

年度 \ 内容		介護保険 その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
5 年度	実数	290 件	15 件	6 件
	延数	25,817 件	135 件	15 件
6 年度	実数	293 件	11 件	10 件
	延数	26,998 件	185 件	21 件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	延べ人数	実件数
5 年度	2,493 人	290 件
6 年度	2,606 人	293 件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 \ 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
5 年度	33 人	60 人	839 人	835 人	356 人	273 人	190 人	2,586 人
6 年度	38 人	63 人	929 人	865 人	400 人	267 人	145 人	2,707 人

(エ) 年度別 (新規契約者数の状況)

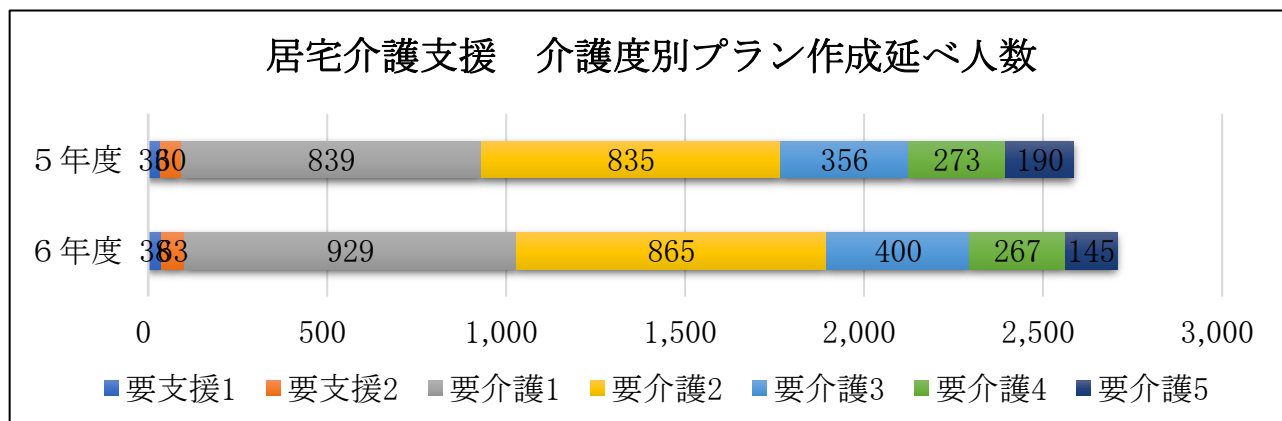
	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
新規契約	69 人	79 人	72 人	82 人

加算算定の状況 (居宅介護支援)

(単位：回)

加算項目 \ 回数 金額	特定事業所加算Ⅱ (421)	入院時情報 連携加算Ⅰ (250)	入院時情報 連携加算Ⅱ (200)	退院退所加算 Ⅰイ (450)	通院時情報 連携加算 (50)
算定回数(回)	2,606	56	30	15	60
加算収入額(円)	10,971,260	140,000	60,000	67,500	30,000

加算項目 \ 回数 金額	ターミナルケア 加算 (400)	加算収入額合計
算定回数(回)	10	11,308,760
加算収入額(円)	40,000	



1 2. 事務部門

令和 6 年度においても、昨年度に引き続き当施設では感染症対策を優先事項とし、安全かつ安心な環境の提供に努めました。具体的には、ご利用者受入れ時に徹底したスクリーニング検査を実施するとともに、職員の家庭内で体調不良者が発生した場合には、速やかに報告を受け、適切な管理を行うことで、施設内での感染症発生防止に取り組みました。

また、昨年度、慎重な受入体制により稼働率に影響を及ぼしたことを受け、今年度は柔軟な受入れ体制の構築を進め、稼働率改善に努めました。さらに、開設 24 年を迎えた施設設備についても、計画的な更新や入替を随時実施することで、ご利用者と職員双方にとって生活しやすく働きやすい環境の整備を図りました。

これらの取り組みにより、安全性と利便性の向上を実現しました。

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数
5 年度	19 パック
6 年度	152 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 3 日	97 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 3 日 2 月 10 日	69 人 67 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 10 日	45 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月 3 日	72 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
事務長	32 名	令和 6 年度介護報酬改定概要説明会(なぎさ苑関係)
職員研修委員会	29 名	接遇マナー
職員全体会議	80 名	令和 5 年度の振り返りと令和 6 年度の目標
感染症予防対策委員会	26 名	感染拡大を防ぐ技術の提供に必要な基礎知識
リスクマネジメント委員会	24 名	身近なリスクマネジメント

身体拘束虐待防止委員会	30 名	高齢者虐待防止研修～不適切ケアは虐待の始まり～
職員研修委員会	31 名	非常食提供訓練報告会
看護部	30 名	救急対応訓練～コード救急について～
リスクマネジメント委員会	21 名	介護リスクマネジメントの基本
安全衛生委員会	19 名	ハラスメントの正しい理解
認知症ケア委員会	18 名	認知症及び認知症ケアに関する研修
皮膚排泄ケア委員会	20 名	皮膚排泄ケアについて
身体拘束虐待防止委員会	17 名	高齢者虐待防止研修
感染症予防対策委員会	20 名	感染症 BCP 研修～感染症発生時の初動対応について～

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
「令和 6 年度介護報酬改定（詳細）説明会」 「介護ロボット・ICT 導入支援セミナー」	1 名	介護老人保健施設と主なサービス改定ポイント 生産性向上推進体制加算について
2024 年度京都市看護職能力向上・ 定着確保研修プログラム	1 人	医療法と感染症に関わる法律と常識
アルコールに関する研修会	2 人	アルコール依存症への対応
フォローアップ研修	2 人	主体性・協調性考動実践研修
安全運転管理者講習会	1 人	安全運転管理のための情報提供
運営基準に沿った居宅介護支援の実務	1 人	法令順守のためにすべきこと
介護給付適正化研修	4 人	令和 6 年度介護報酬改定～居宅介護支援を中心に～
看取り基礎研修	3 人	在宅・施設での看取りに大切な ACP の考え方
宮津市地域ケア会議	6 人	マイホームミクス・看取り事例等
京都府看護協会実践能力向上研修	5 名	「急性期における脳梗塞と脳卒中の看護」 「克服しよう心電図」 「超高齢社会で求められる高齢者ケアの実際」 「感染症の基礎知識と看護」 「発達障害かもしれない場面と支援」
京都府認知症介護実践者研修	10 人	認知症ケアの理念と支援方法
京都府北部 WOC ケア出張講座	2 人	褥瘡予防と褥瘡以外のスキントラブル
全老健 2024 年度看護職員研修会	1 人	看護職員が知っておくべき令和 6 年度介護報酬改定 や老健施設利用者に多い疾患
第 25 回日本言語聴覚学会	3 人	言語聴覚士の強みを生かした介護食嚥下食料理教室の意義
地区別看取りサポート研修	2 人	多職種連携の実践報告
認知症看護研修病院勤務以外の 看護師等認知症対応力向上研修	1 人	認知症施策の推進について・ 共生社会の実現を推進するための認知症基本法
府社協令和 6 年度 キャリアアップチームリーダー職員研修	2 人	「キャリアデザインとセルフマネジメント」
府社協令和 6 年度 キャリアアップ中堅職員研修	5 人	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理
令和 6 年度医療と介護の連携推進研修会	1 人	丹後圏域における認知症初期集中支援チームの活動 について
令和 6 年度介護福祉士実習指導者講習会	4 人	介護の基本・介護過程の理論と指導方法
令和 6 年度宮津市介護支援専門員研究会	15 人	適切なケアマネジメント手法・ 生活支援係との連携・言語
令和 6 年度宮津市高齢者等虐待防止ネッ トワーク研修会	2 人	施設従事者のための高齢者・障害者虐待の予防
令和 6 年度京都府介護支援専門員研修課 程Ⅰ	6 人	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状等
令和 6 年度京都府介護支援専門員研 修課程Ⅱ	8 人	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開等
令和 6 年度施設ケアマネジャー部	2 人	カスタマーハラスメント対策についてと、

会・支援相談員部会合同研修		それに伴う職員のメンタルヘルスケアについて
令和6年度看護実習指導者講習会	1人	
令和6年度看護実習指導者講習会 フォローアップ研修	1人	臨地実習において看護学生の成長を促す 学習環境づくりと教育的かかわり
令和6年度若年性認知症支援研修会	3人	実践報告
令和6年度生産性向上推進セミナー	2人	生産性向上の取組みの必要性
令和6年度栄養部会研修会	2人	令和6年度介護報酬改定栄養関連について
令和6年度地域リハビリテーション 丹後圏域連絡会	1人	丹後圏域における地域リハビリテーションの課題と 今後の取組について
令和6年度地域包括ケア推進人材育成 研修	6人	適切なケアマネジメント手法について 摂食嚥下について等
令和6年度特定給食施設従事等講習会	3人	給食施設における衛生管理について
令和6年度難病従事者研修会	4人	神経難病者の基本的知識～医療的ケアのある難病患者 者の対応～
令和6年度入退院時連携検討会	1人	入退院時連携状況の課題について・今後の方向性
令和6年度能登半島地震京都府災害支 援ナース活動報告会	1人	能登半島地震被災地における災害支援ナースの活動 について

【地域貢献事業】

月	事業名	参加者数
毎月	須津なぎさカフェ	58人
毎月 (1月以外)	せせらぎの会サロン送迎	11人
4月・12月	はしだて一斉清掃	3人
2月	与謝野町ふれっしゅ体操	1人
3月	柳縄手地区ふれあいサロン活動	1人

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
4月～10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	17人
6月	吉津小学校3年生施設見学	施設概要説明・見学	13人
7月・8月・9月・12月	龍谷大学短期大学部	ソーシャルワーク実習	4人
4月・3月	京都府介護支援専門員実務研修実習	介護支援専門員実習	2名
6月	YMCA 国際専門学校施設実習	福祉施設実習	2名
8月	ジョブチャレンジ	福祉施設実習	2名
9月	福知山淑徳高等学校調理実習	施設調理実習	2名

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数／年
業務運営会議	12回
入所検討会議	51回
ユニット会議	96回
リーダー会議	24回
部署別会議(各部署)	12回

感染症予防対策委員会(臨時開催含む)	17 回
リスクマネジメント委員会	12 回
身体拘束虐待防止委員会	12 回
皮膚排せつケア委員会	12 回
安全衛生委員会	12 回
サービス向上委員会	12 回
認知症ケア委員会	11 回
栄養マネジメント委員会	10 回
生産性向上委員会	6 回
職員研修委員会	6 回
苦情対応委員会	4 回
敬老会実行委員会	4 回
北星会施設長会議	24 回

施設・事業所別 職員数一覧

令和 7 年 3 月 31 日現在

事業名 北星会 法人本部

		事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	のびのび	その他		合計
実人数	常勤職員	1	1	6										8
	非常勤職員										8	1		9
常勤換算による人数		1.0	1.0	6.0							0.8	0.1		8.9

施設・事業所別 職員数一覧

令和7年3月31日現在

天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	介護補助				合計
実人数	常勤職員			2	7	16	1								26
	非常勤職員					25	3			3	1				32
常勤換算による人数				2.0	7.0	26.4	2.9			1.5	0.8				40.6

事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他	介護補助						合計
実人数	常勤職員			1		4									5
	非常勤職員					2	2	2							6
常勤換算による人数				1.0		5.6	1.6	1.2							9.4

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所

認知症対応型通所介護

(利用定員 12 名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他							合計
実人数	常勤職員			1		2	1								5
	非常勤職員					3	1	1							5
常勤換算による人数				1.0		3.1	1.3	0.3							5.7

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員					2									2
	非常勤職員					16									16
常勤換算による人数						7.6									7.6

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

※1名は管理者と兼務

事業所名 グループホーム天橋の家

(利用定員 18名)

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助						合計
実人数	常勤職員				1	8									9
	非常勤職員					4			1						5
常勤換算による人数					1.0	10.1			0.8						11.9

※1名は管理者と兼務

事業所名 天橋園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員				6										6
	非常勤職員														0
常勤換算による人数					6.0										6.0

※1名は管理者と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 7 年 3 月 31 日現在

与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手	介護補助		合計
実人数	常勤職員	1	3	3	5	49	6	2	6						75
	非常勤職員					16	4		4	3	1	1	6		35
常勤換算による人数		1.0	3.0	3.0	5.0	54.8	7.2	2.0	7.7	1.5	0.1	0.4	2.5		88.2

施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 75 名・短期 15 名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	介護補助			合計
実人数	常勤職員	1	3	2	1	37	4	2	6						56
	非常勤職員					7	3		3	2	1	6			22
常勤換算による人数		0.6	3.0	2.0	1.0	41.5	5.8	2.0	7.2	1.2	0.1	2.5			66.9

事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 30名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手	その他					合計
実人数	常勤職員	1		1		5	1								8
	非常勤職員					5	1	1	1	1					9
常勤換算による人数		0.2		1.0		7.5	1.3	0.5	0.4	0.3					11.2

事業所名

与謝の園訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				5									6
	非常勤職員					2									2
常勤換算による人数		0.1				5.5									5.6

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名

与謝の園訪問入浴介護事業所

介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員								合計
実人数	常勤職員	1				2	1								4
	非常勤職員					2									2
常勤換算による人数		0.1				0.3	0.1								0.5

※介護予防との兼務は含める。

事業所名

与謝の園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員										合計
実人数	常勤職員				4										4
	非常勤職員														0
常勤換算による人数					4.0										4.0

※1名は管理者と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 7 年 3 月 31 日現在

天橋の郷・Re-Style・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	3	5	1	60	6	1	2	8					87
	非常勤職員					12	4			2	5	1	2	1	27
常勤換算による人数		1.0	3.0	5.0	1.0	66.2	8.6	1.0	2.0	9.3	1.9	0.8	0.7	0.1	100.6

施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70 名・短期 20 名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医		合計
実人数	常勤職員	1	3	2	1	47	3	2	8						67
	非常勤職員					9	3		2	4	1	1	1		21
常勤換算による人数		0.9	3.0	2.0	1.0	52.1	4.8	2.0	9.3	1.1	0.8	0.4	0.1		77.5

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士					合計
実人数	常勤職員	1		1		7	1			1					11
	非常勤職員					1	1								2
常勤換算による人数		0.1		1.0		7.8	1.8			1.0					11.7

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 Re-Style 通所介護事業所

(利用定員 15 名/午前、15 名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手							合計
実人数	常勤職員			1		2	1								4
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数				1.0		2.8	1.0	0.3							5.1

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 はまなす苑通所介護事業所

(利用定員 20 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	介護補助							合計
実人数	常勤職員			1		3	1								5
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数				1.0		3.5	1.0	0.8							6.3

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

※生活相談員 1 名は管理者と兼務

施設・事業所別 職員数一覧

令和 7 年 3 月 31 日現在

なぎさ苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員・運転手	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	4	6	37	14	3	3	2	1	2	7				83
	非常勤職員					10	2		1	1	1		3	3	2	1	24
常勤換算による人数		1.0	3.0	4.0	6.0	40.9	15.3	3.0	3.4	2.4	1.8	2.0	8.5	1.2	1.0	0.4	93.9

施設名 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	4		32	14	3	3	2	1	2	7				72
	非常勤職員					10			1	1	1		3	3	1	1	21
常勤換算による人数		0.8	3.0	3.0		35.9	14.0	1.7	2.5	1.9	1.0	1.8	8.5	1.2	0.5	0.4	76.2

※施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。

事業所名 なぎさ苑通所リハビリ事業所

(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計
実人数	常勤職員	1				5		3	3	2		2					16
	非常勤職員					1	2		1	1	1			1			7
常勤換算による人数		0.1				5.8	1.3	0.6	0.2	0.2	0.8	0.2		0.4			9.6

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑 訪問リハビリ 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員				合計
実人数	常勤職員	1						3	3	2							9
	非常勤職員								1	1							2
常勤換算による人数		0.1						0.7	0.7	0.3							1.8

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 なぎさ苑居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員									合計
実人数	常勤職員				6												6
	非常勤職員																0
常勤換算による人数					6.0												6.0

※1名は管理者と兼務

用語解説

※インフォーマルサービス

インフォーマルサービスは、家族や地域社会、ボランティア、NPO、事業者などが提供する介護保険サービス以外のものを指します。介護保険内で行われるフォーマルサービスでは、日常生活上の問題や課題を解決することを目的としており、必要以上にサービスを利用できない制度となっています。インフォーマルサービスは、フォーマルサービスでは対応できない部分をカバーでき、細やかなニーズに応えられるのが特徴です。

※オレンジカフェ

認知症の方やそのご家族、地域住民、介護職員など誰もが集える場所です。気軽に悩み相談や世間話などができるコミュニケーションの場として全国各地で運営されています。

※共生型サービス

共生型サービスとは、2018年度（平成30年度）の関係法令の改正によって、介護保険と障害福祉のサービスを同一の事業所で一体的に提供することができるよう、新たに創設されたサービスです。共生型サービスは介護保険、障害福祉の事業所にとって地域への貢献につながるサービスの一つとなっています。

※クリニカルラダー

クリニカルラダーとは看護師の能力やキャリアを開発する指標のこととなります。クリニカルラダーのラダー(Ladder)とは「はしご」を意味していますので「臨床のはしご」と言われています。

※ケアプランデータ連携システム

厚生労働省の取り組みとして、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間で、ケアプラン（提供票・計画書）やサービス利用票（予定・実績）などをオンラインでやりとりすることのできる情報連携基盤です。

※サーベイランス

施設内感染の発生を防止するために、関連するデータを適時に職員へフィードバックして日常の対策に役立てる活動のことです。データは行政機関への報告のためではなく、施設内の職員が日常の感染管理活動に活用するために収集します。

※サルコペニア

加齢による筋肉量の減少および筋力の低下のことを指します。サルコペニアになると、歩く、立ち上がるなどの日常生活の基本的な動作に影響が生じ、介護が必要になったり、転倒しやすくなったりします。また、各種疾患の重症化や生存期間にもサルコペニアが影響するとされます。筋肉が減り、からだの機能が低下した状態を指し、握力が低下しているか（男性 26 kg未満、女性 18 kg未満）、または歩く速度が低下していて（0.8m/秒以下）、検査で筋肉量が基準より減少していることが認められると、サルコペニアと診断されます。

※社会福祉連携推進法人制度

社会福祉連携推進法人は、社会福祉法人等が社員となり、福祉サービス事業者間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度となります。社会福祉連携推進法人の活用により、福祉・介護人材の確保や、法人の経営基盤の強化、地域共生の取組の推進などが可能となります。

※就労継続支援

障害のある方を就労面で支援するサービスに就労継続支援があります。就労継続支援は、障害のある方に働く場を提供しつつ、必要な知識やスキルを身につけていけるよう支援することを目的としたサービスとなります。

※スローフード

ファストフードに対して唱えられた考え方で、その土地の伝統的な食文化や食材を見直す運動、または、その食品自体を指しています。

※生産性向上の委員会

テクノロジーの導入や介護助手の活用、役割分担の見直しなどをうまく機能させる方策を検討する委員会を設置し、定期的開催していくことを求められています。令和6年度から3年間の経過措置を設けられ、その終了後に義務化となる予定です。

※認知症キャラバンメイト

キャラバンメイトは「認知症サポーター養成講座」を企画・開催し、講師を務めます。講師開催をきっかけに、住民から相談を受けたり関係機関との連携を図ったりすることを通し、地域のリーダー役となる役割が期待されています。

※パーソン・センタード・ケア

パーソン・センタード・ケアとは、認知症のご高齢者を一人の人として尊重し、「その人の視点や立場に立って理解しながらケアを行う」という認知症ケアにおける考え方のひとつです。

※パワーリハビリテーション

パワーリハビリテーションは、マシントレーニングを軽負荷で行い、全身各部の使っていない筋を動かすことにより効果が得られます。よって筋力強化を目的としたトレーニングではありません。

※バーサルインデックス（BI）

ADL維持加算を算定するために、利用者の日常生活動作（ADL）を主観でなく数値で評価する方法で、全10項目より構成されています。

※フレイル

フレイルは、海外の老年医学の分野で使用されている英語の「Frailty（フレイルティ）」が語源となっています。「Frailty」を日本語に訳すと「虚弱」や「老衰」、「脆弱」などを意味します。

フレイルとは、加齢に伴う予備能力の低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態を指します。サルコペニアよりも広い範囲を含む概念で、身体的な問題のほか、認知機能の衰えなどの精

神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題などから成り、要介護状態の前段階と位置づけられています。フレイルの人はサルコペニアを合併することも多く、サルコペニアがフレイルの引き金にもなりかねません。

多くの方は、フレイルを経て要介護状態へ進むと考えられていますが、高齢者においては特にフレイルが発症しやすいことがわかっています。高齢者が増えている現代社会において、フレイルに早く気づき、正しく介入（治療や予防）することが大切といわれています。

※プリセプター

先輩であるベテラン職員がプリセプターとなり、見習いの新人職員（プリセプティー）をマンツーマンで指導する新人研修制度をプリセプター制度といいます。

※放課後児童クラブ

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余剰教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものです。

※ミールラウンド

ミールラウンドとは、お食事の状態を観察し、実際のお食事の摂取状況や食べる姿勢、ひと口量、お食事の形態、ムセの有無などを見てまわります。咀嚼能力、口腔機能、嚥下機能、食事姿勢などをチェックして、どこに問題があるかなどを評価していきます。

問題が見つかり、すぐに改善することができることと、多職種で意見交換をおこない専門的な立場から適切なお食事を決めていく場合があります。

※ユマニチュード

ユマニチュードはフランス発祥のケア技法で、特に認知症の方に効果的だと注目されています。ユマニチュードは基本的な技術である「4つの柱」と、ケアの順番を示す「5つのステップ」で構成される技法のことを指しています。

4つの柱：「見る」「話す」「触れる」「立つ」

5つのステップ：「出合いの準備」「ケアの準備」「知覚の連結」「感情の固定」「再会の約束」

※レスパイトケア

レスパイトケアとは、介護を行っている人を一時的に解放し、休みをとってもらう支援を指します。介護サービスが高齢者を預かることで、ご家族の負担を減らすということです。

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング/人生会議）

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは「人生会議」ともいい、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことを言います。

※ADL（日常生活動作）

日常生活動作(ADL)は、高齢者・障害者が、日常生活上の動作をどの程度行えるのかを示す指標です。すなわち日常生活動作(ADL)が高いほど、自立した生活が可能です。反対に日常生活動作(ADL)が低い方は、日常

生活全般にわたって手厚い介護が必要です。

※BCP対策（事業継続計画）

感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供されることが重要であることから、介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）の作成することを義務化されています。

※BPSD（行動・心理症状）

認知症に関連する行動や心理的な症状を指します。具体的には、不安、抑うつ、幻覚、妄想、攻撃性、徘徊などの多様な症状が含まれます。これらの症状は、患者の環境や人間関係、性格などが影響して現れることが多く、認知症の治療やケアにおいて重要な要素となります。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）

「デジタル変革」とも訳されます。デジタル技術を使って、人手のかかっていたサービスを自動化したり作業を効率化したりするのが「デジタル化」だとすると、DXはデジタル技術やデータを駆使して作業の一部にとどまらず社会や暮らし全体がより便利になるよう大胆に変革していく取り組みを指します。

※eラーニングシステム「サクラボ」

eラーニングとは、インターネットを活用した学習方法のことです。サーバー（学習管理システム）に保存した動画などの教材を配信し、インターネットに接続可能なパソコンやタブレット、スマートフォンなどモバイル端末を利用して受講します。令和4年度より北星会にても導入を行いました。

※HACCP（ハサップ）

令和3年6月1日から、原則として、すべての食品等事業者の皆様にHACCPに沿った衛生管理に取り組んでいくことになりました。食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。

※IADL（手段的日常動作）

IADLは手段的日常生活動作と呼ばれており、自分自身で自立した生活を送る上で欠かせない能力です。IADLはADLよりも複雑な動作も含んでおり、電話応対や買い物などの判断力が求められる動作まで包括しています。IADLが維持できなくなると、やがてADLも維持できなくなっていく、という流れです。

※LIFE（ライフ）

LIFE（科学的介護情報システム）とは、介護サービスやケアの質の向上を目的として、2021年4月から厚労省が新たなデータベースを構築しており、このデータベースは科学的介護システム「LIFE」と呼ばれます。

※OJT

OJTとは「On the Job Training」の略語です。新人や業務未経験者に必要なスキルや知識を、上司や先輩などのトレーナー（OJT担当者）が実務を通じて指導していく教育方法です。

※OFF-JT

OFF-JTは「Off The Job Training」の略称で、職場外研修と訳されます。職場外研修とは、現場から離れて行われる研修やセミナーのことを指し、社内の人材開発担当の部署や外部講師が作成した内容の教育を受け、業務に必要な知識やスキルを習得することを目的とした教育のことです。

※PDCAサイクル

PDCAサイクルのPDCAとは、「Plan(計画)」「Do(実行)」「Check(評価)」「Action(改善)」の四つの言葉の頭文字を取ったものです。

※QOL

QOLとは「Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ)」の略称で、日本語では「生活の質」などと訳され「生きがい」や「満足度」という意味があります。特に医療や介護など患者・ご利用者の望む生活を支える上で重要な考え方で、QOL評価法（SF-36、WHO QOL-26 など）も広まっています。

※Zoom

Zoom（ズーム）は、パソコンやスマートフォンで利用できるビジネス向けのオンライン会議（リモート会議）ツールです。